

HP Service Health Reporter

Windows® オペレーティングシステム用

ソフトウェアバージョン : 9.10

インストールおよび設定ガイド

ドキュメントリリース日 : 2011 年 8 月 (英語版)

ソフトウェアリリース日 : 2011 年 8 月 (英語版)



ご注意

保証

HP 製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載で追加保証を意図するものは一切ありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HP はいかなる責任も負いません。ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

機密性のあるコンピュータソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HP からの有効な使用許諾が必要です。商用コンピュータソフトウェア、コンピュータソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、**FAR12.211** および **12.212** の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

著作権について

© Copyright 2010-2011 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

本製品には、Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>) (英語サイト) によって開発されたソフトウェアが含まれています。

本製品には、Andy Clark によって開発されたソフトウェアが含まれています。

本製品には、asm ソフトウェア (Copyright (c) 2000-2005 INRIA, France Telecom. All rights reserved) が含まれています。

本製品には、jquery.sparkline.js ソフトウェア (Copyright (c) 2007-2009, Adolfo Marinucci. All rights reserved) が含まれています。

商標について

Adobe® は、Adobe Systems Incorporated の商標です。

Microsoft® および Windows® は、Microsoft Corporation の米国登録商標です。

UNIX® は、The Open Group の登録商標です。

Java は、Oracle Corporation およびその関連会社の登録商標です。

文書の更新

本書の表紙には次の識別情報が含まれています。

- ソフトウェアのバージョンを示すソフトウェアバージョン番号。
- 文書が更新されるごとに変更される文書発行日。
- 当該ソフトウェアバージョンのリリース日を示す、ソフトウェアリリース日。

最新の更新を確認する、あるいは使用している文書が最新版であるかどうかを確認するには、次の URL を参照してください。

<http://support.openview.hp.com/selfsolve/manuals>

このサイトを使用するには HP Passport に登録してサインインする必要があります。HP Passport ID を登録するには、次の URL を参照してください。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html> (英語サイト)

または、HP Passport のログインページで **[New users - please register]** リンクをクリックしてください。

適切な製品サポートサービスをお申し込みいただいたお客様は、更新版または最新版をご入手いただけます。詳細は、HP の営業担当にお問い合わせください。

サポート

HP ソフトウェアのサポート Web サイトは次のとおりです。

<http://support.openview.hp.com>

この Web サイトでは、連絡先情報や、HP ソフトウェアが提供する製品、サービスおよびサポートの詳細を提供しています。

HP ソフトウェアのオンラインサポートでは、セルフソルブ機能を提供しています。ビジネス管理に必要な対話型技術サポートツールにアクセスするための迅速かつ効率的な方法を提供します。弊社サポートの大切なお客様として、サポート Web サイトを使用して次のことが行えます。

- 興味のあるナレッジ文書の検索
- サポート事例と向上のためのリクエストの送信および追跡
- ソフトウェアパッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HP サポート契約の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の確認
- ソフトウェアを利用しているほかのお客様との討論への参加
- ソフトウェアトレーニングの検索と登録

サポート領域のほとんどでは HP Passport ユーザとして登録しサインインする必要があります。HP Passport ID を登録するには、次の URL を参照してください。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html> (英語サイト)

アクセスレベルの詳細については、次の URL を参照してください。

http://support.openview.hp.com/access_level.jsp

目次

| | | |
|---|---|----|
| 1 | はじめに | 9 |
| | HP SH Reporter のコンポーネント | 10 |
| | HP SH Reporter デプロイメントシナリオ | 10 |
| | Service and Operations Bridge | 11 |
| | Application Performance Management | 11 |
| | HPOM | 12 |
| | インストールフローチャート | 13 |
| | インストールメディア | 14 |
| | HP SH Reporter ドキュメントセット | 14 |
| 2 | インストールの前提条件 | 15 |
| | ハードウェア要件 | 15 |
| | ソフトウェア要件 | 16 |
| | Xcelsius 2008 のインストールのハードウェアおよびソフトウェア要件 | 17 |
| | オペレーティングシステム要件 | 17 |
| | タスク 1: オペレーティングシステムソフトウェアの更新 | 17 |
| | Microsoft .NET Framework 2.0 のインストール | 18 |
| | Windows Server 2003 x64 更新プログラムのインストール | 19 |
| | タスク 2: ネットワーク接続性のためのポート識別 | 20 |
| | タスク 3: ウイルス対策の無効化 | 20 |
| | タスク 4: システムの完全修飾ドメイン名 (FQDN) の確認 | 21 |
| | Web ブラウザー要件 | 22 |
| | タスク 1: ActiveX コントロールの有効化 | 22 |
| | タスク 2: JavaScript コントロールの有効化 | 22 |
| 3 | HP SH Reporter のインストール | 25 |
| | プレインストールチェックリスト | 25 |
| | インストールの手順 | 26 |

| | |
|--|-----------|
| Sybase IQ のリモートインストール | 34 |
| Xcelsius のインストール (オプション) | 39 |
| 4 HP SH Reporter の設定 | 41 |
| Sybase IQ をインストールした場合の HP SH Reporter のインストール後の設定作業 ... | 41 |
| タスク 1: 複数のプロファイルデータベースをサポートする HP SH Reporter の設定.. | 43 |
| タスク 2: 管理コンソールの起動 | 44 |
| タスク 3: データベース接続の設定 | 45 |
| タスク 4: データベーススキーマの作成 | 47 |
| タスク 5: 管理データベースユーザーアカウントの作成 | 49 |
| タスク 6: Sybase IQ ライセンスのタイプの確認 | 50 |
| リモート Sybase IQ をインストールした場合の HP SH Reporter のインストール後 の設定作業 | 52 |
| タスク 1: Sybase IQ データベースの起動 | 54 |
| タスク 2: 複数のプロファイルデータベースをサポートする HP SH Reporter の設定.. | 54 |
| タスク 3: 管理コンソールの起動 | 56 |
| タスク 4: データベース接続の設定 | 57 |
| タスク 5: データベーススキーマの作成 | 59 |
| タスク 6: Sybase IQ データベースの再起動 | 61 |
| タスク 7: 管理データベースユーザーアカウントの作成 | 64 |
| タスク 8: Sybase IQ ライセンスのタイプの確認 | 65 |
| デスクトップヒープメモリーの設定 | 66 |
| 5 コンテンツパックの選択およびインストール | 67 |
| HP SH Reporter データ処理ストリームの停止 | 69 |
| コンテンツパックのインストール | 70 |
| 6 データ収集のための HP SH Reporter の設定 | 75 |
| HPOM デプロイメントシナリオの場合の HP SH Reporter の設定 | 76 |
| 事前に必要な作業 | 76 |
| ドメインユーザー用の HP SH Reporter サービスの設定 | 76 |
| HPOM データベースサーバーでのデータベースユーザーアカウントの作成 | 78 |
| タスク 1: HPOM サービス定義ソースの設定 | 87 |
| HPOM データソース接続の設定 | 87 |
| タスク 2: エンタープライズアプリケーションデータソースの設定 | 90 |
| HPOM データベース接続の設定 | 90 |
| HP Performance Agent データソースの設定 | 91 |

| | |
|---|------------|
| Service and Operations Bridge のデプロイメントシナリオの場合の HP SH Reporter の設定 | 94 |
| タスク 1: トポロジービューのデプロイメント | 94 |
| コンテンツパックの CI 属性の有効化 | 98 |
| タスク 2: HP SH Reporter との統合のための SiteScope の設定 | 101 |
| タスク 3: RTSM サービス定義ソースの設定 | 103 |
| タスク 4: エンタープライズアプリケーションデータソースの設定 | 105 |
| プロファイルデータベースのデータソース接続の設定 | 105 |
| HP Performance Agent のデータソース接続の設定 | 108 |
| HPOM データベース接続の設定 | 109 |
| HP OMi データベース接続の設定 | 110 |
| Application Performance Management デプロイメントシナリオの場合の HP SH Reporter の設定 | 114 |
| ファイアウォール環境内またはプロキシ経由の HP Performance Agent のデータ収集の設定 | 115 |
| セキュアモードでのデータ収集のための HP Performance Agent の設定 | 115 |
| レポートドリル機能設定の設定 | 116 |
| HP SH Reporter 管理者アカウントのパスワードの作成 | 117 |
| Web サービスのログイン画面のプライバシー情報の表示 | 118 |
| 7 インストールの検証 | 121 |
| HP SH Reporter サービスのチェック | 121 |
| HP SH Reporter データベースのチェック | 124 |
| トポロジー収集のステータスのチェック | 128 |
| インストールされたコンテンツパックのチェック | 129 |
| コンテンツパックのストリームステータスのチェック | 130 |
| SAP BusinessObjects ユニバースのチェック | 132 |
| SAP BusinessObjects InfoView のレポートフォルダーのチェック | 133 |
| 8 HP SH Reporter のアンインストール | 135 |
| コンテンツパックのアンインストール | 135 |
| HP SH Reporter のアンインストール | 137 |
| リモート Sybase IQ のアンインストール | 139 |
| HP SH Reporter の手動アンインストール | 141 |
| 9 HP SH Reporter インストールのトラブルシューティング | 145 |

| | |
|--|-----|
| インストールのログファイル | 145 |
| HP SH Reporter ログファイル | 145 |
| SAP BusinessObjects Enterprise のログファイル | 145 |
| Sybase IQ のログファイル | 146 |
| MySQL のログファイル | 146 |
| インストール後の設定ログファイル | 146 |
| インストール後のログファイル | 146 |
| HP SH Reporter サービスのログファイル | 147 |
| HP SH Reporter ログファイル | 147 |
| インストール問題のトラブルシューティング | 147 |
| 問題: Sybase IQ データベースのクラッシュに関する問題 | 147 |
| 問題: 仮想マシンで環境変数が設定されない | 149 |
| 問題: あるセッションで設定した環境変数が、他のセッションで表示されない | 149 |
| 問題: データベーススキーマの作成にかなり時間がかかる | 149 |
| 問題: コンテンツパックのインストールが失敗する | 150 |
| 問題: コンテンツパックのアンインストールが失敗する | 150 |
| 問題: Sybase IQ のアンインストールが失敗する | 151 |
| 問題: ネイティブ Windows インストーラーのエラーでインストールが失敗する | 152 |
| 問題: SAP BOBJ のエラーでインストールが失敗する | 153 |
| 問題: リモート Sybase IQ データベースの作成が失敗する | 153 |
| 問題: 管理コンソールにログオンできない | 154 |
| 問題: ウイルス対策ソフトウェアで MySQL エラーが起きる | 155 |
| 問題: 管理コンソールの動作が断続的になる | 155 |
| A 付録 | 157 |
| コンテンツパックの依存関係 | 157 |
| サポートされる HP 製品 | 158 |
| Service and Operations Bridge | 159 |
| Application Performance Management | 161 |
| HPOM | 162 |
| 10 お客様からのご意見をお待ちしております。 | 165 |

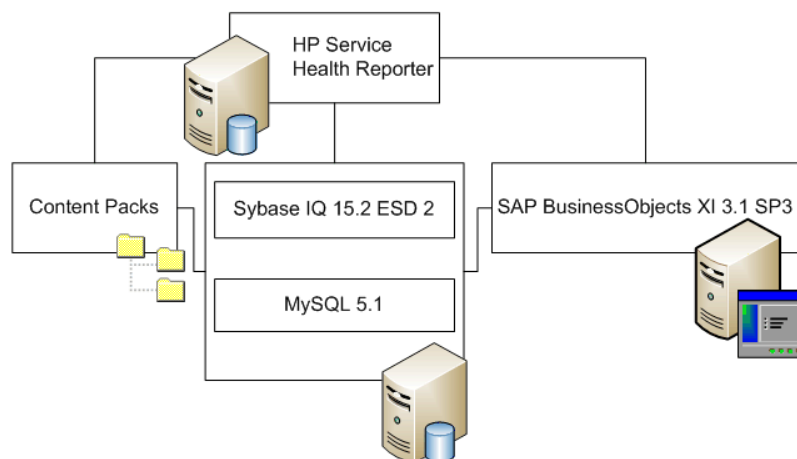
1 はじめに

HP Service Health Reporter (HP SH Reporter) は、クロスドメインの、履歴に基づいたインフラストラクチャパフォーマンスレポートソリューションです。Business Service Management (BSM) ビジネスサービスおよびビジネスアプリケーションまたは HP Operations Manager (HPOM) ノードグループから基盤となるインフラストラクチャへのトップダウンレポートと、インフラストラクチャから影響を受けるビジネスサービスおよびビジネスアプリケーションまたはノードグループへのボトムアップレポートの両方を表示します。トポロジー情報を利用して、基盤となるインフラストラクチャの稼働状態、パフォーマンス、および可用性が、ビジネスサービス、ビジネスアプリケーション、またはノードグループに長期的にどのような影響を与えるかを示します。

HP SH Reporter によって作成されるレポートを使用すると、さまざまな IT 要素の使用状況とパフォーマンスのデータを比較および分析し、次のような目標を達成することができます。

- IT インフラストラクチャの負荷と効率を分析する。
- パフォーマンスを予測し、キャパシティと使用率を計画する。
- ビジネスおよび IT 環境に影響する問題のパターンを識別する。

HP SH Reporter のコンポーネント



HP は、HP SH Reporter に付属しているバージョンの Sybase IQ と SAP BusinessObjects のみをサポートします。HP は、お客様のシステム内にあるこれらの製品の既存のライセンスはサポートしません。

HP SH Reporter およびそのアーキテクチャと機能の詳細については、『HP Service Health Reporter コンセプトガイド』を参照してください。

HP SH Reporter デプロイメントシナリオ

HP SH Reporter は次のような環境にデプロイできます。

- Service and Operations Bridge (SaOB) が存在する環境
- Application Performance Management (APM) が存在する環境
- HPOM が存在する環境

Service and Operations Bridge

このデプロイメントシナリオでは、**Run-time Service Model (RTSM)** が、**HP SH Reporter** のトポロジー情報のソースになります。**RTSM** がこのデプロイメント環境内にインストールされている必要があります。**RTSM** は、オペレーショナルデータベース (ODB) とも呼ばれます。

このデプロイメントシナリオでは次のような **HP** 製品がサポートされます。

- データ取得製品としての **HP SiteScope**、**Real User Monitor (RUM)**、**Business Process Monitor (BPM)** などの 1 つ以上のアプリケーションを含む **BSM** プラットフォーム
- 次のスマートプラグインを含む **HPOM**
 - Oracle database Smart Plug-in
 - Microsoft SQL Server database Smart Plug-in
 - IBM WebSphere Application Server Smart Plug-in
 - Oracle WebLogic Application Server Smart Plug-in
 - Microsoft Active Directory Smart Plug-in
 - Microsoft Exchange Smart Plug-in
 - Systems Infrastructure Smart Plug-in
 - Virtualization Infrastructure Smart Plug-in
- **HP Performance Agent** または **HP Operations Agent**
- **BSM** ソリューションの **Operations** ブリッジとしての **BSM** オペレーション管理 (OMi)

Service and Operations Bridge のデプロイメントシナリオの詳細については、『**HP SH Reporter** コンセプトガイド』を参照してください。

Application Performance Management

このデプロイメントシナリオでは、**Run-time Service Model (RTSM)** が、**HP SH Reporter** のトポロジー情報のソースになります。**RTSM** がこのデプロイメント環境内にインストールされている必要があります。

このデプロイメントシナリオでサポートされる **HP** 製品には、データ取得製品としての **HP SiteScope**、**RUM**、**BPM** などの 1 つ以上のアプリケーションを含む **BSM** プラットフォームが含まれます。

Application Performance Management のデプロイメントシナリオの詳細については、『HP SH Reporter コンセプトガイド』を参照してください。

HPOM

HPOM のデプロイメントシナリオでは、HPOM データベースサーバーが、HP SH Reporter のトポロジー情報のソースになります。HPOM がこのデプロイメント環境内にインストールされている必要があります。HPOM データベースサーバーには次のものが含まれる可能性があります。

- HPOM for Windows
- HPOM for Unix
- HPOM for Linux
- HPOM for Solaris

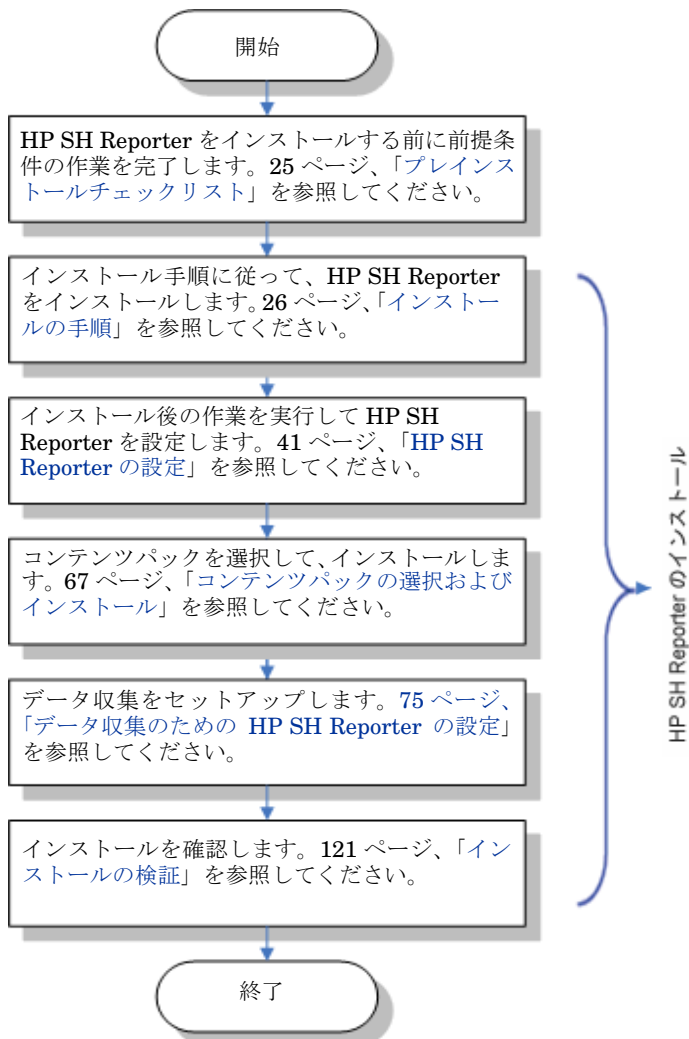
このデプロイメントシナリオでは次のような HP 製品がサポートされます。

- 次のスマートプラグインを含む HPOM
 - Oracle database Smart Plug-in
 - Microsoft SQL Server database Smart Plug-in
 - IBM WebSphere Application Server Smart Plug-in
 - Oracle WebLogic Application Server Smart Plug-in
 - Microsoft Active Directory Smart Plug-in
 - Microsoft Exchange Smart Plug-in
 - Systems Infrastructure Smart Plug-in
 - Virtualization Infrastructure Smart Plug-in
- HP Performance Agent または HP Operations Agent

HPOM のデプロイメントシナリオの詳細については、『HP SH Reporter コンセプトガイド』を参照してください。

インストールフローチャート

フローチャート内にあるリンクをクリックすると、関連するセクションが表示されます。



インストールメディア

HP SH Reporter のインストールメディアには、HP Service Health Reporter 9.10 Windows インストールファイル、Sybase IQ 15.2 ESD 2、SAP BusinessObjects XI 3.1 Service Pack 3 (SP3)、Fix Pack 3.5、MySQL 5.1、およびコンテンツパックが含まれています。インストールメディアには、Xcelsius のインストールファイルも含まれています。

HP SH Reporter ドキュメントセット

次に、HP SH Reporter ドキュメントセット内のマニュアルの一覧を示します。

- コンセプトガイド (PDF フォーマット)
- インストールおよび設定ガイド (PDF フォーマット)
- 管理者オンラインヘルプ (HTML フォーマット)
- ユーザーオンラインヘルプ (HTML フォーマット)
- レポートハンドブック (PDF フォーマット)
- リリースノート (HTML フォーマット)
- Troubleshooting Guide (PDF および HTML フォーマット)

リリースノートを含む PDF マニュアルは、インストールメディアの **Documentation** ディレクトリに収録されています。インストール後に、<インストールディレクトリ>\PMDB\Documentation フォルダーにあるマニュアルを使用できます。

ここでの <インストールディレクトリ> は、HP SH Reporter をインストールした場所を示します。

[スタート] → [プログラム] → [HP ソフトウェア] → [SH Reporter] → [ドキュメント] の順にクリックして、これらのドキュメントを開くこともできます。

最近の更新があるかどうかを確認する、または最新版のドキュメントを使用しているかどうかを確認するには、以下の URL をご覧ください。

<http://h20230.www2.hp.com/selfsolve/manuals>

2 インストールの前提条件

ハードウェア要件

| コンポーネント | 最小要件 |
|--|--|
| プロセッサのタイプ | 2.00GHz 以上 (x64 ビット) Intel Xeon または同等 |
| CPU の数 | 4 |
| 物理メモリ | 8GB の RAM |
| スワップ領域 | システムで管理されるサイズ |
| 一時ディスク領域 | 100MB |
| HP SH Reporter がインストールされるドライブの空きディスク領域： <ul style="list-style-type: none">• HP SH Reporter のインストール用• SAP BusinessObjects のインストール用• Sybase IQ データファイルのインストール用 | 15GB 10GB 16GB |
| C ドライブの空きディスク領域 (HP SH Reporter が C ドライブ以外のドライブにインストールされる場合) | 5GB |



Sybase IQ を別のドライブにインストールする場合は、16GB の空き領域が必要です。CPU やメモリーなどの Sybase IQ システムの他の最低限のハードウェア要件は、[ハードウェア要件](#)の表に記載されている HP SH Reporter をインストールしているマシンの要件と同じです。

ソフトウェア要件

| コンポーネント | バージョン |
|---------------------|--|
| サポートされるオペレーティングシステム | <ul style="list-style-type: none">• Microsoft Windows Server 2008 x64 Enterprise Edition Service Pack 2• Microsoft Windows Server 2003 x64 Enterprise Edition Service Pack 2• Microsoft Windows Server 2008 R2 x64 Enterprise Edition Service Pack 1 |
| Web ブラウザー | <ul style="list-style-type: none">• Internet Explorer 7.0• Internet Explorer 8.0 |

Xcelsius 2008 のインストールのハードウェアおよびソフトウェア要件

| コンポーネント | バージョン |
|--------------|---|
| プロセッサのタイプ | 1.0GHz プロセッサ |
| 物理メモリ | 1GB の RAM |
| ディスク領域 | 350MB |
| オペレーティングシステム | 以下のオペレーティングシステムがサポートされます。 <ul style="list-style-type: none">• Microsoft Windows XP• Microsoft Windows Server 2003• Microsoft Windows Vista |
| ソフトウェア | 以下のバージョンの Microsoft Office がサポートされます。 <ul style="list-style-type: none">• Microsoft Office 2003• Microsoft Office XP• Microsoft Office 2007 |

オペレーティングシステム要件

HP SH Reporter をインストールする前に、オペレーティングシステムソフトウェアを更新し、ネットワーク接続を確立して、ウイルス対策ソフトウェアを無効にする必要があります。

タスク 1: オペレーティングシステムソフトウェアの更新

すべての必要な Windows オペレーティングシステムのパッチをインストールします。最新のパッチについては HP の営業担当者にお問い合わせください。

HP SH Reporter を Windows Server 2003 x64 SP2 オペレーティングシステム上にインストールする場合は、次の手順を実行する必要があります。

- Microsoft .NET Framework 2.0 (64 ビット版) をインストールします。
- Window Server 2003 x64 更新プログラム (KB925336) をインストールします。



フランス語版の Windows Server 2003 x64 SP2 オペレーティングシステム上に HP SH Reporter をインストールする場合は、これらのパッチに加えて、WindowsServer2003.WindowsXP-KB971812-x64-FRA.exe パッチファイルもインストールする必要があります。



Windows Server 2008 システムをインストールする場合、これらのパッチはオペレーティングシステムにバンドルされているので、インストールする必要はありません。

Microsoft .NET Framework 2.0 のインストール

次の手順を実行します。

- 1 管理者としてホストシステムにログオンします。
- 2 [スタート] → [プログラム] → [Internet Explorer] をクリックします。Internet Explorer が開きます。
- 3 アドレスバーに次の URL を入力して、Microsoft ダウンロードセンターの Web サイトにアクセスします。

<http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?FamilyID=B44A0000-ACF8-4FA1-AFFB-40E78D788B00&displaylang=en>



URL は、スペースを入れずに 1 行に入力する必要があります。

- 4 [ダウンロード] をクリックして、.NET Framework version 2.0 (x64) 再頒布可能パッケージをダウンロードします。
- 5 ダウンロードが完了したら、ファイルがダウンロードされた場所を参照して、NetFx64.exe セットアップファイルをダブルクリックします。Microsoft .NET Framework 2.0 (x64) セットアップウィザードが開きます。
- 6 [Microsoft .NET Framework 2.0 (x64) セットアップへようこそ] ページで、[次へ] をクリックして続行します。使用許諾契約書ページが開きます。
- 7 使用許諾契約書を確認した後で、[同意する] チェックボックスをオンにし、[インストール] をクリックします。[コンポーネントのインストール] ページが表示されます。

- 8 コンポーネントをインストールした後に、[セットアップの完了] ページが開きます。[完了] をクリックしてインストールを完了します。

Windows Server 2003 x64 更新プログラムのインストール

次の手順を実行します。

- 1 管理者としてホストシステムにログオンします。
- 2 [スタート] → [プログラム] → [Internet Explorer] をクリックします。Internet Explorer が開きます。
- 3 アドレスバーに次の URL を入力して、Microsoft ダウンロードセンターの Web サイトにアクセスします。

```
http://www.microsoft.com/downloads/  
details.aspx?FamilyId=4BBC5917-C1AC-402C-86D9-0A8E3B9921F  
F&displaylang=en
```

▶ URL は、スペースを入れずに 1 行に入力する必要があります。

- 4 [ダウンロード] をクリックして、更新プログラムをダウンロードします。
- 5 ダウンロードが完了したら、ファイルがダウンロードされた場所を参照して、WindowsServer2003.WindowsXP-KB925336-x64-ENU.exe セットアップファイルをダブルクリックし、オペレーティングシステムの更新プログラムをインストールします。Windows x64 用修正プログラム (KB925336) ウィザードが開きます。
- 6 [次へ] をクリックして続行します。[使用許諾条件] ページが開きます。
- 7 使用許諾契約書を読み、[同意する] を選択し、[次へ] をクリックして続行します。[システムの更新] ページが開きます。
- 8 [完了] をクリックしてインストールを完了します。
- 9 システムを再起動します。

タスク 2: ネットワーク接続性のためのポート識別

環境内の IT 要素のすべてのパフォーマンス関連データを保存するために使用される HP SH Reporter データベースは、さまざまなサービスのためにいくつかのデフォルトのポートを使用します。

| サービス | デフォルトのポート番号 |
|--|-------------|
| HP SH Reporter Message Broker | 21401 |
| HP SH Reporter DB Logger Service | 21408 |
| HP SH Reporter Collection Service | 21409 |
| HP SH Reporter IM Service | 21410 |
| HP SH Reporter Timer | ポートなし |
| HP SH Reporter | 21411 |
| HP SH Reporter Sybase Service | 21424 |
| Sybase IQ Agent 15.2 | 21423 |
| MySQL | 3306 |
| Apache Tomcat 5.5.20 (SAP BOBJ アプリケーションサービス) | 8080 |
| Server Intelligence Agent (HOML01GEATON) | 6400 |

▶ ファイアウォールソフトウェアをインストールする場合は、ファイアウォールで HP SH Reporter のポートを開く必要があります。手順については、ファイアウォールのマニュアルを参照してください。

タスク 3: ウイルス対策の無効化

ウイルス対策アプリケーションは、HP SH Reporter のインストールの妨げになることがあります。インストールプロセス中に、ウイルス対策ソフトウェアが、インストールの一部として実行されている Visual Basic スクリプトをウイルスとして検出し、インストールプロセスを停止する場合があります。

そのため、実行されているウイルス対策ソフトウェアがある場合は、一時的に無効にします。

ウイルス対策アプリケーションを一時的に無効にするには、次の手順を実行します。

- 1 システムトレイで、システムにインストールされているそれぞれのウイルス対策のアイコンを右クリックします。
- 2 ポップアップメニューから、ウイルス対策を無効にするオプションを選択するか（利用可能な場合）、[**プロパティ**] を選択します。[プロパティ] ウィンドウが開きます。
- 3 ウイルス対策を無効にするオプションをクリックします。

HP SH Reporter のインストールが終了したら、ウイルス対策ソフトウェアを再び有効にします。

タスク 4: システムの完全修飾ドメイン名 (FQDN) の確認

HP SH Reporter のインストールを実行する前に、DNS の参照で、ホストシステムの正確な FQDN が返されることを確認する必要があります。DNS の参照のエントリがシステムのホスト名と異なっている場合、結果として管理コンソールでのログインが失敗する可能性があります。これは、SAP BOBJ のインストール中に、サーバー/ サービスの作成およびそれらの登録のためにシステムのホスト名が使用されるために発生します。

ホストシステムの FQDN を確認するには、次の手順に従います。

- 1 [**スタート**] → [**ファイル名を指定して実行**] をクリックします。[ファイル名を指定して実行] ダイアログボックスが開きます。
- 2 [**名前**] フィールドに **cmd** と入力し、[**Enter**] キーを押します。コマンドプロンプトウィンドウが開きます。
- 3 次のコマンドを入力して、システムのホスト名を確認します。

```
hostname
```

システムのホスト名をメモします。

- 4 次のコマンドを入力して、システムの IP アドレスを確認します。

```
ipconfig
```

- 5 次のコマンドを入力して、表示された IP アドレスの FQDN を確認します。

```
nslookup <IP アドレス>
```

<IP アドレス> は、ホストシステムの IP アドレスです。

DNS 参照コマンドを実行した後に表示される名前が、**HOSTNAME** コマンドを実行した後に表示される名前と一致していることを確認します。名前が一致していない場合は、システムのホスト名を変更する必要があります。

Web ブラウザー要件

Internet Explorer 7.x および 8.x で HP SH Reporter 管理コンソールを表示するには、ActiveX および JavaScript コントロールを有効にする必要があります。

タスク 1: ActiveX コントロールの有効化

Internet Explorer 7.x/8.x で ActiveX コントロールを有効にするには、次の手順を実行します。

- 1 Internet Explorer を開きます。
- 2 [ツール] → [インターネット オプション] をクリックします。[インターネット オプション] ダイアログボックスが開きます。
- 3 [セキュリティ] タブで [レベルのカスタマイズ] ボタンをクリックします。
- 4 [ActiveX コントロールとプラグイン] セクションまで下にスクロールします。
- 5 [ActiveX コントロールとプラグイン] の下にある利用可能なすべてのオプションについて [有効にする] を選択します。
- 6 [OK] をクリックします。
- 7 警告メッセージボックスで [はい] をクリックします。
- 8 [適用] をクリックし、[OK] をクリックします。

タスク 2: JavaScript コントロールの有効化

Internet Explorer 7.x/8.x で JavaScript コントロールを有効にするには、次の手順を実行します。

- 1 Internet Explorer を開きます。
- 2 [ツール] → [インターネット オプション] をクリックします。[インターネット オプション] ダイアログボックスが開きます。
- 3 [セキュリティ] タブで [レベルのカスタマイズ] ボタンをクリックします。
- 4 [スクリプト] セクションまで下にスクロールします。

- 5 [**スクリプト**] の下にある利用可能なすべてのオプションについて [**有効にする**] を選択します。
- 6 [**OK**] をクリックします。
- 7 警告メッセージボックスで [**はい**] をクリックします。
- 8 [**適用**] をクリックし、[**OK**] をクリックします。

3 HP SH Reporter のインストール

プレインストールチェックリスト


HP SH Reporter のインストールに進む前に、以下のタスクが完了していることを確認してください。


| | |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> 必要なインストールメディアがそろっている。 | 14 ページ、「インストールメディア」を参照してください。 |
| <input type="checkbox"/> ハードウェアが HP SH Reporter の要件を満たしている。 | 15 ページ、「ハードウェア要件」を参照してください。 |
| <input type="checkbox"/> HP SH Reporter をサポートするオペレーティングシステムと Web ブラウザーを使用している。 | 16 ページ、「ソフトウェア要件」を参照してください。 |
| <input type="checkbox"/> オペレーティングシステムの必要なパッチをインストールした。 | 17 ページ、「タスク 1: オペレーティングシステムソフトウェアの更新」を参照してください。 |
| <input type="checkbox"/> ネットワークおよびクライアントの接続のためのポート番号を確認した。 | 20 ページ、「タスク 2: ネットワーク接続性のためのポート識別」を参照してください。 |
| <input type="checkbox"/> HP SH Reporter のインストールの妨げになる可能性があるすべてのウイルス対策アプリケーションを無効にした。 | 20 ページ、「タスク 3: ウイルス対策の無効化」を参照してください。 |
| <input type="checkbox"/> HP SH Reporter をインストールするホストシステムの FQDN を確認した。 | 21 ページ、「タスク 4: システムの完全修飾ドメイン名 (FQDN) の確認」を参照してください。 |
| <input type="checkbox"/> Web ブラウザーの必要なコントロールを有効にした。 | 22 ページ、「Web ブラウザー要件」を参照してください。 |

| | |
|---|---|
| <p>□ システムの日付が現在の日付であることを確認した。</p> | <p>HP SH Reporter のインストール後にシステム日付を変更する場合は、すべての HP SH Reporter サービスを再起動することを確認してください。</p> |
| <p>□ HP SH Reporter がシステムにまだインストールされていないことを確認した。</p> | <p>HP SH Reporter がシステム上に存在している場合は、インストールに進む前にそれをアンインストールします。アンインストールの手順については、137 ページ、「HP SH Reporter のアンインストール」を参照してください。</p> |
| <p>□ リモート Sybase IQ のインストールを実行する予定の場合に Sybase IQ がリモートシステムにまだインストールされていないことを確認した。</p> | <p>Sybase IQ がリモートシステムに存在する場合、インストールに進む前にそれをアンインストールします。アンインストールの手順については、139 ページ、「リモート Sybase IQ のアンインストール」を参照してください。</p> |

インストールの手順


HP SH Reporter をインストールするには、次の手順を実行します。

- 1 ホストシステムにログオンします。管理者の権限を持っている必要があります。
 - 2 次のいずれかの手順を実行してインストールプロセスを開始します。
 - インストールメディアを使用して **HP SH Reporter** をインストールするには、**HP SH Reporter DVD** を挿入します。自動実行機能によって、**HP Software Installer** が自動的に起動されます。
 - **HP Web** サイトからダウンロードしたインストールファイルを使用して **HP SH Reporter** をインストールするには、**HP-SHR_9.10_setup.exe** ファイルをダブルクリックします。
-  ネットワーク経由の **HP SH Reporter** のインストールはサポートされていません。インストールファイルのサイズが大きいためインストールを実行するために非常に大きなネットワーク帯域幅が必要になります。

 システム時刻が夏時間 (DST) の設定に変更されているときの **HP SH Reporter** のインストールはサポートされていません。必要な DST の設定変更を行う前または行った後に製品をインストールすることができます。

HP Software Installer によって、システムに HP SH Reporter のインストールの妨げになる可能性があるアプリケーションまたはサービスがないかチェックされます。HP Software Installer によって妨げになるものが検出された場合、[アプリケーションの要件チェックの警告] ウィンドウが表示されます。

- 3 詳細を表示し、エラーまたは警告を解決または無視します。
 - a 特定の警告またはエラーをクリックして詳細を表示します。
 - b 詳細説明に従ってエラーまたは警告を解決または無視します。
 - インストールを終了してエラーを解決する場合は、[**終了**] をクリックします。
 - 警告を無視してインストールを続行する場合は、[**続行**] をクリックします。

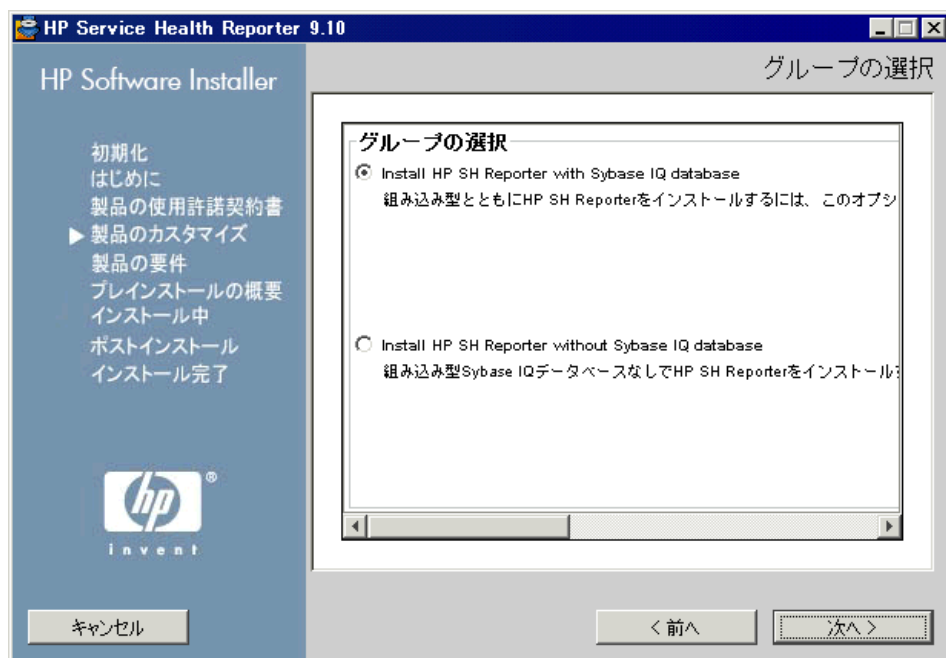
 これが **HP SH Reporter** の最初のインストールではない場合は、**HP Software Installer** によって、最初のインストール中に作成したインストール設定ファイルを使用するように指示するプロンプトが表示されます。このファイル内の値を使用する場合は、インストールの設定のメッセージボックスで [**はい**] をクリックします。インストール設定ファイルを使用せずに続行する場合は、[**いいえ**] をクリックします。

[はじめに (インストール)] ページが開きます。

[はじめに (インストール)] ページには、メディアの場所 (インストールファイルの場所) およびインストールログファイルの場所が表示されます。

- 4 概要を確認し、[**次へ**] をクリックして続行します。[使用許諾条件] ページが開きます。

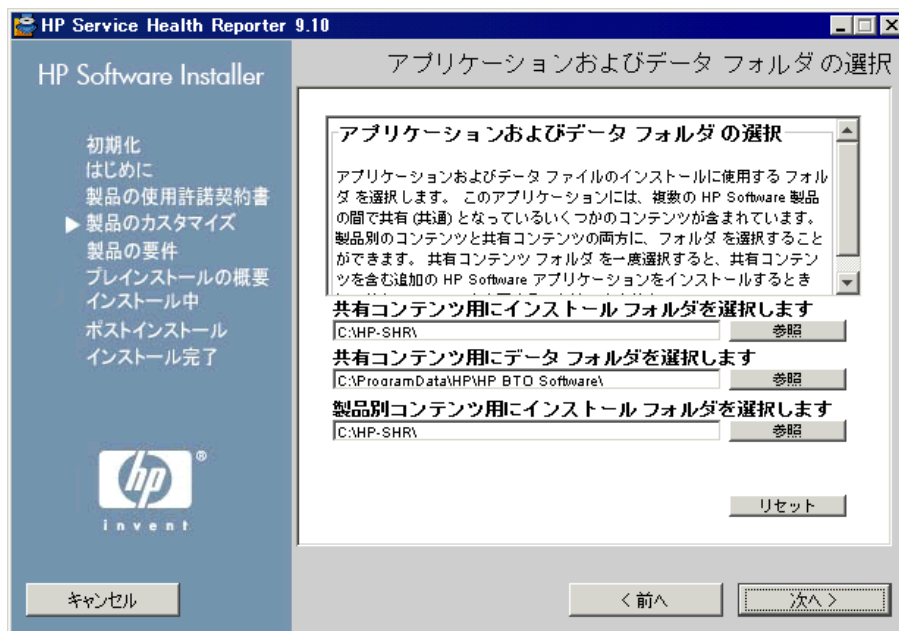
- 5 条件を確認し、[**使用許諾条件に同意します**]を選択してから、[**次へ**]をクリックして続行します。[**グループの選択**]ページが開きます。



!! HP SH Reporter とリモート Sybase IQ を同じシステムにインストールすることはできません。

- 6 要件に応じて次のいずれかのオプションを選択します。
- Sybase IQ を HP SH Reporter と同じシステム上にインストールする場合は、[**HP SH Reporter を Sybase IQ データベースとともにインストールする**] オプションを選択します。
 - Sybase IQ をリモートシステムにインストールする場合は、[**HP SH Reporter を Sybase IQ データベースなしでインストールする**] オプションを選択します。リモート Sybase IQ インストールを実行する手順については、34 ページ、「**Sybase IQ のリモートインストール**」を参照してください。

[次へ] をクリックします。[アプリケーションおよびデータフォルダの選択] ページが開きます。

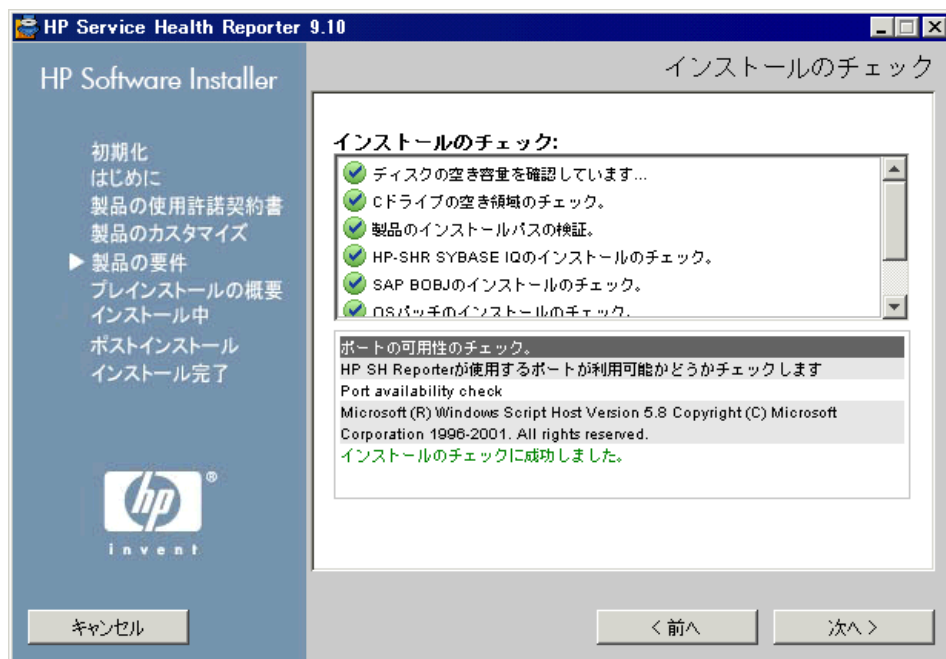


HP Software Installer によってシステムに他にインストールされている HP 製品がないかチェックされます。

- 他の HP 製品がインストールされていない場合は、共有される HP コンテンツのアプリケーションファイルがデフォルトのフォルダーである %OvInstallDir% にインストールされます。
 - ▶ システムにインストールされている HP ソフトウェア製品がある場合は、HP SH Reporter によって共有コンポーネントのインストールディレクトリを指定するように要求するメッセージが表示されません。
 - 共通の HP ソフトウェアデータファイルがデフォルトのフォルダーである %OvDataDir% にインストールされます。
 - ▶ HP Business Service Management がシステムにインストールされている場合は、HP SH Reporter によって製品専用のインストールディレクトリを指定するように要求するメッセージが表示されません。
 - HP SH Reporter のデフォルトのインストール場所は C:\HP-SHR\ です。
- 7 デフォルトの場所を受け入れるか、HP SH Reporter をインストールする場所を指定します。
- デフォルトの場所を受け入れてインストールを続行する場合は、[次へ] をクリックします。

- または、[参照] をクリックして場所を選択または指定し、[次へ] をクリックしてインストールを続行します。パスにスペースまたは特殊文字が含まれていないことを確認します。
- 指定した場所をデフォルトの状態にリセットする場合は、[リセット] をクリックします。

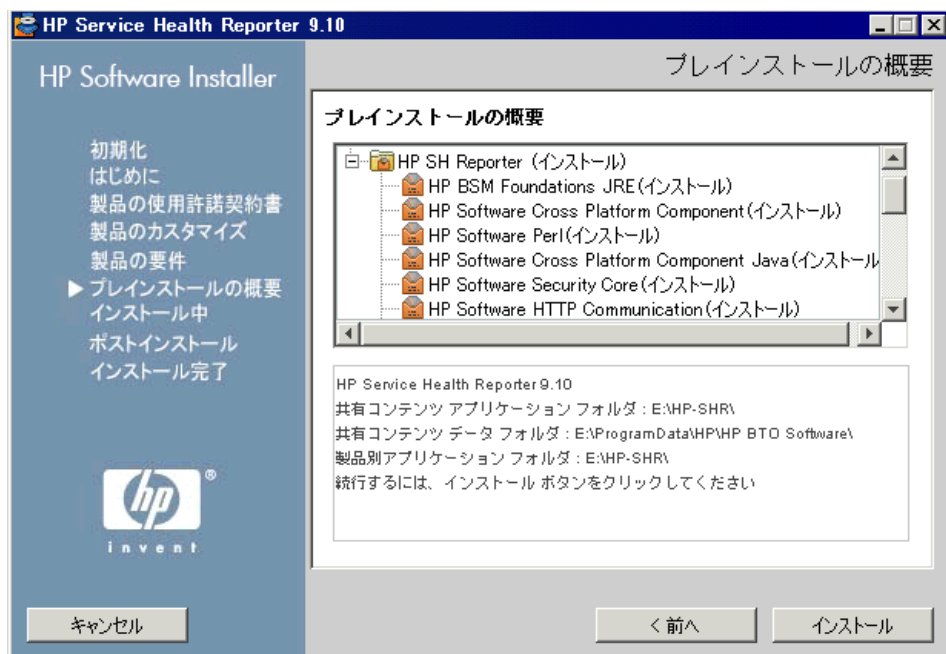
[インストールのチェック] ページが表示されます。HP Software Installer によって、利用可能なディスク領域がチェックされ、さらに Sybase IQ、SAP BusinessObjects Enterprise、オペレーティングシステムのパッチ、.NET Framework 2.0 がシステムにインストールされているかどうかチェックされます。HP Software Installer によって製品のインストールパスとポートの可用性がチェックされます。




8 インストールチェックの詳細を確認します。

- インストールチェックに失敗した場合は、[キャンセル] をクリックしてインストールを停止します。HP SH Reporter のインストールを続行する前に、15 ページ、「ハードウェア要件」を参照して、必要なディスク領域が利用可能なことを確認します。ポートに関連する問題の解決方法については、20 ページ、「タスク 3: ウイルス対策の無効化」を参照してください。
- インストールチェックが正常に終了した場合は、「次へ」をクリックして続行します。

HP Software Installer によって、HP SH Reporter コンポーネント、アプリケーション、およびデータフォルダーの場所に関する情報の概要が表示されます。[プレインストールの概要]ページが開きます。



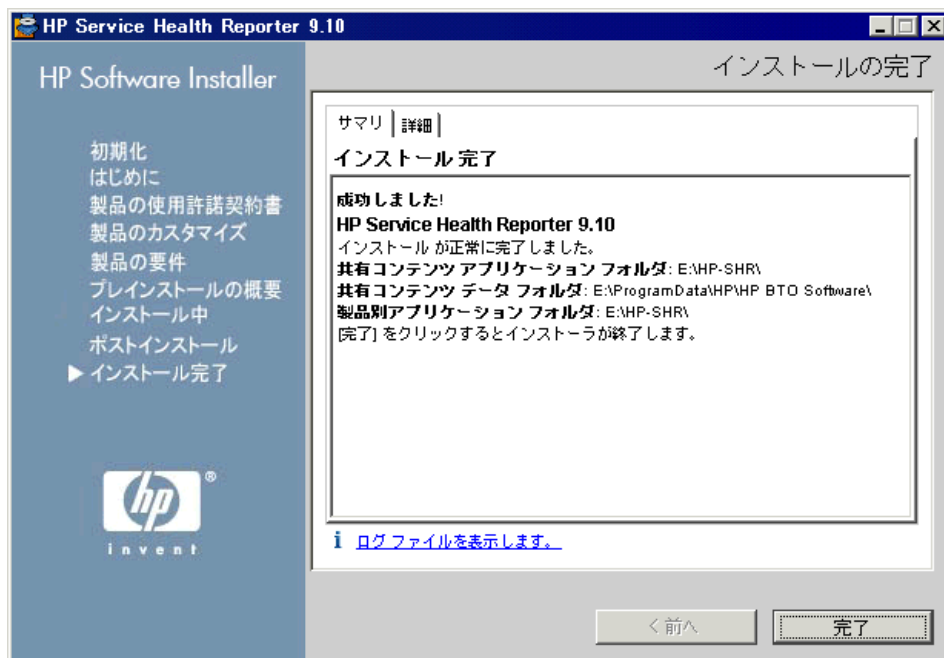
- 9 インストール前のサマリーを確認し、[**インストール**] をクリックして続行します。インストールページおよび [SAP BOBJ Install drive] ダイアログボックスが開きます。

 [インストール] ボタンをクリックした後にインストールをキャンセルする方法はありません。必要な場合はインストールが完了するのを待ってから、**HP SH Reporter** をアンインストールする必要があります。**HP SH Reporter** ではロールバックオプションはサポートされていません。



- 10 **[SAP BOBJ Install drive]** ダイアログボックスでSAP BusinessObjectsをインストールするドライブを指定し、**[OK]** をクリックします。

インストールが完了した後に、HP Software InstallerによってHP SH Reporterのインストールの詳細が表示されます。[インストールの完了] ページが開きます。



- 11 [サマリ] タブおよび [詳細] タブでインストール後の詳細を確認します。
- 12 [ログファイルを表示します] をクリックしてインストールログファイルを表示します。

ログファイルを使用して、インストールプロセス全体を確認し、特定の問題のトラブルシューティングを行うことができます。
- 13 [完了] をクリックして HP SH Reporter のインストールを完了します。

Sybase IQ を HP SH Reporter とともにインストールしなかった場合は、Sybase IQ のリモートインストールに進みます。



インストールが完了した後で、次の HP SH Reporter サービスが無効になっている場合があります。

- HP SH Reporter Collection Service
- HP SH Reporter DB Logger Service
- HP SH Reporter IM Service
- HP SH Reporter Timer

デフォルトでは、これらのサービスは HP Software Installer によって無効にされ、インストール後の設定作業を実行した後に自動的に有効になります。サービスが無効になっていても、インストールプロセスにエラーが発生しているわけではありません。

Sybase IQ のリモートインストール

HP SH Reporter の一般的なインストールでは、Sybase IQ のサーバーとクライアントを HP SH Reporter アプリケーションとともに同じホストシステム上にインストールします。ただし、HP SH Reporter には、Sybase IQ サーバーを別のサーバー上にリモートインストールするオプションもあります。このタイプのインストールでは、Sybase IQ クライアントのみを HP SH Reporter とともにホストシステムにインストールします。



リモート Sybase IQ サーバーは、HP SH Reporter マシンでインストール後の設定作業を実行する前にインストールする必要があります。

Sybase IQ をリモートでインストールするには次の手順を実行します。

- 1 リモートシステムにログオンします。管理者の権限を持っている必要があります。
- 2 HP Service Health Reporter インストールメディアを開き、Sybase IQ インストールファイルの場所を参照します。
- 3 HP-SHR-SybaseIQ_9.10_setup.exe ファイルをダブルクリックします。HP ソフトウェアインストールランチャーが実行され、[HP Software Installer] ウィンドウが開きます。

HP Software Installer によって、システムに HP SH Reporter のインストールの妨げになる可能性があるアプリケーションまたはサービスがないかチェックされます。HP Software Installer によって妨げになるものが検出された場合、[アプリケーションの要件チェックの警告] ウィンドウが表示されます。

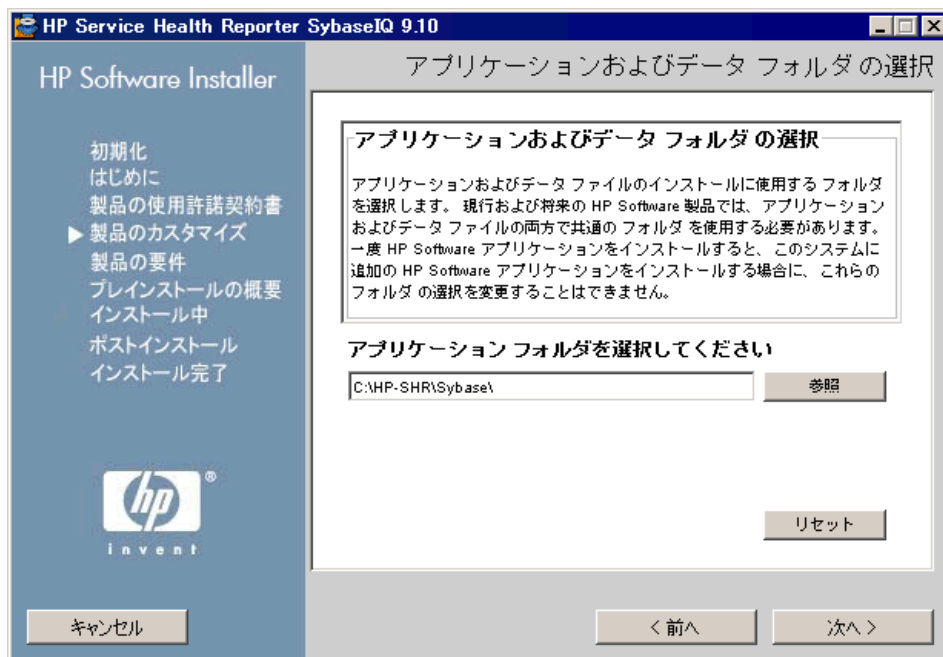
- 4 詳細を表示し、エラーまたは警告を解決または無視します。
 - a 特定の警告またはエラーをクリックして詳細を表示します。
 - b 詳細説明に従ってエラーまたは警告を解決または無視します。
 - インストールを終了してエラーを解決する場合は、[**終了**] をクリックします。
 - 警告を無視してインストールを続行する場合は、[**続行**] をクリックします。

[はじめに (インストール)] ページが開きます。

[はじめに (インストール)] ページには、メディアの場所 (Sybase IQ インストールファイルの場所) およびインストールログファイルの場所が表示されます。

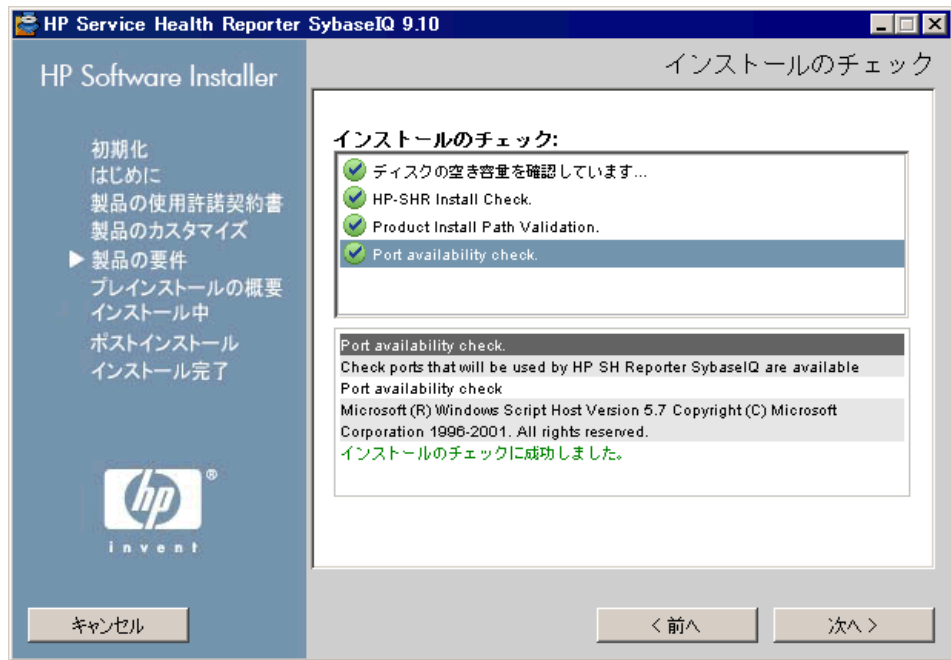
- 5 概要を確認し、[**次へ**] をクリックして続行します。[使用許諾条件] ページが開きます。

- 6 条件を確認し、[**使用許諾条件に同意します**] を選択してから、[**次へ**] をクリックして続行します。[**アプリケーションおよびデータフォルダの選択**] ページが開きます。



- 7 デフォルトの場所を受け入れるか、**Sybase IQ** をインストールする場所を指定します。
- デフォルトの場所を受け入れてインストールを続行する場合は、[**次へ**] をクリックします。
 - または、[**参照**] をクリックして場所を選択または指定し、[**次へ**] をクリックしてインストールを続行します。
 - 指定した場所をデフォルトの状態にリセットする場合は、[**リセット**] をクリックします。

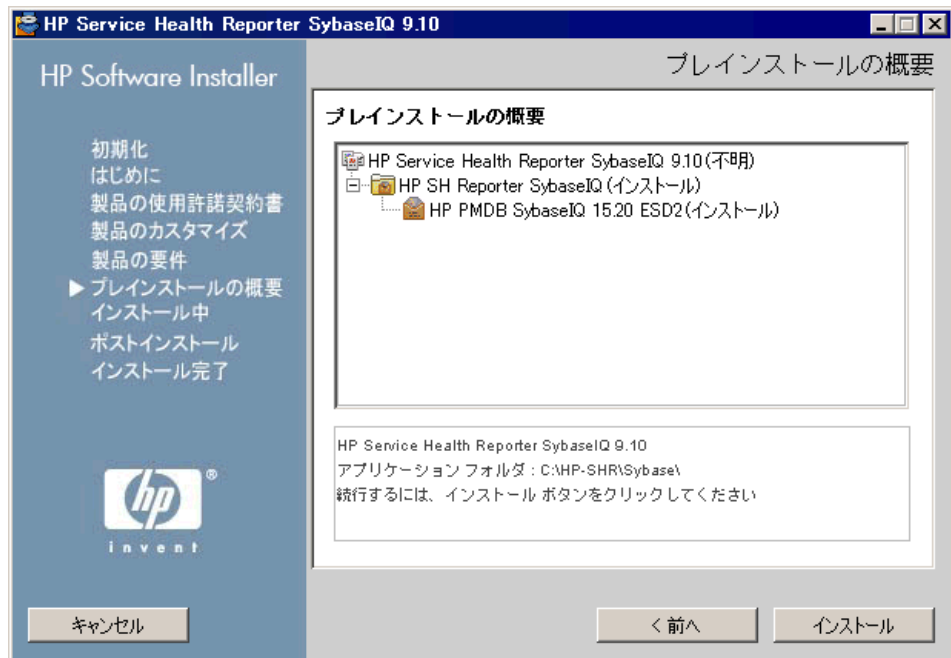
[インストールのチェック] ページが表示されます。HP Software Installer によって、利用可能なディスク領域、HP SH Reporter がシステムにインストールされているかどうか、インストールパスとポートの可用性が確認されます。



8 インストールチェックの詳細を確認します。

- インストールチェックに失敗した場合は、[**キャンセル**] をクリックしてインストールを停止します。Sybase IQ のインストールを続行する前に、15 ページ、「**ハードウェア要件**」を参照して、必要なディスク領域が利用可能なことを確認します。インストールチェックが正常に終了した場合は、「**次へ**」をクリックして続行します。

HP Software Installer によって、Sybase IQ のコンポーネント、アプリケーション、およびデータフォルダーの場所に関する情報の概要が表示されます。[プレインストールの概要] ページが開きます。



- 9 インストール前のサマリーを確認し、[**インストール**] をクリックして続行します。[**インストール**] ページが開きます。

インストールが完了した後に、HP Software Installer によっての Sybase IQ のインストールの詳細が表示されます。[**インストールの完了**] ページが開きます。

- 10 [**サマリ**] タブおよび [**詳細**] タブでインストール後の詳細を確認します。
- 11 [**ログファイルを表示します**] をクリックしてインストールログファイルを表示します。

ログファイルを使用して、インストールプロセス全体を確認し、特定の問題のトラブルシューティングを行うことができます。

- 12 [**完了**] をクリックして Sybase IQ のインストールを完了します。

Xcelsius のインストール (オプション)

Xcelsius レポートは、SAP BusinessObjects Xcelsius Enterprise ツールを使用して作成される対話型のフラッシュベースのレポートです。HP SH Reporter で利用可能な Xcelsius レポートは、ほとんど対話型機能を備えた短期間のレポートです。これらのレポートは一般的に、異なる複数のドメインからのデータを 1 つの場所にすばやく表示できます。

Xcelsius レポートの詳細については、『HP Service Health Reporter コンセプトガイド』の第 4 章「レポートの種類」を参照してください。

HP SH Reporter の Xcelsius フラッシュベースレポートをカスタマイズする場合は、HP SH Reporter インストールメディアに含まれている Xcelsius 2008 アプリケーションをインストールする必要があります。レポートの表示には、Xcelsius 2008 は必要ありません。そのためこのインストールはオプションになっています。



Xcelsius は、動作の基盤として Microsoft Excel を必要とします。

次の手順を実行します。

- 1 Excelsius_2.00.166_DVD-2.zip ファイルをインストールメディアの packages フォルダから選択した場所にコピーします。
- 2 ファイルを抽出します。
- 3 [スタート] → [ファイル名を指定して実行] をクリックします。[ファイル名を指定して実行] ダイアログボックスが開きます。
- 4 cmd と入力し、[Enter] キーを押して、コマンドプロンプトウィンドウを開きます。
- 5 コマンドプロンプトに次のコマンドを入力して Xcelsius コマンドが含まれるディレクトリを開きます。

cd <抽出したファイルのパス>

```
¥IT_Analytics_2.00¥DVD-2¥IT_Analytics_2.00¥Setup¥BO  
Installers¥xcelsius
```

ここでの <抽出したファイルのパス> は、Xcelsius セットアップファイルを抽出した場所です。



このコマンドは 1 行に入力する必要があります。

- 6 コマンドプロンプトに次のコマンドを入力して Xcelsius をインストールします。
install-xcelsius.bat -installdir <インストールディレクトリ>

ここでの <インストールディレクトリ> は、Xcelsius ファイルをインストールする場所です。

- 7 コマンドプロンプトウィンドウを閉じます。
インストール後の設定作業に進みます。

4 HP SH Reporter の設定

HP SH Reporter をインストールした後でコンテンツパックをインストールする前に、この章で説明しているすべての設定作業を実行する必要があります。

インストール後の設定作業は、次の 2 つのカテゴリに分かれています。

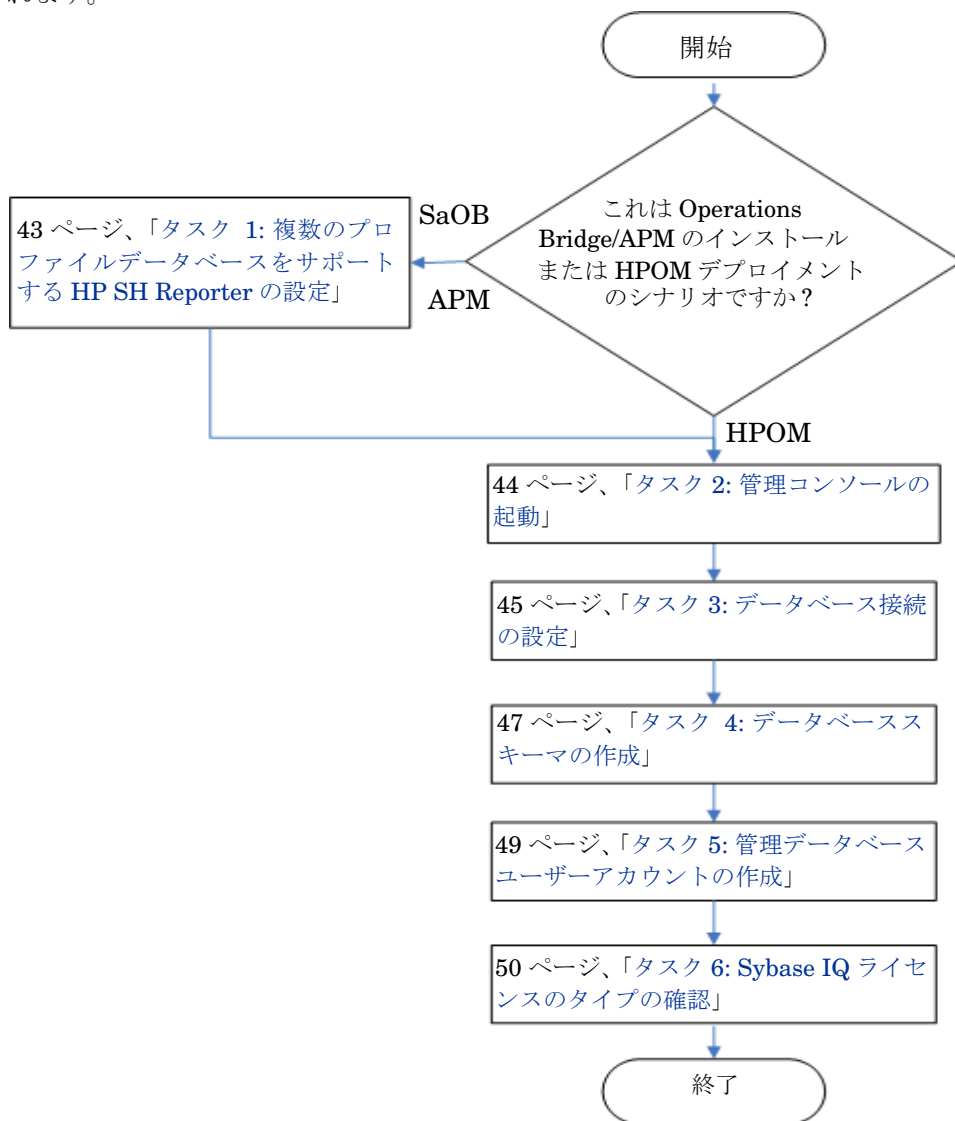
- HP SH Reporter を Sybase IQ とともにインストールした場合は、41 ページ、「[Sybase IQ をインストールした場合の HP SH Reporter のインストール後の設定作業](#)」に進みます。
- HP SH Reporter をリモート Sybase IQ とともにインストールした場合は、52 ページ、「[リモート Sybase IQ をインストールした場合の HP SH Reporter のインストール後の設定作業](#)」に進みます。

インストール後の設定作業を実行した後で、66 ページ、「[デスクトップヒープメモリの設定](#)」に進みます。

Sybase IQ をインストールした場合の HP SH Reporter のインストール後の設定作業

以下のフローチャートには、HP SH Reporter のインストール後の設定作業の概要が示されています。

フローチャート内にあるリンクをクリックすると、関連するセクションが表示されます。



タスク 1: 複数のプロファイルデータベースをサポートする HP SH Reporter の設定

この作業は、RTSM がトポロジーソースになっているデプロイメントシナリオで HP SH Reporter をインストールする場合に実行する必要があります。



HP SH Reporter が HPOM デプロイメントシナリオでインストールされる場合は、次の作業に進みます。

HP SH Reporter は、HP Business Service Management 環境内にデプロイされた複数のプロファイルデータベースの設定とそれらからのデータ収集をサポートします。

ただし、すべての既存のプロファイルデータベースが HP SH Reporter によって確実に識別されて管理コンソールに表示されるようにするには、次の手順を実行します。

- 1 リモートアクセスを使用して HP Business Service Management ホストシステムにログオンします。



HP Business Service Management のセットアップが分散され、ゲートウェイとデータ処理サーバーが別々のエンティティである場合は、データ処理サーバーにアクセスする必要があります。

- 2 %topaz_home%\Conf フォルダを参照します。
- 3 HP SH Reporter システム上で次のファイルを %topaz_home%\Conf フォルダから %PMDB_HOME%\config フォルダにコピーします。

- encryption.properties

- seed.properties

これらのファイルをコピーしたら、HP SH Reporter サービスを開始する必要があります。次の手順を実行します。

- 1 HP SH Reporter システムで、[スタート] → [ファイル名を指定して実行] をクリックします。[ファイル名を指定して実行] ダイアログボックスが開きます。
- 2 [名前] フィールドに **services.msc** と入力します。[サービス] ウィンドウが開きます。
- 3 右側のペインで、[HP SH Reporter] サービスを右クリックし、[開始] をクリックします。
- 4 [サービス] ウィンドウを閉じます。

タスク 2: 管理コンソールの起動

次の手順を実行します。

- 1 [スタート] → [プログラム] → [HP ソフトウェア] → [SH Reporter] → [管理] をクリックします。HP SH Reporter 管理コンソールが開きます。

▶ Web ブラウザーで HP SH Reporter のアドレスを入力して管理コンソールに直接アクセスすることもできます。デフォルトのアドレスは、**http://<サーバー名>.<ドメイン名>:21411/BSMRApp/** です。ここでの <サーバー名> は HP SH Reporter をインストールしたホストシステムの名前であり、<ドメイン名> は、ネットワーク設定に基づくドメインの名前です。

- 2 [ログイン名] フィールドに **administrator** と入力し、[ログイン] をクリックして続行します。HP Service Health Reporter 構成ウィザードが開きます。

▶ インストール後の HP Service Health Reporter 構成ウィザードは、インストール後の設定作業を完了していない場合にのみ表示されます。ウィザードは、セッション状態の維持をサポートします。これにより以前に中断された設定セッションを再開して続行することができます。

HP Service Health Reporter構成ウィザード

HP Service Health Reporter構成ウィザード

データベース接続の設定

手順 1:ここでは、HP SH Reporterのデータベースを作成するデータベースサーバーの接続詳細を提供します。また、データベースにアクセスするためには、管理者のパスワード作成が必要です。

データベースタイプ リモートデータベース

データベーススキーマの作成

管理データベースの作成

概要

データベース接続パラメータの入力

| | |
|-------|---------------------------------------|
| ホスト名 | <input type="text" value="pmdbvm20"/> |
| ポート | <input type="text" value="21424"/> |
| サーバー名 | <input type="text" value="pmdbvm20"/> |

データベースユーザー (DBA権限) とパスワードの入力

| | |
|-------|--------------------------|
| ユーザー名 | <input type="text"/> |
| パスワード | <input type="password"/> |

PMDBデータベースユーザー (PMDB_ADMIN) のパスワードの選択

| | |
|------------|--------------------------|
| 管理パスワード | <input type="password"/> |
| 管理パスワードの確認 | <input type="password"/> |

次へ>>

タスク 3: データベース接続の設定

[データベース接続の設定] ページで、HP SH Reporter のデータベースの作成場所となるデータベースサーバーの詳細を指定します。

データベース接続を設定するには次の手順に従います。

1 [データベース接続パラメータの入力]で、次の値を入力します。

- ホスト名 - Sybase IQ データベースサーバーが実行されているホストの名前または IP アドレス。
- ポート - データベースサーバーを照合するためのポート番号。デフォルトポートは **21424** です。
- サーバー名 - Sybase IQ サーバーの名前。Sybase IQ サーバー名がサブセット全体で固有であることを確認します。
このフィールドに表示されるサーバー名は情報提供のみを目的としています。サーバー名はどんな場合でも変更しないようにする必要があります。

2 [データベースユーザー (DBA 権限) とパスワードの入力]で、次の値を入力します。

- ユーザー名 - Sybase IQ データベースユーザーの名前。ユーザーは、DBA の権限を持っていなければなりません。デフォルトのユーザー名は **dba** です。
- パスワード - データベースユーザーのパスワード。デフォルトのパスワードは **sql** です。
インストール後の設定作業を続ける前にデフォルトのパスワードを変更することをお勧めします。パスワードを変更する方法については、Sybase IQ のマニュアルを参照してください。

3 [PMDB データベースユーザー (PMDB_ADMIN) のパスワードの選択]で、次の値を入力します。

- 管理パスワード - データベース管理者のパスワード。
- 管理パスワードの確認 - 確認のために同じパスワードを再入力します。

4 [次へ] をクリックします。[データベーススキーマの作成] ページが開きます。

HP Service Health Reporter構成ウィザード

HP Service Health Reporter構成ウィザード

データベース接続の設定

手順 2:ここでは、適切な展開サイズを選択することで、HP SH Reporterのデータベースのサイズを設定します。選択に基づいて、推奨されるSybase IQ設定が表示されます。

データベーススキーマの作成

管理データベースの作成

概要

展開サイズの選択

小ボリューム
 中ボリューム

推奨IQ設定

| | |
|------------------|-------|
| IQメインキャッシュ (MB) | 920 |
| IQ一時キャッシュ (MB) | 716 |
| IQ DB領域サイズ (MB) | 8,192 |
| IQ一時DB領域サイズ (MB) | 8,192 |

データベースファイルの場所

データベースファイルの場所

<<前へ 次へ>>

タスク 4: データベーススキーマの作成

[データベーススキーマの作成] ページで、データベースのデプロイメントサイズ（つまり HP SH Reporter がデータを収集する元になるノードの数）を指定します。ユーザーの選択に応じて、推奨されるデータベースサイズが HP SH Reporter によって計算されて表示されます。

データベーススキーマを作成するには、次の手順を実行します。

1 [デプロイメントサイズの選択] の下で、要件を基にして次のいずれかのデータボリュームを選択します。

小ボリューム - このオプションを選択すると、HP SH Reporter が 500 未満のノードからのデータ収集をサポートできるようになります。

中ボリューム - このオプションを選択すると、HP SH Reporter が 500～5000 のノードからのデータ収集をサポートできるようになります。

2 [推奨 IQ 設定] で、次の値を入力します。

IQ メインキャッシュ (MB) - Sybase IQ メインストアのメインバッファークッシュの推奨サイズ。この値はデフォルトで設定されます。

IQ 一時キャッシュ (MB) - Sybase IQ 一時ストアの一時バッファサイズの推奨サイズ。この値はデフォルトで設定されます。

IQ DB 領域サイズ (MB) - メインデータベースファイルを格納する IQ_System_Main DBSpace の推奨サイズ。このサイズは変更可能です。

IQ 一時 DB 領域サイズ (MB) - 一時データベースファイルを格納する IQ_System_Temp DBSpace の推奨サイズ。このサイズは変更可能です。

3 [データベースファイルの場所] フィールドに、データベースファイルが保存される場所を入力します。たとえば、C:\YHP-SHR\Sybase\db のように入力します。



選択した HP SH Reporter データ収集ボリュームをサポートするための十分なシステムリソースがあることを確認してください。選択したボリュームのリソース要件の詳細については、HP Service Health Reporter サポートマトリックス (http://support.openview.hp.com/sc/support_matrices.jsp) を参照してください。

4 [次へ] をクリックします。確認のダイアログボックスが開きます。

5 [はい] をクリックします。データベース接続とスキーマの作成が正常に実行された場合は、確認ページが表示され、スキーマの作成ステータスが表示されます。データベース接続とスキーマの作成が失敗した場合は、[前へ] ボタンをクリックして指定した値を確認します。

- 6 データベース接続とスキーマの作成の詳細を確認し、[次へ]をクリックします。[管理データベースの作成]ページが開きます。

HP Service Health Reporter構成ウィザード

HP Service Health Reporter構成ウィザード

データベース接続の設定 手順 3.ここでは、管理データベースにアクセスするためにデータベース管理者の新規アカウントを作成できます、これは実行時間データを保存するためにHP SH Reporterによって使用されたOLTPストアです。

データベーススキーマの作成

管理データベースの作成

概要

HP SH Reporter管理データベースユーザー情報を入力します

ユーザー名:

新しいパスワード:

新しいパスワードの確認:

次へ>>

タスク 5: 管理データベースユーザーアカウントの作成

管理データベースとは、データプロセスジョブストリームのステータス、変更されたテーブルのステータス、ノード情報などの実行時データを保存するために**HP SH Reporter**によって使用されるオンライントランザクション処理 (OLTP) ストアを意味します。

[管理データベースの作成] ページで、管理データベースのユーザーの詳細を指定します。

管理データベースのユーザーアカウントを作成するには、次の手順を実行します。

- 1 **[HP SH Reporter 管理データベースユーザー情報]** で、次の値を入力します。

新しいパスワード - 管理データベースユーザーのパスワード。

新しいパスワードの確認 - 確認のために同じパスワードを再入力します。
の確認

- 2 **[次へ]** をクリックします。[サマリー] ページが開きます。
- 3 データベース接続と管理データベースの詳細を確認し、**[終了]** をクリックして、インストール後の設定作業を完了します。
- 4 システムを再起動し、**HP SH Reporter Collection Service** と **HP SH Reporter Message Broker Service** の依存関係が有効になっていることを確認します。

タスク 6: Sybase IQ ライセンスのタイプの確認

Intel EM64T プロセッサを搭載しているシステムに **Sybase IQ** がインストールされている場合は、`pmdb.1mp` ファイル内の **Sybase IQ** ライセンスのタイプを確認する必要があります。ライセンスのタイプが **OEM CPU** ライセンスではない場合、1 か月後に **Sybase IQ** ライセンスが期限切れになりデータベースの機能が停止します。

以下の手順を実行します。

- 1 データベースファイルが保存されている場所を参照します。これは、48 ページの **ステップ 3** で指定した場所です。
- 2 テキストエディターで `pmdb.1mp` ファイルを開きます。
- 3 ライセンスのタイプ (`LT=AC`) を確認します。LT の値が **AC** ではない場合は、**AC** に変更します。
- 4 変更を保存してファイルを閉じます。

`pmdb.1mp` ファイル内でライセンスのタイプを変更した後で、データベースを再起動する必要があります。以下の手順を実行します。

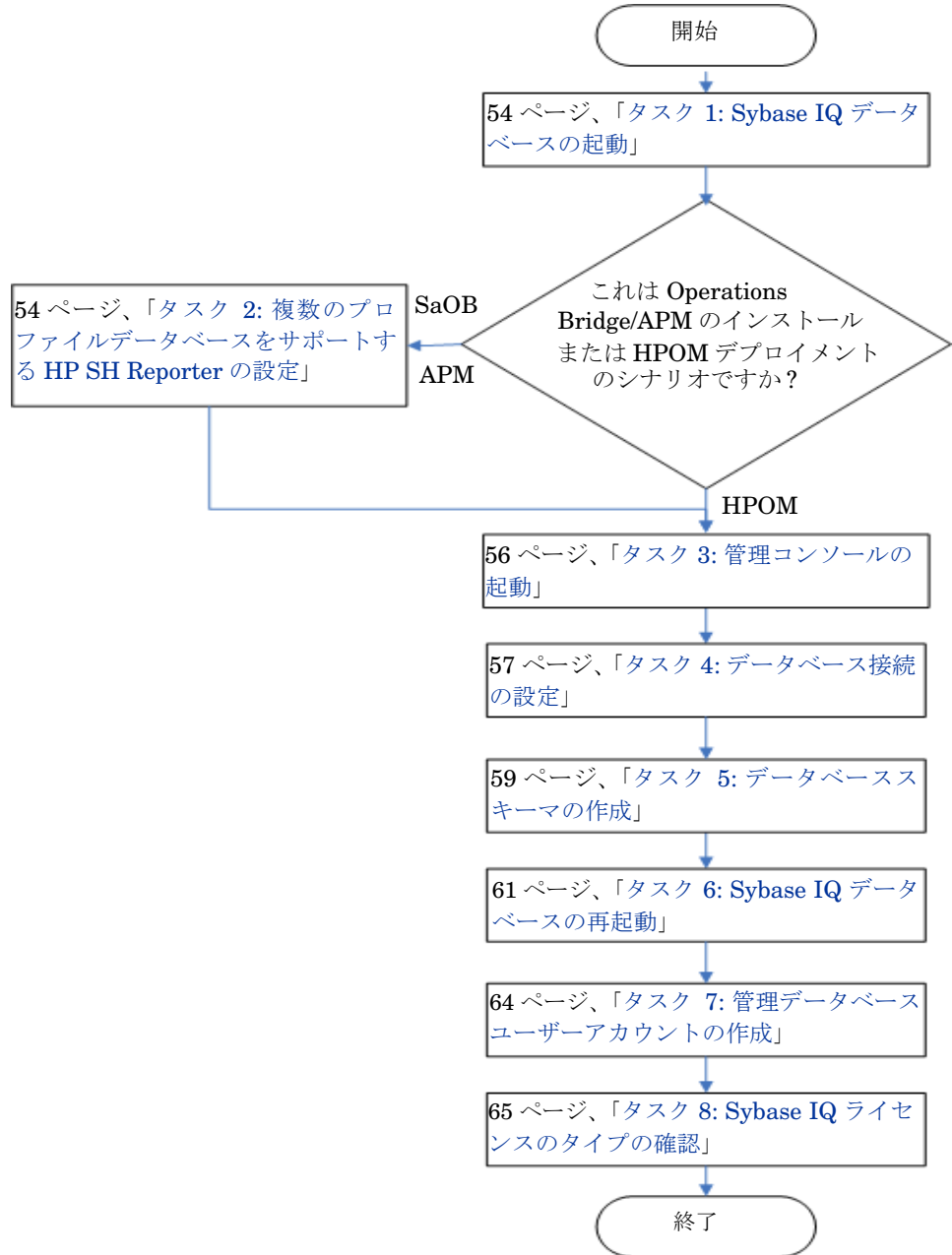
- 1 **[スタート]** → **[ファイル名を指定して実行]** をクリックします。[ファイル名を指定して実行] ダイアログボックスが開きます。
- 2 **[名前]** フィールドに `services.msc` と入力し、**[Enter]** キーを押します。**[サービス]** ウィンドウが開きます。
- 3 右側のペインで、**[HP SH Reporter Sybase IQ service]** を右クリックし、**[再起動]** をクリックします。

コンテンツパックのインストールに進みます。

リモート Sybase IQ をインストールした場合の HP SH Reporter のインストール後の設定作業

以下のフローチャートには、**HP SH Reporter** のインストール後の設定作業の概要が示されています。フローチャート内にあるリンクをクリックすると、関連す

るセクションが表示されます。



タスク 1: Sybase IQ データベースの起動

次の手順を実行します。

- 1 リモートシステムにログオンします。管理者の権限を持っている必要があります。
- 2 **[スタート]** → **[ファイル名を指定して実行]** をクリックします。[ファイル名を指定して実行] ダイアログボックスが開きます。
- 3 **cmd** と入力し、**[Enter]** キーを押して、コマンドプロンプトウィンドウを開きます。
- 4 コマンドプロンプトで、次のコマンドを入力して Sybase IQ データベースを起動します。

```
start_iq @<SHR ホーム>%Sybase%IQ-15_2%scripts%pmdbConfig.cfg
```

ここで **<SHR ホーム>** は、HP SH Reporter のインストールディレクトリを示します。
- 5 **[Enter]** キーを押します。**[Starting IQ]** ウィンドウが開きます。
- 6 コマンドプロンプトウィンドウを閉じます。



通知バーの Sybase IQ サーバーのアイコンを右クリックしてポップアップメニューからオプションを選択することによって、Sybase IQ の実行を停止することができます。

Sybase IQ サーバーのアイコンが、HP SH Reporter システムの通知バーに表示されない場合は、次のコマンドを使用して Sybase IQ を停止します。

```
dbstop -y -c uid=dba;pwd=sql;eng=<サーバーエンジン名>;  
dbn=utility_db;links=tcPIP{host=<ホスト名>.<ドメイン名>;  
port=21424}
```

ここで **<サーバーエンジン名>** は Sybase サーバーエンジンの名前を示し、**<ホスト名>** は HP SH Reporter データベースをホスティングするシステムの名前を示し、**<ドメイン名>** はネットワーク構成に従ったドメインの名前です。

このコマンドは 1 行に入力する必要があります。

タスク 2: 複数のプロファイルデータベースをサポートする HP SH Reporter の設定

この作業は、RTSM がトポロジーソースになっているデプロイメントシナリオで HP SH Reporter をインストールする場合に実行する必要があります。



HP SH Reporter が HPOM デプロイメントシナリオでインストールされる場合は、次の作業に進みます。

HP SH Reporter は、HP Business Service Management 環境内にデプロイされた複数のプロファイルデータベースの設定とそれらからのデータ収集をサポートします。

ただし、すべての既存のプロファイルデータベースが HP SH Reporter によって確実に識別されて管理コンソールに表示されるようにするには、次の手順を実行します。

- 1 リモートアクセスを使用して HP Business Service Management ホストシステムにログオンします。



HP Business Service Management のセットアップが分散され、ゲートウェイとデータ処理サーバーが別々のエンティティである場合は、データ処理サーバーにアクセスする必要があります。

- 2 %topaz_home%\Conf フォルダを参照します。
- 3 HP SH Reporter システム上で次のファイルを %topaz_home%\Conf フォルダから %PMDB_HOME%\config フォルダにコピーします。

- encryption.properties
- seed.properties

これらのファイルをコピーしたら、HP SH Reporter サービスを開始する必要があります。次の手順を実行します。

- 1 HP SH Reporter システムで、[スタート] → [ファイル名を指定して実行] をクリックします。[ファイル名を指定して実行] ダイアログボックスが開きます。
- 2 [名前] フィールドに **services.msc** と入力します。[サービス] ウィンドウが開きます。
- 3 右側のペインで、[HP SH Reporter] サービスを右クリックし、[開始] をクリックします。
- 4 [サービス] ウィンドウを閉じます。

タスク 3: 管理コンソールの起動

次の手順を実行します。

- 1 [スタート] → [プログラム] → [HP ソフトウェア] → [SH Reporter] → [管理] をクリックします。HP SH Reporter 管理コンソールが開きます。

▶ Web ブラウザーで HP SH Reporter のアドレスを入力して管理コンソールに直接アクセスすることもできます。デフォルトのアドレスは、**http://<サーバー名>.<ドメイン名>:21411/BSMRApp/** です。ここでの <サーバー名> は HP SH Reporter をインストールしたホストシステムの名前であり、<ドメイン名> は、ネットワーク設定に基づくドメインの名前です。

- 2 [ログイン名] フィールドに **administrator** と入力し、[ログイン] をクリックして続行します。HP Service Health Reporter 構成ウィザードが開きます。

▶ インストール後の HP Service Health Reporter 構成ウィザードは、インストール後の設定作業を完了していない場合にのみ表示されます。ウィザードは、セッション状態の維持をサポートします。これにより以前に中断された設定セッションを再開して続行することができます。

HP Service Health Reporter構成ウィザード

HP Service Health Reporter構成ウィザード

データベース接続の設定

手順 1:ここでは、HP SH Reporterのデータベースを作成するデータベースサーバーの接続詳細を提供します。また、データベースにアクセスするためには、管理者のパスワード作成が必要です。

データベーススキーマの作成

管理データベースの作成

概要

データベースタイプ リモートデータベース

データベース接続パラメータの入力

| | |
|-------|---------------------------------------|
| ホスト名 | <input type="text" value="pmdbvm20"/> |
| ポート | <input type="text" value="21424"/> |
| サーバー名 | <input type="text" value="pmdbvm20"/> |

データベースユーザー (DBA権限) とパスワードの入力

| | |
|-------|--------------------------|
| ユーザー名 | <input type="text"/> |
| パスワード | <input type="password"/> |

PMDBデータベースユーザー (PMDB_ADMIN) のパスワードの選択

| | |
|------------|--------------------------|
| 管理パスワード | <input type="password"/> |
| 管理パスワードの確認 | <input type="password"/> |

次へ>>

タスク 4: データベース接続の設定

[データベース接続の設定] ページで、HP SH Reporter のデータベースの作成場所となるデータベースサーバーの詳細を指定します。

データベース接続を設定するには次の手順に従います。

- 1 [データベース接続の設定] ページで、[**リモートデータベース**] を選択します。

2 [データベース接続パラメータの入力]で、次の値を入力します。

- ホスト名 - Sybase IQ データベースサーバーが実行されているホストの名前または IP アドレス。
- ポート - データベースサーバーを照合するためのポート番号。デフォルトポートは **21424** です。
- サーバー名 - Sybase IQ サーバーの名前。Sybase IQ サーバー名がサブセット全体で固有であることを確認します。
- このフィールドに表示されるサーバー名は情報提供のみを目的としています。サーバー名はどんな場合でも変更しないようにする必要があります。

3 [データベースユーザー (DBA 権限) とパスワードの入力]で、次の値を入力します。

- ユーザー名 - Sybase IQ データベースユーザーの名前。ユーザーは、DBA の権限を持っていないければなりません。デフォルトのユーザー名は **dba** です。
- パスワード - データベースユーザーのパスワード。デフォルトのパスワードは **sql** です。
- インストール後の設定作業を続ける前にデフォルトのパスワードを変更することをお勧めします。パスワードを変更する方法については、Sybase IQ のマニュアルを参照してください。

4 [PMDB データベースユーザー (PMDB_ADMIN) のパスワードの選択]で、次の値を入力します。

- 管理パスワード - データベース管理者のパスワード。
- 管理パスワードの確認 - 確認のために同じパスワードを再入力します。

5 [次へ] をクリックします。[データベーススキーマの作成] ページが開きます。

HP Service Health Reporter構成ウィザード

HP Service Health Reporter構成ウィザード

データベース接続の設定

手順 2:ここでは、適切な展開サイズを選択することで、HP SH Reporterのデータベースのサイズを設定します。選択に基づいて、推奨されるSybase IQ設定が表示されます。

展開サイズの選択

小ボリューム
 中ボリューム

推奨IQ設定

| | |
|------------------|-------|
| IQメインキャッシュ (MB) | 920 |
| IQ一時キャッシュ (MB) | 716 |
| IQ DB領域サイズ (MB) | 8,192 |
| IQ一時DB領域サイズ (MB) | 8,192 |

データベースファイルの場所

データベースファイルの場所

<<前へ 次へ>>

タスク 5: データベーススキーマの作成

[データベーススキーマの作成] ページで、データベースのデプロイメントサイズ（つまり HP SH Reporter がデータを収集する元になるノードの数）を指定します。ユーザーの選択に応じて、推奨されるデータベースサイズが HP SH Reporter によって計算されて表示されます。

データベーススキーマを作成するには、次の手順を実行します。

- 1 [デプロイメントサイズの選択] の下で、要件を基にして次のいずれかのデータボリュームを選択します。

小ボリューム - このオプションを選択すると、HP SH Reporter が 500 未満のノードからのデータ収集をサポートできるようになります。

中ボリューム - このオプションを選択すると、HP SH Reporter が 500 ～ 5000 のノードからのデータ収集をサポートできるようになります。

2 [推奨 IQ 設定] で、次の値を入力します。

IQ メインキャッシュ (MB) - Sybase IQ メインストアのメインバッファークャッシュの推奨サイズ。この値はデフォルトで設定されます。

IQ 一時キャッシュ (MB) - Sybase IQ 一時ストアの一時バッファサイズの推奨サイズ。この値はデフォルトで設定されます。

IQ DB 領域サイズ (MB) - メインデータベースファイルを格納する IQ_System_Main DBSpace の推奨サイズ。このサイズは変更可能です。

IQ 一時 DB 領域サイズ (MB) - 一時データベースファイルを格納する IQ_System_Temp DBSpace の推奨サイズ。このサイズは変更可能です。

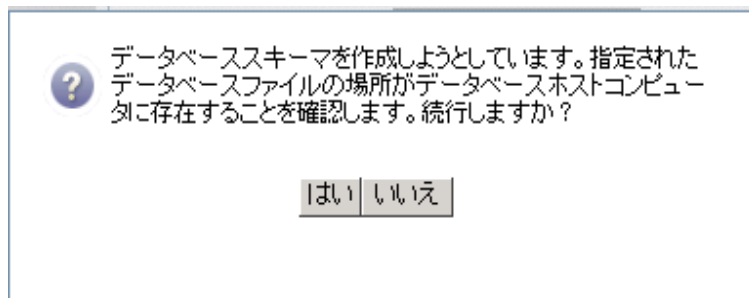
3 [データベースファイルの場所] フィールドに、データベースファイルが保存される場所を入力します。たとえば、C:\¥HP-SHR¥Sybase¥db のように入力します。[データベースファイルの場所] フィールドにパスを入力する前にデータベースフォルダーを作成します。



選択した HP SH Reporter データ収集ボリュームをサポートするための十分なシステムリソースがあることを確認してください。選択したボリュームのリソース要件の詳細については、**HP Service Health Reporter サポートマトリックス**

(http://support.openview.hp.com/sc/support_matrices.jsp) を参照してください。

4 [次へ] をクリックします。確認のダイアログボックスが開きます。



リモートデータベースホストマシン上のデータベースフォルダーの存在を確認するように指示するメッセージが表示されます。

- 5 [はい] をクリックします。データベース接続とスキーマの作成が正常に実行された場合は、確認ページが表示され、スキーマの作成ステータスが表示されます。

HP Service Health Reporter構成ウィザード

HP Service Health Reporter構成ウィザード

データベース接続の設定 手順 2:ここでは、適切な展開サイズを選択することで、HP SH Reporterのデータベースのサイズを設定します。選択に基づいて、推奨されるSybase IQ設定が表示されます。

データベーススキーマの作成

管理データベースの作成

概要

スキーマの作成ステータス

- データベーススキーマの作成
- データベース設定ファイルを作成/更新します。

ファイルは C:\HP-SHR\PMDB\1\SybaseIQ-15_2\scripts\pmdbConfig.cfg で正常に生成されました。リモートのデータベースコンピュータにコピーし、データベースを再起動してください。

- サービスを再起動します

次へ>>

新しく作成された pmdbConfig.cfg ファイルをリモートシステムにコピーしてからデータベースを再起動するように指示するメッセージが表示されます。データベース接続とスキーマの作成が失敗した場合は、[前へ] ボタンをクリックして指定した値を確認します。

タスク 6: Sybase IQ データベースの再起動

このタスクでは、最初に Sybase IQ データベースの実行を停止する必要があります。その後で、Sybase IQ サービスマネージャを使用して、Sybase IQ サービスを作成する必要があります。その後でこのサービスを使用して、Sybase IQ データベースを再起動することができます。

次の手順を実行します。

- 1 新しく作成されたデータベースフォルダーを参照し、pmdbConfig.cfg ファイルをリモートシステムにコピーします。
- 2 [スタート] → [ファイル名を指定して実行] をクリックします。[ファイル名を指定して実行] ダイアログボックスが開きます。

- 3 `cmd` と入力し、**[Enter]** キーを押して、コマンドプロンプトウィンドウを開きます。
- 4 コマンドプロンプトで、次のコマンドを入力して **Sybase IQ** データベースを停止し、**[Enter]** キーを押します。

```
dbstop -y -c uid=dba;pwd=sql;eng=<サーバーエンジン名>;  
dbn=utility_db;links=tcpip{host=<ホスト名>.<ドメイン名>;  
port=21424}
```

ここでの `<サーバーエンジン名>` は **Sybase** サーバーエンジンの名前を示し、`<ホスト名>` は **HP SH Reporter** データベースをホスティングするシステムの名前を示し、`<ドメイン名>` はネットワーク構成に従ったドメインの名前です。

▶ このコマンドは 1 行に入力する必要があります。

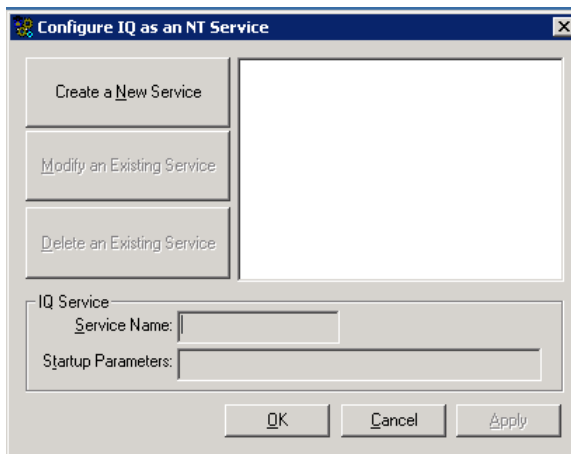
通知バーの **Sybase IQ** サーバーのアイコンを右クリックして、メニューからデータベースの停止を選択することもできます。

Sybase IQ サービスの作成

Sybase IQ を **Windows** サービスとして実行すると、マシンが起動されるたびにサーバーを自動的に起動し、**Windows** が実行されている間バックグラウンドで実行することができます。

Sybase IQ サービスを作成するには、次の手順を実行します。

- 1 **[スタート]** → **[プログラム]** → **[Sybase]** → **[Sybase 15.2]** → **[Sybase IQ サービスマネージャ]** をクリックします。Configure IQ as an NT Service] ウィンドウが開きます。



- 2 **[Create a New Service]** をクリックします。

- 3 **[Service Name]** フィールドに、リモート Sybase IQ サーバーの名前を入力します。
- 4 **[Startup Parameters]** フィールドに、pmdbConfig.cfg ファイルに記載されているすべてのパラメーターを入力します。
- 5 %IQDIR15%\scripts を参照し、pmdbConfig.cfg ファイルを開きます。ファイルに記載されているすべてのパラメーターを **[Startup Parameters]** フィールドにコピーします。

-n <サーバー名> <パラメーター> <データベースファイルのパス>

ここでの <サーバー名> はリモート Sybase IQ サーバーの名前であり、<パラメーター> は pmdbConfig.cfg ファイル内に存在するすべてのパラメーターであり、<データベースファイルのパス> はリモートサーバー上のデータベースファイルの場所です。

以下にスタートアップパラメーターの例を示します。

```
-n testserver1 -x tcpip{port=21424} -c 48m -gc 20 -gd all  
-gl all -gm 100 -gp 4096 -iqmsgsz 100 -iqmsgnum 4 -iqmc  
1845 -iqtc 1430 -iqmt 3500 -ti 4400 -gn 25  
C:¥sybaseIQ¥db¥pmdb.db
```

データベースファイルへのフルパスを含めます。有効なデータベースパス名がないとサーバーは起動できません。

- 6 **[Apply]** をクリックし、**[OK]** をクリックします。

Sybase IQ サービスの開始

- 1 **[スタート]** → **[ファイル名を指定して実行]** をクリックします。[ファイル名を指定して実行] ダイアログボックスが開きます。
- 2 **[名前]** フィールドに **services.msc** と入力し、**[Enter]** キーを押します。**[サービス]** ウィンドウが開きます。
- 3 右側のペインで、新しく作成された Sybase IQ サービスを右クリックし、**[開始]** をクリックします。

- 4 HP SH Reporter ホストシステムの管理コンソールで、データベース接続とスキーマの作成の詳細を確認し、[次へ]をクリックします。[管理データベースの作成] ページが開きます。

HP Service Health Reporter構成ウィザード

HP Service Health Reporter構成ウィザード

データベース接続の設定 手順 3:ここでは、管理データベースにアクセスするためにデータベース管理者の新規アカウントを作成できます、これは実行時間データを保存するためにHP SH Reporterによって使用されたOLTPストアです。

データベーススキーマの作成

管理データベースの作成

概要

HP SH Reporter管理データベースユーザー情報を入力します

ユーザー名:

新しいパスワード:

新しいパスワードの確認:

次へ>>

タスク 7: 管理データベースユーザーアカウントの作成

管理データベースとは、データプロセスジョブストリームのステータス、変更されたテーブルのステータス、ノード情報などの実行時データを保存するためにHP SH Reporterによって使用されるオンライントランザクション処理 (OLTP) ストアを意味します。

[管理データベースの作成] ページで、管理データベースのユーザーの詳細を指定します。

管理データベースのユーザーアカウントを作成するには、次の手順を実行します。

- 1 **[HP SH Reporter 管理データベースユーザー情報]** で、次の値を入力します。

新しいパスワード - 管理データベースユーザーのパスワード。

新しいパスワードの確認 - 確認のために同じパスワードを再入力します。

- 2 **[次へ]** をクリックします。[サマリー] ページが開きます。
- 3 データベース接続と管理データベースの詳細を確認し、**[終了]** をクリックして、インストール後の設定作業を完了します。
- 4 システムを再起動し、**HP SH Reporter Collection Service** と **HP SH Reporter Message Broker Service** の依存関係が有効になっていることを確認します。

タスク 8: Sybase IQ ライセンスのタイプの確認

Intel EM64T プロセッサを搭載しているシステムに **Sybase IQ** がインストールされている場合は、`pmdb.1mp` ファイル内の **Sybase IQ** ライセンスのタイプを確認する必要があります。ライセンスのタイプが **OEM CPU** ライセンスではない場合、1 か月後に **Sybase IQ** ライセンスが期限切れになりデータベースの機能が停止します。

以下の手順を実行します。

- 1 データベースファイルが保存されている場所を参照します。これは、**60 ページ** の **ステップ 3** で指定した場所です。
- 2 テキストエディターで `pmdb.1mp` ファイルを開きます。
- 3 ライセンスのタイプ (LT=AC) を確認します。LT の値が **AC** ではない場合は、**AC** に変更します。
- 4 変更を保存してファイルを閉じます。

`pmdb.1mp` ファイル内でライセンスのタイプを変更した後で、データベースを再起動する必要があります。以下の手順を実行します。

- 1 **[スタート]** → **[ファイル名を指定して実行]** をクリックします。[ファイル名を指定して実行] ダイアログボックスが開きます。
- 2 **[名前]** フィールドに `services.msc` と入力し、**[Enter]** キーを押します。**[サービス]** ウィンドウが開きます。
- 3 右側のペインで、新しく作成された **Sybase IQ** サービスを右クリックし、**[再起動]** をクリックします。

デスクトップヒープメモリーの設定

1 つのユーザーセッション内で、すべてのデスクトップオブジェクトにデスクトップヒープメモリーが関連付けられます。デスクトップヒープには、ウィンドウ、メニュー、フックなどの特定のユーザーインタフェースオブジェクトが格納されます。次のような理由で、デスクトップヒープへの関連付けの失敗が発生することがあります。

- 特定のセッションのセッションビュースペースがすべて使用されている場合は、新しいデスクトップヒープを作成できません。
- 既存のデスクトップヒープの割り当てがすべて使用されている場合は、デスクトップを使用するスレッドが追加のデスクトップヒープを使用できません。

デスクトップヒープが消費されると、特定のプロセスが開始できなかつたりプロセスが失敗したりする可能性があります。デスクトップヒープの使用の問題を回避するには、レジストリエディターでヒープメモリーのデフォルト値を変更する必要があります。

- 1 [**スタート**] → [**ファイル名を指定して実行**] をクリックします。[**ファイル名を指定して実行**] ダイアログボックスが開きます。
- 2 [**名前**] フィールドに **regedit** と入力し、[**Enter**] キーを押します。[**レジストリエディター**] ウィンドウが開きます。
- 3 左側のペインで、[**HKEY_LOCAL_MACHINE**]、[**SYSTEM**]、[**CurrentControlSet**]、[**Control**]、[**Session Manager**] の順に展開し、[**SubSystems**] をクリックします。
- 4 右ペインで、[**Windows**] を右クリックし、[**修正**] をクリックします。[**文字列の編集**] ダイアログボックスが開きます。
- 5 [**値のデータ**] ボックスで、値 **ObjectDirectory=¥Windows SharedSection=1024,20480,768** を **ObjectDirectory=¥Windows SharedSection=1024,20480,1536** に変更します。
- 6 レジストリエディターでの変更が終了したら、システムを再起動します。

上記の手順を実行すると、HP SH Reporter での特定のデータ処理ストリームの失敗 (エラーステータスコード 128 または 832) を回避することができ、さらに、収集フレームワークの各段階 (集約、変換、ステージング) でのデータの移動が回避されます。

コンテンツパックのインストールに進みます。

5 コンテンツパックの選択およびインストール

コンテンツパックのインストールプロセスでは、コンテンツパックの共通ファイルとコアファイルおよびドメインに固有なコンテンツパックをインストールします。コアコンテンツパックは、他のコンテンツパックで再利用したり参照したりできる共通スキーマなどの一連の共通機能を提供します。




コンテンツパックの共通ファイルには次のものが含まれています。

- **Core** — このコンテンツパックは他のコンテンツパックに必要なコアスキーマを提供します。
- **CMDBCore** — このコンテンツパックは、他のコンテンツパックで使用される共通の論理モデルを提供します。
- **Core_BSM** — このコンテンツパックは、他の **Business Service Management** アプリケーションのコンテンツパックに必要なコア機能を提供します。

インストールするコンテンツパックを決定するには、デプロイメントシナリオを考慮する必要があります。次の表にさまざまなコンテンツパックとそれらのサポートされるデプロイメントシナリオの一覧を示します。

| コンテンツパック | HPOM | Service and Operations Bridge | Application Performance Management |
|---------------------|------|-------------------------------|------------------------------------|
| Active_Directory | ✓ | ✓ | ✗ |
| Appserver_Weblogic | ✓ | ✓ | ✗ |
| Appserver_WebSphere | ✓ | ✓ | ✗ |
| BPM | ✗ | ✓ | ✓ |
| Core_BSM | ✗ | ✓ | ✓ |
| Database_MSSQL | ✓ | ✓ | ✗ |

| コンテンツパック | HPOM | Service and Operations Bridge | Application Performance Management |
|---|------|-------------------------------|------------------------------------|
| Database_Oracle | ✓ | ✓ | × |
| Exchange_Server | ✓ | ✓ | × |
| OM | ✓ | ✓ | ✓ |
| OMi | × | ✓ | × |
| Real_User_Monitor | × | ✓ | ✓ |
| System_Management_PA | ✓ | ✓ | × |
| System_Management_SiS | × | ✓ | ✓ |
| System_Management_SiS_Coda | × | ✓ | ✓ |
| Virtual_Environment_Management_PA | ✓ | ✓ | × |
| Virtual_Environment_Management_ESX_PA | ✓ | ✓ | × |
| Virtual_Environment_Management_ESX_SiS_Coda | × | ✓ | ✓ |

- 
BPM コンテンツパックと **Real_User_Monitor** コンテンツパックには相互依存関係があります。そのため、どちらか 1 つが必要な場合でも必ず両方をインストールしてください。
- 
OM コンテンツパックは、**HPOM** が **BSM** プラットフォームと共存する場合にのみ、**Application Performance Management** のデプロイメントシナリオでサポートされます。この場合、**HP SH Reporter** は、**HPOM** からのイベントデータのみを収集します。
- 
Application Performance Management のデプロイメントシナリオでは、**Active_Directory**、**Appserver_Weblogic**、**Appserver_WebSphere**、**Database_MSSQL**、**Database_Oracle**、**Exchange_Server**、**OMi** などのアプリケーション固有のコンテンツパックはサポートされません。同様に、**HPOM** のデプロイメントシナリオでは、**Real_User_Monitor**、**BPM**、**Core_BSM** などの **APM** 固有のコンテンツパックはサポートされません。

コンテンツパックの依存関係およびサポートされる製品の詳細については、[付録 A](#)を参照してください。

各コンテンツパックとそれらによって提供されるレポートの詳細については、*HP Service Health Reporter* ユーザーオンラインヘルプを参照してください。

HP SH Reporter データ処理ストリームの停止

HP SH Reporter の初期インストールの一部としてコンテンツパックをインストールする場合は、直接コンテンツパックのインストール作業に進んでください。

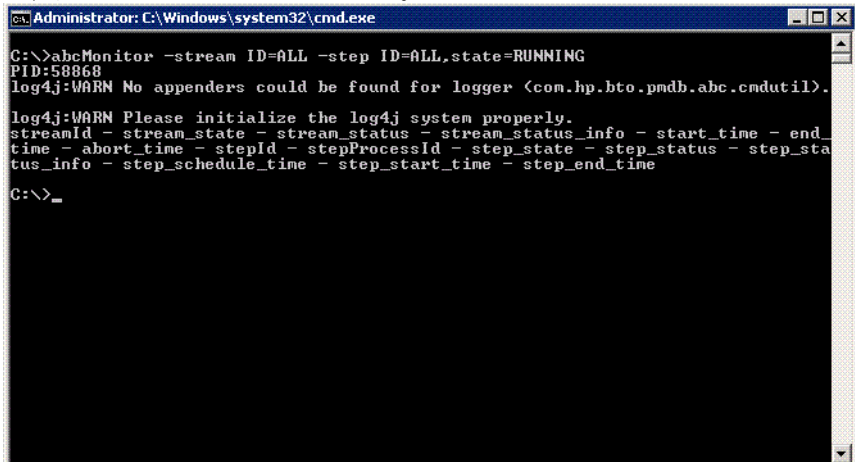
ただし、HP SH Reporter の稼働中にコンテンツパックをインストールする場合は、コンテンツパックのインストール時に HP SH Reporter のデータ処理ストリームが実行されていないことを確認してください。データ処理ストリームが実行されていると、必要なリソースを適切な状態に維持するのが非常に困難になります。さらに、これらのストリームは、コンテンツパックのインストールが失敗する原因になる場合があります。

データプロセスが実行されていないことを確認するには、次の手順を実行します。

- 1 [スタート] → [ファイル名を指定して実行] をクリックします。[ファイル名を指定して実行] ダイアログボックスが開きます。
- 2 [名前] フィールドに `services.msc` と入力し、[Enter] キーを押します。
[サービス] ウィンドウが開きます。
- 3 右側のペインで、[HP SH Reporter Timer] を右クリックし、[停止] をクリックします。
- 4 [サービス] ウィンドウを閉じます。
- 5 現在実行されているすべてのデータ処理ストリームが完了するまで待ちます。`abcMonitor` コマンドを使用して、ストリームの進捗状況を監視することができます。
- 6 [スタート] → [ファイル名を指定して実行] をクリックします。[ファイル名を指定して実行] ダイアログボックスが開きます。
- 7 [名前] フィールドに `cmd` と入力し、[Enter] キーを押します。コマンドプロンプトウィンドウが開きます。
- 8 データ処理ストリームの進捗状況を確認するには、コマンドプロンプトに次のコマンドを入力します。

```
abcMonitor -stream ID=ALL -step ID=ALL,state=RUNNING
```

すべてのアクティブなデータ処理ストリームが完了している場合は、次のサンプルのスクリーンショットに示すように **abcMonitor** コマンドを実行しても、何もレコードが返されません。



```
Administrator: C:\Windows\system32\cmd.exe
C:\>abcMonitor -stream ID=ALL -step ID=ALL,state=RUNNING
PID:58868
log4j:WARN No appenders could be found for logger <com.hp.bto.pmdb.abc.cmdutil>.
log4j:WARN Please initialize the log4j system properly.
streamId - stream_state - stream_status - stream_status_info - start_time - end_time - abort_time - stepId - stepProcessId - step_state - step_status - step_status_info - step_schedule_time - step_start_time - step_end_time
C:\>_
```

abcMonitor コマンドで何もレコードが返されない場合は、コンテンツパックのインストールに進むことができます。

コンテンツパックのインストール


コンテンツパックをインストールするには、パッケージマネージャユーティリティを使用します。

コンテンツパックをインストールするには、次の手順を実行します。

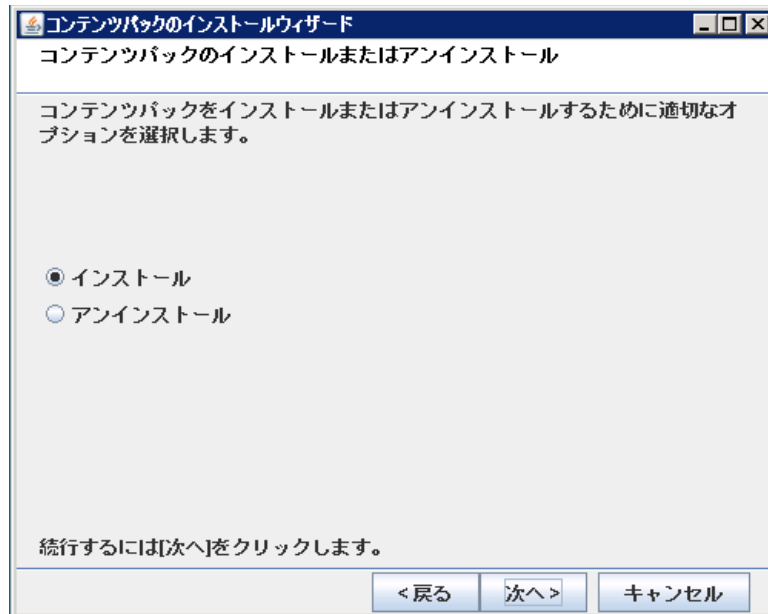
- 1 HP SH Reporter Windows サービスを停止します。
 - a [スタート]→[ファイル名を指定して実行]をクリックします。[ファイル名を指定して実行]ダイアログボックスが開きます。
 - b [名前]フィールドに **services.msc** と入力し、[Enter] キーを押します。[サービス]ウィンドウが開きます。
 - c 右側のペインで、次のサービスを右クリックし、[停止]をクリックします。
 - HP SH Reporter Timer
 - HP SH Reporter Collection Service
 - d [サービス]ウィンドウを閉じます。

2 コンテンツパックをインストールします。

- a [スタート]→[プログラム]→[HP ソフトウェア]→[SH Reporter]→[パッケージマネージャ]の順にクリックします。コンテンツパックのインストールウィザードウィンドウが開きます。

 パッケージマネージャの1つのインスタンスを開いていることを確認してください。

- b [コンテンツパックのインストールまたはアンインストールへようこそ]ページ上の[次へ]をクリックし、先に進みます。[コンテンツパックのインストールまたはアンインストール]ページが開きます。



- c [インストール]を選択し、[次へ]をクリックして続行します。[ビジネスオブジェクト設定]ページが開きます。

The screenshot shows a Windows-style dialog box titled "コンテンツパックのインストールウィザード" (Content Pack Installation Wizard). The main heading is "ビジネスオブジェクト設定" (Business Object Settings). Below the heading, it says "BOセントラル管理サーバーを検索し、サーバーに接続するために次の情報を入力してください。" (Search for the BO Central Management Server and enter the following information to connect to the server.).

The dialog is divided into two columns:

- サーバー設定 (Server Settings):**
 - BOサーバー、BOサーバーがリッスンするHTTPポートと認証のタイプ。(BO server, BO server listening HTTP port and authentication type.)
 - ビジネスオブジェクトサーバー: (Business Object Server) g11nvm37
 - HTTPポート: (HTTP Port) 8080
 - BO認証タイプ: (BO Authentication Type) secEnterprise
- ユーザー設定 (User Settings):**
 - BO CMS管理者のユーザー名とパスワードを入力してください。(Enter the BO CMS administrator's username and password.)
 - ユーザー名: (Username) Administrator
 - パスワード: (Password) [Empty field]

At the bottom of the dialog, there are three buttons: "<戻る" (Back), "次へ>" (Next), and "キャンセル" (Cancel).

- d SAP BusinessObjects セントラル管理サーバーにアクセスするためのユーザーの資格情報を入力し、[次へ]をクリックします。[コンテンツパックの選択]ページが開きます。



e インストールするコンテンツパックを選択し、[次へ]をクリックして続行します。[選択のサマリー]ページが開きます。

f 選択したコンテンツパックの概要を確認します。

— いずれかの選択内容を変更する場合は、[戻る]をクリックします。

— インストールプロセスを続行するには、[インストール]を選択します。

[インストールの進行状況]ページが開きます。

インストールが完了すると、インストールウィザードにコンテンツパックのインストールの詳細が表示されます。[インストールの完了]ウィンドウが開きます。

g インストールの詳細を確認し、[完了]をクリックしてコンテンツパックのインストールを完了します。

3 次のように、HP SH Reporter Windows サービスを再起動します。

a [スタート] → [ファイル名を指定して実行] をクリックします。[ファイル名を指定して実行] ダイアログボックスが開きます。

b [名前] フィールドに `services.msc` と入力し、[Enter] キーを押します。[サービス] ウィンドウが開きます。

c 右側のペインで、次のサービスを右クリックし、[開始] をクリックします。

- HP SH Reporter Timer
 - HP SH Reporter Collection Service
- d [サービス] ウィンドウを閉じます。

6 データ収集のための HP SH Reporter の設定

コンテンツパックのインストールが完了したら、HP SH Reporter はデータの収集を開始できます。データ収集のための HP SH Reporter の設定は、HP SH Reporter のインストールで選択したトポロジーソースのタイプによって異なります。

データ収集の設定作業は、次のカテゴリに編成されます。

- HPOM のデプロイメントシナリオで HP SH Reporter をインストールした場合、76 ページ、「[HPOM デプロイメントシナリオの場合の HP SH Reporter の設定](#)」を参照してください。
- Service and Operations Bridge のデプロイメントシナリオで HP SH Reporter をインストールした場合、94 ページ、「[Service and Operations Bridge のデプロイメントシナリオの場合の HP SH Reporter の設定](#)」を参照してください。
- Application Performance Management のデプロイメントシナリオで HP SH Reporter をインストールした場合、114 ページ、「[Application Performance Management デプロイメントシナリオの場合の HP SH Reporter の設定](#)」を参照してください。

HPOM デプロイメントシナリオの場合の HP SH Reporter の設定

HPOM デプロイメントシナリオでは、HPOM データベースが管理対象ノードのトポロジー情報のソースになります。HP SH Reporter は、HPOM for Windows および HPOM for Unix、HPOM for Linux、および HPOM for Solaris の両方のデータベースからのデータ収集をサポートします。

トポロジー関係は、ノードグループ、ノード、およびノードリソースに限定されます。グループ情報は、HPOM ノードグループから取得されます。ノードリソース情報は、コンテンツパックで定義されているルールに基づいて HP SH Reporter によって検出されます。

以下のデータコレクターを HP SH Reporter 内で設定する必要があります。

- トポロジー情報を取り出す HPOM データコレクター。
- イベントおよびメッセージを HPOM データベースから取り出し、さまざまなノードからデータを収集する HPOM データベースコレクター。
- エンタープライズアプリケーション、データベースおよびシステムリソースのデータを各種の管理対象ノードから収集する HP Performance Agent コレクター。

事前に必要な作業

HPOM トポロジーソース接続を設定する前に、各自の環境において、ドメインへのインストールまたはスタンドアロンシステムとしてのインストールのどちらの方法で HPOM がインストールされているかに応じて、該当する事前に必要な作業を実行する必要があります。

ドメインユーザー用の HP SH Reporter サービスの設定

ローカルアカウントではなくドメイン管理者アカウントを使って HP SH Reporter がシステムにインストールされている場合、HPOM デプロイメントシナリオでは HP SH Reporter サービスおよび HP SH Reporter Collection Service は始動しません。したがって、HPOM サービス定義ソース接続を設定する前に、ドメインユーザー用のサービスを設定する必要があります。

ドメインアカウント用の HP SH Reporter サービスの設定

次の手順を実行します。

- 1 [スタート] → [ファイル名を指定して実行] をクリックします。[ファイル名を指定して実行] ダイアログボックスが開きます。

- 2 [名前] フィールドに **services.msc** と入力し、[Enter] キーを押します。
[サービス] ウィンドウが開きます。
- 3 右側のペインで、**HP SH Reporter** を右クリックしてから [停止] をクリックします。
- 4 **HP SH Reporter** を右クリックしてから [プロパティ] をクリックします。[HP SH Reporter のプロパティ] ダイアログボックスが開きます。
- 5 [ログオン] タブで、[アカウント] を選択します。
- 6 次に、ドメインユーザー名をブランクフィールドに入力します。たとえば、**DOMAIN** ドメインのユーザーが **Administrator** という名前である場合、このフィールドに **DOMAIN\Administrator** と入力します。
- 7 ユーザーパスワードを [パスワード] フィールドに入力します。
- 8 パスワードを [パスワードの確認入力] フィールドに再度入力します。
- 9 [適用] をクリックし、[OK] をクリックします。
- 10 右側のペインで、**HP SH Reporter** を右クリックしてから [開始] をクリックします。

ドメインアカウント用の HP SH Reporter Collection Service の設定

次の手順を実行します。

- 1 [スタート] → [ファイル名を指定して実行] をクリックします。[ファイル名を指定して実行] ダイアログボックスが開きます。
- 2 [名前] フィールドに **services.msc** と入力し、[Enter] キーを押します。
[サービス] ウィンドウが開きます。
- 3 右側のペインで、[**HP SH Reporter Collection Service**] を右クリックしてから [停止] をクリックします。
- 4 [**HP SH Reporter Collection Service**] を右クリックしてから [プロパティ] をクリックします。[HP SH Reporter Collection Service のプロパティ] ダイアログボックスが開きます。
- 5 [ログオン] タブで、[アカウント] を選択します。
- 6 次に、ドメインユーザー名をブランクフィールドに入力します。
- 7 ユーザーパスワードを [パスワード] フィールドに入力します。
- 8 パスワードを [パスワードの確認入力] フィールドに再度入力します。
- 9 [適用] をクリックし、[OK] をクリックします。
- 10 右側のペインで、[**HP SH Reporter Collection Service**] を右クリックしてから [開始] をクリックします。

上記の手順が必須なのは、製品をドメインユーザー用にインストールする場合のみです。製品をローカルユーザー用にインストールする場合は、上記の手順は不要です。

設定手順を実行し終わったら、HPOM サービス定義接続の設定に進みます。

HPOM データベースサーバーでのデータベースユーザーアカウントの作成

この作業の実行方法は、HPOM 環境で Microsoft SQL Server がどのように設定されているかと、HPOM データベースサーバーと通信するために HP SH Reporter をどのように設定できるかによって異なります。選択できるシナリオには次の 2 つがあります。

- **シナリオ 1:** HPOM for Windows 8.x/9.x が 1 つのシステムにインストールされ、Microsoft SQL Server 2005 または Microsoft SQL Server 2008 は同一システムまたはリモートシステムにインストールされます。別のシステムにインストールされている HP SH Reporter は、Windows 認証または SQL Server 認証 (混合モード認証) を介して SQL Server に接続するように設定できます。SQL Server に定義されている認証方法を HP SH Reporter で使用して、HPOM データベース接続を設定できます。
- **シナリオ 2:** HPOM for Windows 8.x は、デフォルトで組み込まれている Microsoft SQL Server 2005 Express Edition を使用します。同様に、HPOM for Windows 9.x も、デフォルトで組み込まれている Microsoft SQL Server 2008 Express Edition を使用します。このシナリオにおける認証モードは、Windows NT 認証です。ただし、その場合、SQL Server と HP SH Reporter の間のリモート接続は可能ではありません。したがって、このシナリオで混合モード認証が可能になるよう、HP SH Reporter 用のユーザーアカウントを作成する必要があります。

そのユーザーアカウントを作成する前に、まず混合モード認証を使用可能にする必要があります。その手順の詳細は、以下の URL の「Microsoft サポート SQL Server Desktop Edition または SQL Server 2005 Express Edition のインスタンスに接続する方法」の記事の中の「インストール後に混合モード認証を有効にする」セクションを参照してください。

<http://support.microsoft.com/kb/319930>

認証目的でユーザー名およびパスワードを作成するには、以下の手順を実行します。Microsoft SQL Server 2008 を使用する場合、手順は、SQL Server 2005 で実行される次のような手順に似通っています。

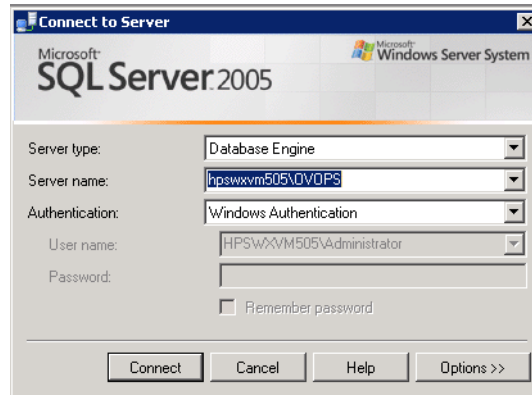
- 1 ユーザー名とパスワードを作成します。
 - a 組み込みの Microsoft SQL Server 2005 を使って HPOM システムにログインします。

- b [スタート] → [プログラム] → [Microsoft SQL Server 2005] → [SQL Server Management Studio] をクリックします。[Microsoft SQL Server Management Studio] ウィンドウが開きます。

▶ SQL Server Management Studio がシステムにインストールされていない場合、以下の URL を使用して Microsoft の Web サイトからダウンロードできます。

<http://www.microsoft.com/downloads/en/details.aspx?FamilyID=c243a5ae-4bd1-4e3d-94b8-5a0f62bf7796>

- c [サーバーへの接続] ダイアログボックスで、[認証] リストから [Windows 認証] を選択してから、[接続] をクリックします。



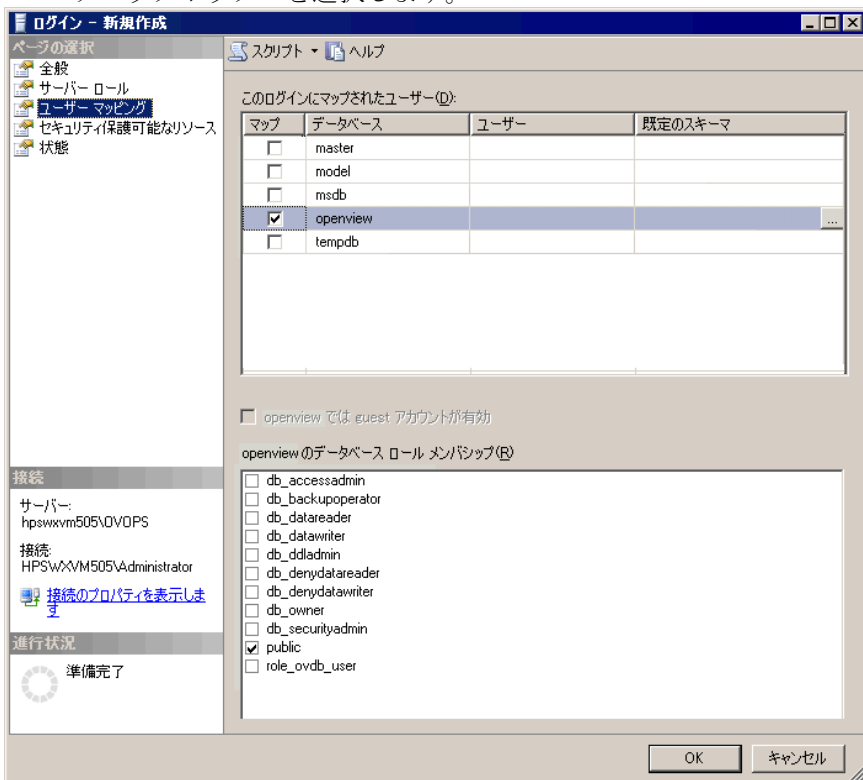
- d [オブジェクト エクスプローラ] ペインで、[セキュリティ] を展開します。



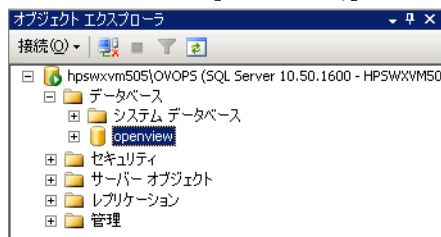
- e [ログイン] を右クリックし、[新しいログイン] をクリックします。[ログイン - 新規作成] ダイアログボックスが開きます。

- f [ログイン名] フィールドにユーザー名を入力します。必要なその他の詳細を指定します。
- g [SQL Server 認証] ラジオボタンを選択します。
- h [パスワード] フィールドにパスワードを入力します。
- i [パスワードの確認入力] フィールドにパスワードをもう一度入力します。パスワードの入力義務ルールの無効にして、シンプルなパスワードを作成することができます。
- j [ユーザー マッピング] をクリックします。

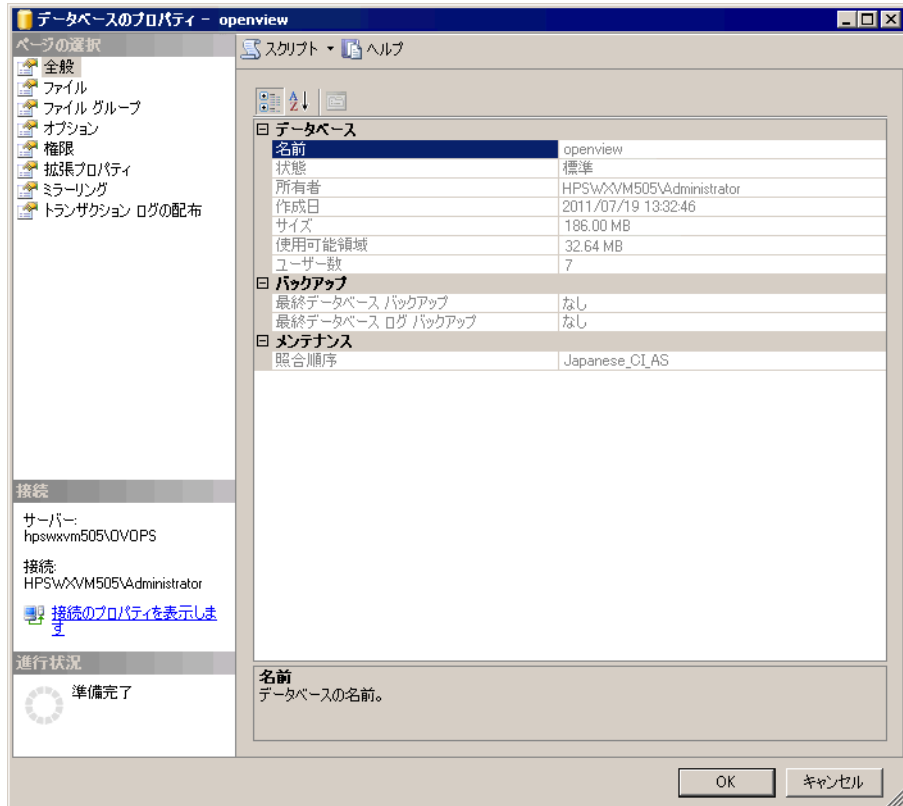
- k [このログインにマップされたユーザー] の下で、[openview] の横のチェックボックスを選択します。



- 1 [OK] をクリックし、ユーザー名とパスワードを作成します。
- 2 データベースユーザーは、少なくとも **CONNECT** 権限および **SELECT** 権限を持っていなければなりません。新たに作成したユーザーアカウントに対して **CONNECT** 権限および **SELECT** 権限を有効にするには、以下の手順を実行します。
- a [オブジェクトエクスプローラ] ペインで、[データベース] を展開します。

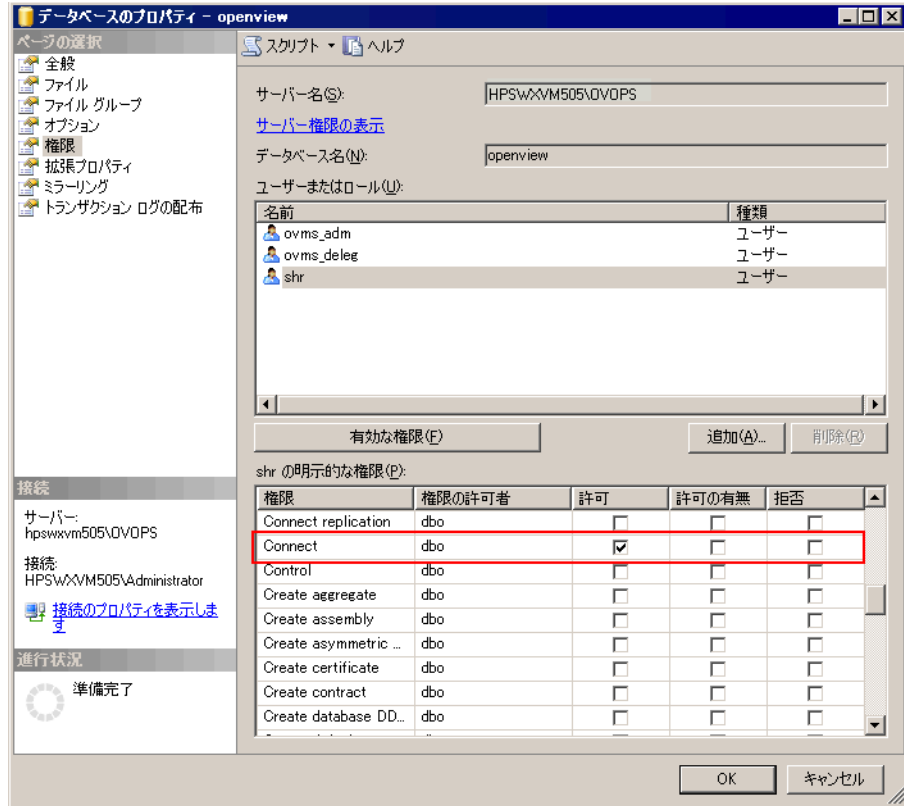


- b [openview] を右クリックしてから、[プロパティ] をクリックします。[データベースのプロパティ - openview] ダイアログボックスが開きます。

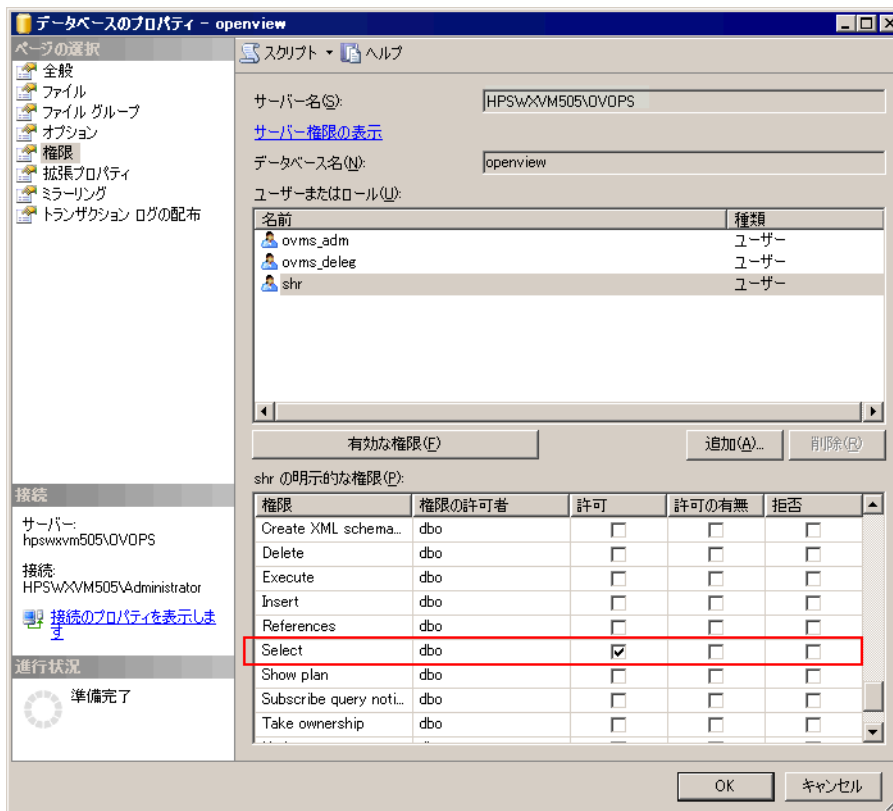


- c [ページの選択] ペインで、[権限] をクリックします。
- d [ユーザーまたはロール] の下で、新たに作成したユーザーアカウントをクリックします。

- e [明示的な権限]の下で、**CONNECT** 権限にスクロールダウンしてから、その権限に対する[許可]チェックボックスを選択します。



- f **SELECT** 権限にスクロールダウンし、その権限に対する [許可] チェックボックスを選択します。



- g **[OK]** をクリックします。

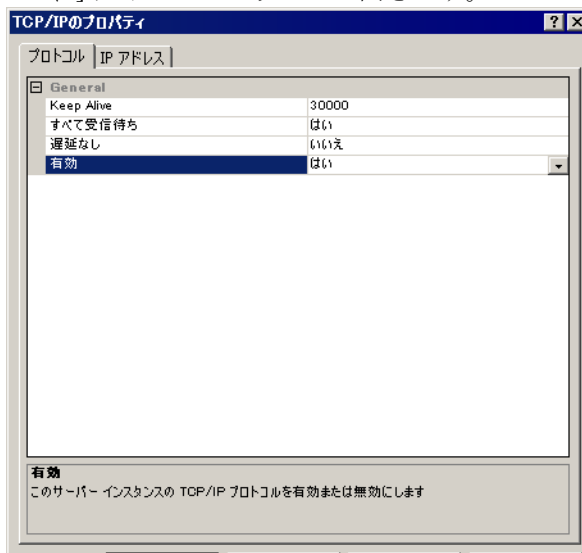
- 3 次のように、HPOM サーバーのポート番号をチェックします。

- a **[スタート]** → **[プログラム]** → **[Microsoft SQL Server 2005]** → **[構成ツール]** → **[SQL Server 構成マネージャ]** をクリックします。[SQL Server 構成マネージャ] ウィンドウが開きます。

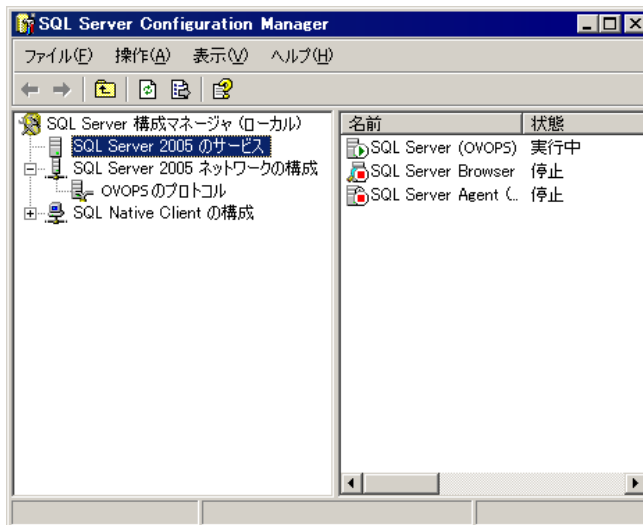
- b [SQL Server ネットワークの構成] を展開して [OVOPS のプロトコル] を選択します。インスタンス名を変更した場合、該当するインスタンス名を選択します。



- c 右側のペインで、[TCP/IP] を右クリックしてから [有効化] をクリックします。
- d [TCP/IP] をもう一度右クリックし、[プロパティ] をクリックします。[TCP/IP のプロパティ] ダイアログボックスが開きます。



- e [IP アドレス] タブの [IPAIL] の下のポート番号を書き留めます。
- 4 HPOM データベースサーバーを再起動します。
- a [SQL Server 構成マネージャ] ウィンドウで、[SQL Server のサービス] をクリックします。



- b 右側のペインで、[SQL Server (OVOPS)] を右クリックしてから [再起動] をクリックします。

管理コンソールで HPOM データソース接続を設定する際、新たに作成したユーザー名、パスワードおよび検出したインスタンス名とポート番号を使用できます。



コマンドプロンプトユーティリティ **osql** を使用して、この手順を実行できます。詳細は、以下の URL の Microsoft サポート「**osql** ユーティリティを使用して SQL Server Desktop Engine (MSDE 2000) または SQL Server 2005 Express Edition を管理する方法」の記事を参照してください。

<http://support.microsoft.com/kb/325003>

データ収集のための HP SH Reporter での HPOM トポロジーソース接続および HPOM データソース接続の設定に進んでください。次のタスクを実行します。

タスク 1: HPOM サービス定義ソースの設定

HP SH Reporter 管理コンソールを使用して、HPOM サービス定義ソース接続を設定し、トポロジー情報を提供します。

- ▶ HPOM for Windows とともにインストールされるデフォルトの SQL Server Express はリモート接続を受け入れません。

HPOM データソース接続の設定

次の手順を実行します。

- 1 [スタート] → [プログラム] → [HP ソフトウェア] → [SH Reporter] → [管理] をクリックします。管理コンソールが開きます。
- 2 ログイン画面で、[ログイン名] フィールドに **Administrator** と入力してから、[ログイン] をクリックします。
このユーザー名用のパスワードを作成する手順は、117 ページ、「[HP SH Reporter 管理者アカウントのパスワードの作成](#)」を参照してください。
- 3 管理コンソールで、[トポロジーソース] → [サービス定義] をクリックします。[サービス定義] ページが開きます。

サービス定義 ?


サービス定義ソース

サービス定義ソース

RTSM HP OM

| ホスト名 | 収集を有効にする | 頻度のスケジュール | ステータス | | 設定 |
|-----------------------|----------|-----------|-------|----|----|
| | | | 接続 | 収集 | |
| サービス定義データソースが見つかりません。 | | | | | |

接続テスト 新規作成 保存

- 4 [サービス定義ソース] の下で [HP OM] を選択し、HPOM データソース接続を作成します。
 [サービス定義] ページでトポロジーソースを設定した後でトポロジーソースを変更することはできません。
- 5 [新規作成] をクリックします。[接続パラメータ] ダイアログボックスが開きます。

6 [接続パラメータ] ダイアログボックスで、次の値を指定または入力します。



認証にデータベースの方法を使用して **HPOM** データベースサーバーに接続している場合は、**openview** データベースの **SELECT** 権限と **CONNECT** 権限を持つユーザーの詳細をここで指定する必要があります。

データソースのタイプ - 環境で設定されている **HPOM** のタイプを選択します。オプションには次のものがあります。

- **HPOM for Windows**
- **HPOM for Unix**
- **HPOM for Linux**
- **HPOM for Solaris**

データベースタイプ - 選択するデータソースタイプに応じて、データベースタイプが自動的に選択されます。**HPOM for Windows** データソースタイプの場合、データベースタイプは **MSSQL** です。**HPOM for Unix**、**HPOM for Linux**、**HPOM for Solaris** の場合、データベースタイプは **Oracle** です。

ホスト名 - **HPOM** データベースサーバーの **IP** アドレスまたは完全修飾ドメイン名 (**FQDN**)。

データベースインスタンス - データソース内のデータベースインスタンスのシステム識別子 (**SID**)。デフォルトのデータベースインスタンスは **OVOPS** です。

データベース名 - **HPOM** データベースの名前。このフィールドは、データソースタイプとして **HPOM for Windows** が選択された場合のみ表示されます。データベースの名前は **openview** です。

ポート - **HPOM** データベースサーバーに照会するためのポート番号。

OVOPS などの、データベースインスタンスのポート番号をチェックするには、**90** ページ、「**HPOM** サーバーのポート番号のチェック」を参照してください。

- | | |
|------------|---|
| Windows 認証 | - HPOM データベースにアクセスするための Windows 認証を有効にするためのオプション。ユーザーは、データベースをホスティングしている Windows システムのアクセス資格情報と同じ情報を使用して HPOM にアクセスすることができます。このオプションは、データソースタイプとして HPOM for Windows が選択された場合にのみ表示されます。 |
| ユーザー名 | - HPOM データベースユーザーの名前。HPOM for Windows データソースタイプの場合に、[Windows 認証] オプションを選択すると、このフィールドは無効になって空になります。 |
| パスワード | - HPOM データベースユーザーのパスワード。HPOM for Windows データソースタイプの場合に、[Windows 認証] オプションを選択すると、このフィールドは無効になって空になります。 |

- 7 [OK] をクリックします。
- 8 [接続テスト] をクリックし、接続をテストします。
- 9 [保存] をクリックして変更を保存します。
- 10 メッセージボックスで、[はい] をクリックします。[正常に保存しました] メッセージが [情報] メッセージパネルに表示されます。

手順 3 ~ 6 を実行すれば、追加の HPOM データソースを設定できます。



非ドメインホストからデータを収集するには、そのようなホストに対して HPOM 管理者が適切な DNS 解決を行うことにより、ドメインにインストールされている HP SH Reporter からそのホストに到達できるようにする必要があります。

- 11 1つ以上のホストの HPOM データ収集スケジュールを変更するには、[HP OM 同期をスケジュールに指定する] の下で、[時間] ボックスに 1 ~ 24 時間の同期時間を指定します。
- 12 [適用] をクリックします。
- 13 [保存] をクリックして変更を保存します。[正常に保存しました] メッセージが [情報] メッセージパネルに表示されます。

HPOM サービス定義ソースの設定に関する詳細は、『HP Service Health Reporter 管理者オンラインヘルプ』のトピック「[エンタープライズトポロジーの管理](#)」を参照してください。

HPOM サーバーのポート番号のチェック

SQL Server が HPOM で使用するデータベースタイプである場合、78 ページ、「**HPOM データベースサーバーでのデータベースユーザーアカウントの作成**」の手順 3 を参照して、HPOM サーバーのポート番号をチェックしてください。

Oracle が HPOM におけるデータベースタイプの場合、以下の手順を実行して、ポート番号をチェックしてください。

- 1 Oracle サーバーにログオンします。
- 2 \$ORACLE_HOME/network/admin フォルダまたは %ORACLE_HOME%\NET80\Admin フォルダに移動します。
- 3 listener.ora ファイルを開きます。HPOM サーバーのポート番号はこのファイルに一覧表示されています。

タスク 2: エンタープライズアプリケーションデータソースの設定

HPOM サービス定義ソースを設定し終わったら、データソースを設定し、インストール済みの各種コンテンツパック用のデータを提供する必要があります。

HPOM データベース接続の設定

HPOM コンテンツパックのインストールを完了し、HPOM 用のトポロジーソース接続を [サービス定義] ページで作成し終わったら、同じデータソース接続が [Operations Manager] ページに表示されます。新規のデータソース接続を作成する必要はありません。既存の接続をテストし、それを保存できます。

ただし、[サービス定義] ページでデータソース接続を更新しても、[Operations Manager] ページの接続の詳細は更新されません。

次の手順を実行します。

- 1 管理コンソールで、[**収集設定**] [**Operations Manager**] をクリックします。
[**Operations Manager**] ページが開きます。

Operations Manager ?

| | ホスト名 | 収集を有効にする | 頻度のスケジュール | ステータス | | 設定 |
|--------------------------|----------------------|-------------------------------------|-----------|-------------------------------------|---|--------------------|
| | | | | 接続 | 収集 | |
| <input type="checkbox"/> | Sapsp13.ind.hp.com | <input checked="" type="checkbox"/> | 1 時 | <input checked="" type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> 2011/10/31 18:40:09 | 設定 |
| <input type="checkbox"/> | scdl5-vm1.ind.hp.com | <input checked="" type="checkbox"/> | 1 時 | <input checked="" type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> 2011/10/31 18:40:15 | 設定 |

接続テスト 削除 新規作成 保存

- 2 ホスト名の横のチェックボックスを選択してから、[**接続テスト**] をクリックして接続をテストします。
- 3 [**保存**] をクリックして変更を保存します。[正常に保存しました] メッセージが [情報] メッセージパネルに表示されます。

追加の **HPOM** データソースを設定するには、[**新規作成**] ボタンをクリックします。特定のデータソース接続を変更するには、[**設定**] をクリックします。

- 4 1 つ以上のホストの **HPOM** データ収集スケジュールを変更するには、[**頻度のスケジュール**] 列で、[**時間**] ボックスに1~24時間の収集時間を指定します。
- 5 [**保存**] をクリックして変更を保存します。[正常に保存しました] メッセージが [情報] メッセージパネルに表示されます。

HPOM データソース接続の設定に関する詳細は、『**HP Service Health Reporter 管理者オンラインヘルプ**』のトピック「**HPOM データ収集の管理**」を参照してください。

HP Performance Agent データソースの設定

HPOM デプロイメントシナリオでは、**HP Performance Agent** の新規データソース接続を作成する必要はありません。デフォルトでは、トポロジー情報の収集時に、**HP Performance Agent** がインストールされているすべてのノードが自動的に検出されるからです。そのような **HP Performance Agent** データソースまたはノードは、管理コンソールの [**PA データソース**] ページに一覧表示されます。

HP Performance Agent データソースのリストを表示するには、次の手順を実行します。

- 1 管理コンソールで、[収集設定] → [PA データソース] をクリックします。[PA データソース] ページが開きます。

PAデータソース ?

PAデータソースのサマリー

| ビュー名 | ホスト | 収集 | | | 有効無効 |
|---------------------------------------|-----|----|----|-----|------|
| | | パス | 失敗 | 未収集 | |
| All | 23 | 0 | 0 | 23 | 23/0 |
| SM_SIS (Core_BSM) | 11 | 0 | 0 | 11 | 11/0 |
| J2EE_Deployment (Appserver_WebSphere) | 1 | 0 | 0 | 1 | 1/0 |
| SM_SIS (System_Management_SiS) | 11 | 0 | 0 | 11 | 11/0 |
| J2EE_Deployment (Appserver_Weblogic) | 1 | 0 | 0 | 1 | 1/0 |

PAデータソース [ビュー名: All]

フィルタの選択
 ホスト名

| | ホスト名 | 収集を有効にする | ポーリング頻度のスケジュール | ステータス | |
|--------------------------|----------------------|-------------------------------------|----------------|-------------------------------------|---|
| | | | | 接続 | 収集 |
| <input type="checkbox"/> | bsmr-vm22.ind.hp.com | <input checked="" type="checkbox"/> | 1 時 | <input checked="" type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> 2011/10/31 18:40:09 |

- 2 HP Performance Agent データソースの詳細を表示するには、[PA データソースのサマリー] テーブル内のビュー名または番号をクリックします。[PA データソースの詳細] テーブルが開きます。
- 3 1つ以上のホストのデータ収集スケジュールを変更するには、[ポーリング頻度のスケジュール] 列の [時間] ボックスに 1 ~ 24 時間のポーリング時間を指定します。
- 4 [保存] をクリックして変更を保存します。[正常に保存しました] メッセージが [情報] メッセージパネルに表示されます。
- 5 HP SH Reporter 管理コンソールを閉じます。

HP Performance Agent データソース接続の設定に関する詳細は、『**HP Service Health Reporter 管理者オンラインヘルプ**』のトピック「**PA データソースのデータ収集の管理**」を参照してください。



コンテンツパックのインストールが完了し、データ収集のために **HP SH Reporter** を設定し終わったら、データ保管テーブル内のデータを表示できるまでに少なくとも **3 時間** 待機する必要があります。

HP SH Reporter は、**HPOM** 管理対象環境内の設定済みのさまざまなデータソースからの履歴データの収集を開始し、必要なレポートを作成します。レポートの表示方法の詳細は、『**HP Service Health Reporter ユーザーオンラインヘルプ**』を参照してください。

Service and Operations Bridge のデプロイメントシナリオの場合の HP SH Reporter の設定

Service and Operations Bridge 環境では、RTSM が HP SH Reporter のトポロジー情報源になります。トポロジー情報には、RTSM においてモデル化されて検出されるすべての CI が含まれます。グループ情報は、RTSM ビューから取得されます。ノードリソース情報は、RTSM から直接取得されます。情報の収集は、RTSM が開示している Web サービスインタフェースを介して行われます。

インストールされているコンテンツパックに基づいて、以下のデータコレクターを HP SH Reporter で設定する必要があります。

- 環境内のさまざまなタイプの CI に関するトポロジー情報およびデータを RTSM データベースから収集する RTSM コレクター。収集されるデータは、各コンテンツパックと共に提供される RTSM ビューによって定義されます。
- プロファイルデータベースおよび管理データベースの履歴合成トランザクションモニタリングデータおよびリアルユーザーモニタリングデータを収集するデータベースコレクター。これはまた、プロファイルデータベース、管理データベース、HPOM データベース、および HP OMi データベースなどのデータソースのデータベースからイベント、メッセージ、可用性、およびパフォーマンスの主要パフォーマンス指標 (KPI) も収集します。
- システムパフォーマンスメトリックと、アプリケーション、データベース、およびシステムリソースに関連したデータを収集する HP Performance Agent コレクター。データは、管理対象ノードにインストールされている HP Performance Agent によって収集されます。

タスク 1: トポロジービューのデプロイメント

HP Business Service Management 環境では、RTSM を使用して CI が検出され、トポロジービューが作成されます。ドメイン固有データを収集するように HP SH Reporter を設定するには、まずコンテンツパックごとにそのようなトポロジービューをデプロイする必要があります。

そのトポロジービューには、コンテンツパックが関連データを収集するのに使用する個々の CI 属性が備えられています。ただし、このトポロジービューは、コンテンツパックごとに異なる可能性があります。

たとえば、Exchange Server コンテンツパックでは、Exchange Server、メールボックスサーバー、メールボックスおよびパブリックフォルダストアなどを一覧表示するトポロジービューが必要になることがあります。ただし、System Management コンテンツパックでは、すべてのビジネスアプリケーション、ビジネスサービス、およびインフラストラクチャ内の CPU、メモリー、ディスクなどのシステムリソースを一覧表示する別のトポロジービューが必要になる可能性があります。これらのビューに基づいて、各コンテンツパックの CI 属性はそれぞれ異なる可能性があります。

HP Business Service Management サーバーでのコンテンツパック用のトポロジーモデルビューをデプロイするには、次の手順を実行します。

- 1 システム管理者として **HP Business Service Management** ホストシステムにログオンします。
- 2 リモートアクセスを通して管理者として、**HP SH Reporter** がインストールされているホストシステムにログオンします。
- 3 %PMDB_Home%\packages に移動し、以下のトポロジービューをコピーします。

| コンテンツパック | ビュー名 | 場所 |
|-------------------|-------------------|---|
| BPM | EUM_BSMR.zip | %PMDB_Home%\packages\BPM\BPM.ap\CMDB_View |
| Real_User_Monitor | EUM_BSMR.zip | %PMDB_Home%\packages\RUM\RUM.ap\CMDB_View |
| System_Management | SM_BSM9_Views.zip | %PMDB_Home%\packages\System_Management\System_Management.ap\CMDB_View |

たとえば、System Management zip ファイルをコピーするには、%pmdb_home%\packages\System_Management\System_Management.ap\CMDB_View\SM_BSM9_Views.zip に移動し、SM_BSM9_Views.zip ファイルを HP Business Service Management ホストシステムにコピーします。

- 4 HP Business Service Management ホストシステムで、[スタート] → [プログラム] → [Internet Explorer] をクリックします。Web ブラウザーが開きます。
- 5 Web ブラウザーで、以下の URL を入力します。

http://<サーバー名>.<ドメイン名>/HPBSM

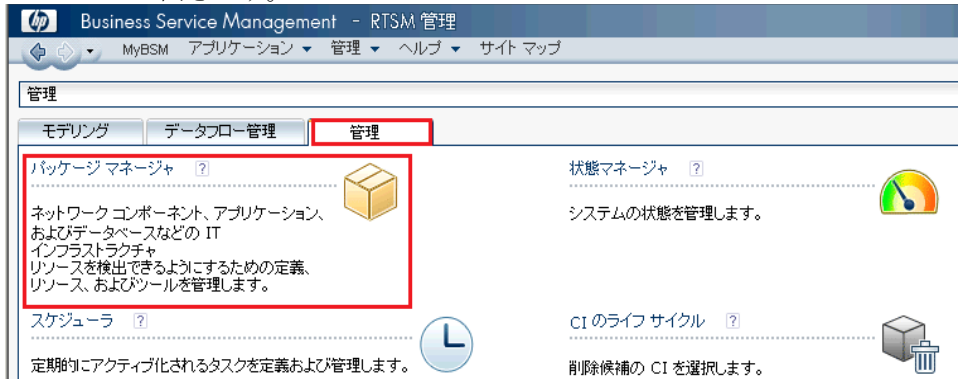
ここでの < サーバー名 > は、HP Business Service Management サーバーの名前、< ドメイン名 > は、ユーザーネットワーク設定どおりのユーザーのドメインの名前です。

[Business Service Management のログイン] ページが開きます。

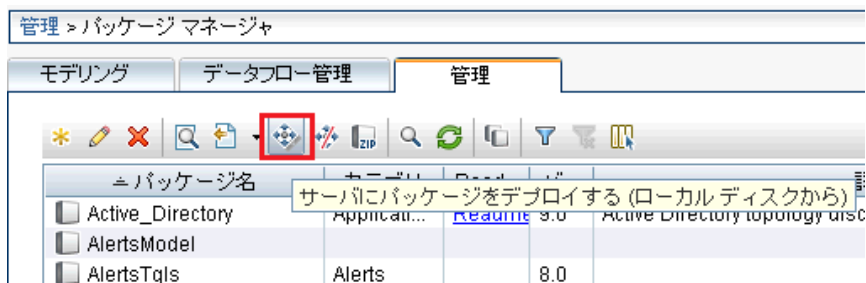
- 6 ログイン名とパスワードを入力し、[ログイン] をクリックします。[Business Service Management - サイトマップ] が開きます。
- 7 [管理] → [RTSM 管理] をクリックします。[RTSM 管理] ページが開きます。



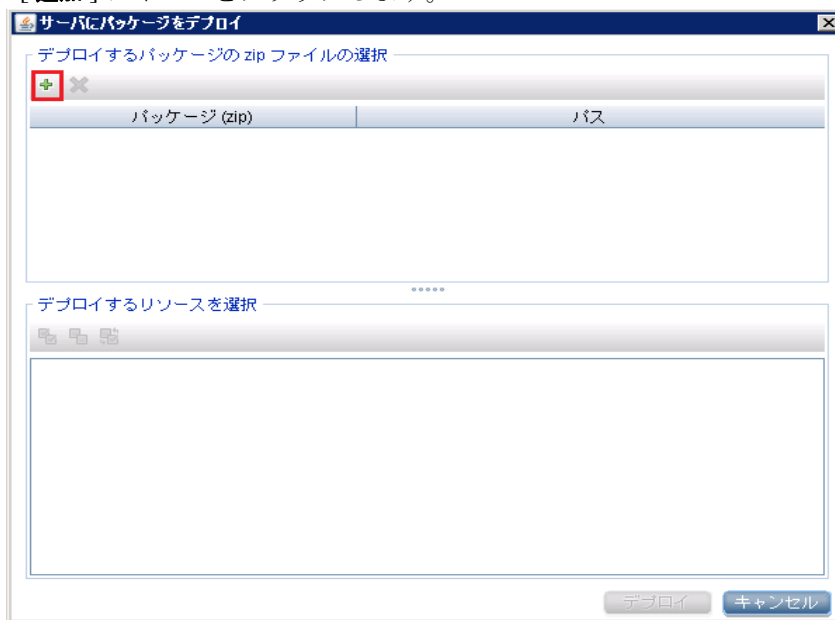
- 8 [管理] → [パッケージマネージャ] をクリックします。[パッケージマネージャ] ページが開きます。



- 9 [サーバにパッケージをデプロイする (ローカルディスクから)] アイコンをクリックします。[サーバにパッケージをデプロイ] ダイアログボックスが開きます。



- 10 [追加] アイコンをクリックします。



[サーバにパッケージをデプロイする (ローカルディスクから)] ダイアログボックスが開きます。

- 11 コンテンツパック zip ファイルの場所に移動し、目的のファイルを選択してから、[開く] をクリックします。

[サーバにパッケージをデプロイする(ローカルディスクから)]ダイアログボックスの[デプロイするリソースを選択]の下で、デプロイするTQLビューおよび ODB ビューを表示および選択することができます。すべてのファイルを選択したことを確認します。

12 [デプロイ]をクリックし、コンテンツパックビューをデプロイします。

コンテンツパックのCI属性の有効化

どのコンテンツパックビューにも、そのコンテンツパックに固有のCI属性のリストが備えられています。データ収集に必要なCI属性は、デプロイ後の各コンテンツパックビューにおいて自動的に有効になります。

ビジネスニーズに関連した追加情報を収集するための追加のCI属性を有効にするには、次の手順を実行します。

- 1 [スタート] → [プログラム] → [Internet Explorer] をクリックします。Web ブラウザーが開きます。
- 2 Web ブラウザーで、以下の URL を入力します。

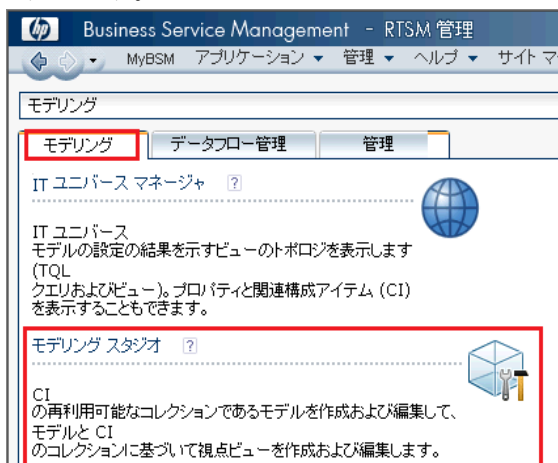
http://<サーバー名>.<ドメイン名>/HPBSM

ここでの<サーバー名>は、HP Business Service Management サーバーの名前、<ドメイン名>は、ユーザーネットワーク設定どおりのユーザーのドメインの名前です。

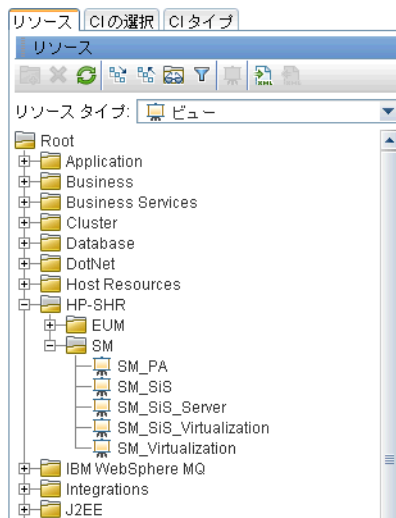
[Business Service Management のログイン] ページが開きます。

- 3 ログイン名とパスワードを入力し、[ログイン] をクリックします。[ビジネスサービス管理 - サイトマップ] が開きます。
- 4 [管理] → [RTSM 管理] をクリックします。[RTSM 管理] ページが開きます。

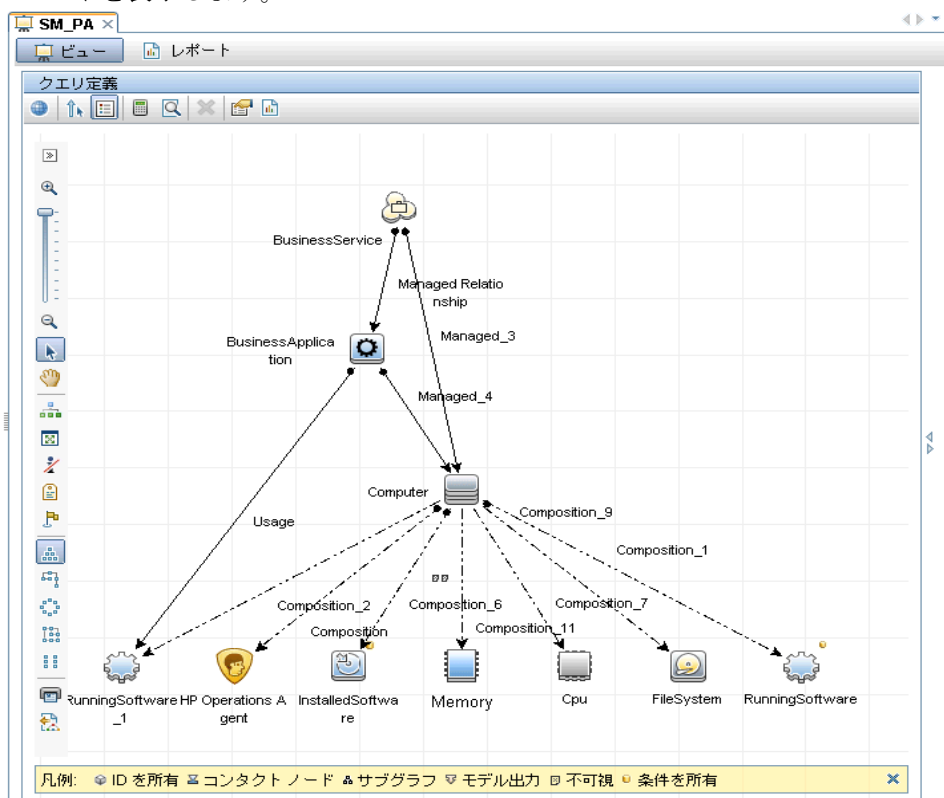
- 5 [モデリング] → [モデリングスタジオ] をクリックします。[モデリングスタジオ] ページが開きます。



- 6 [リソース] ペインで、[HP-SHR] を展開、コンテンツパックのフォルダーを展開して、トポロジービューをダブルクリックして開きます。



- 7 トポロジーペインで、トポロジー図内の任意のノードを右クリックしてから [クエリノードのプロパティ] をクリックして、選択したノードの CI 属性のリストを表示します。



[クエリノードプロパティ] ダイアログボックスが開きます。

- 8 [詳細レイアウト設定] をクリックします。[レイアウト設定] ダイアログボックスが開きます。有効化する属性を選択してから [OK] をクリックします。



HP SH Reporter に対して選択したタイプのデプロイメントシナリオに基づいて、コンテンツパックのデプロイが正常に完了しました。

タスク 2: HP SH Reporter との統合のための SiteScope の設定

HP SiteScope は、サーバー、オペレーティングシステム、ネットワークデバイス、ネットワークサービス、アプリケーション、アプリケーションコンポーネントなどの分散 IT インフラストラクチャの可用性とパフォーマンスを確保するよう設計されたエージェント不要の監視ソリューションです。

HP SH Reporter が VMware 仮想化データを SiteScope から収集するためには、SiteScope を HP SH Reporter に統合するように設定する必要があります。そのためには、HP Operations Agent パッチ 10.51.285 を適用した SiteScope 11.11 が環境にインストールされていることを確認します。それ以外に、ユーザー定義テンプレートを SiteScope にインポートしてデプロイする必要もあります。その

テンプレートは、IT 要素に関するデータを収集する一連のモニターを速やかにデプロイすることによって、社内のさまざまな IT 要素のモニタリングを標準化します。また、データのログ記録のために HP Operations Agent に対する SiteScope の統合を可能にして、エージェントに必要なデータを HP SH Reporter が収集できるようにする必要があります。

前提条件として、SiteScope と BSM 間の統合を可能にして、SiteScope モニターによって収集されたトポロジーデータを BSM に送信できるようにする必要があります。BSM との SiteScope の統合の詳細は、『SiteScope の使用』ガイドの第 8 章「[Business Service Management \(BSM\) との連携](#)」を参照してください。

SiteScope を HP SH Reporter に統合するには、次の手順を実行します。

- 1 管理者として、HP SH Reporter がインストールされているホストシステムにログオンします。
- 2 SiteScope アドレスを Web ブラウザーに入力することにより、SiteScope にアクセスします。デフォルトアドレスは次のとおりです。 **http://<SiteScope ホスト名>:<ポート番号>/SiteScope**.
- 3 %PMD_HOME%\¥packages¥System_Management¥System_Management.ap フォルダーに置かれている SiteScope_Template ファイルを SiteScope にインポートします。SiteScope でテンプレートをインポートする手順の詳細は、『SiteScope の使用』ガイドの第 39 章「[テンプレートのインポートおよびエクスポート](#)」を参照してください。このガイドは、以下の URL に用意されています。

<http://support.openview.hp.com/selfsolve/manuals>

- 4 SiteScope_Template ファイルによってインポートされたモニターをデプロイします。その手順の詳細は、『SiteScope の使用』ガイドの第 40 章「[テンプレートのデプロイ](#)」を参照してください。
- 5 データのログ記録のために SiteScope を HP Operations Agent に統合できるようにします。その手順の詳細は、『SiteScope の使用』ガイドの第 9 章「[HP Operations Agent を使用した Operations Manager と BSM での作業](#)」を参照してください。
- 6 モニター数と、HP Operations Agent の統合システムにデータを取り込む頻度を設定します。デフォルトの SiteScope 設定で数千のモニターの実行は可能ですが、SiteScope-HPOM のメトリックの統合において保存できるモニターの最大数、メトリック、およびモニタータイプの計画を立てるには、サイズ設定が重要です。詳細は、『SiteScope の使用』ガイドの第 9 章の中の「[SiteScope-Operations Manager 測定値統合のサイズ設定の推奨事項](#)」のセクションを参照してください。

タスク 3: RTSM サービス定義ソースの設定

HP SH Reporter 管理コンソールを使用して、RTSM サービス定義ソースを設定し、管理下環境のトポロジー情報を提供できます。

RTSM トポロジーデータソース接続を設定するには、次の手順を実行します。

- 1 [スタート] → [プログラム] → [HP ソフトウェア] → [SH Reporter] → [管理] をクリックします。
- 2 ログイン画面で、[ログイン名] フィールドに **Administrator** と入力してから、[ログイン] をクリックします。管理コンソールが開きます。
このユーザー名用のパスワードを作成する手順は、117 ページ、「**HP SH Reporter 管理者アカウントのパスワードの作成**」を参照してください。
- 3 管理コンソールで、[トポロジーソース] → [サービス定義] をクリックします。[サービス定義] ページが開きます。

サービス定義 ?


サービス定義ソース

サービス定義ソース

RTSM HP OM

| ホスト名 | 収集を有効にする | 頻度のスケジュール | ステータス | | 設定 |
|-----------------------|----------|-----------|-------|----|----|
| | | | 接続 | 収集 | |
| サービス定義データソースが見つかりません。 | | | | | |

接続テスト 新規作成 保存

- 4 [サービス定義ソース] の下で [RTSM] を選択し、RTSM データソース接続を作成します。
 [サービス定義] ページでトポロジーソースを設定した後でトポロジーソースを変更することはできません。
- 5 [新規作成] をクリックします。[接続パラメータ] ダイアログボックスが開きます。

6 [接続パラメータ] ダイアログボックスに次の値を入力します。

- | | |
|-------|---|
| ホスト名 | - Business Service Management サーバーの IP アドレスまたは FQDN。HP Business Service Management インストールシステムが分散されている場合は、データ処理サーバー (DPS) の名前を [ホスト名] フィールドに入力します。 |
| ポート | - RTSM Web サービスに照会するためのポート番号。デフォルトのポート番号は 21212 です。 ポート番号が変更された場合、データベース管理者に詳細を問い合わせてください。 |
| ユーザー名 | - RTSM Web サービスユーザーの名前。デフォルトのユーザー名は admin です。 |
| パスワード | - RTSM Web サービスユーザーのパスワード。デフォルトのパスワードは admin です。 |

7 [OK] をクリックします。



作成できる RTSM データソース接続は 1 つのみです。接続が作成された後、デフォルトでは [新規作成] ボタンは無効になります。この設定は 1 回限りの設定なので、正しい値を入力したことを確認してください。

8 [接続テスト] をクリックし、接続をテストします。

9 [保存] をクリックして、このページで行った変更を保存します。

10 メッセージボックスで、[はい] をクリックします。[正常に保存しました] メッセージが [情報] メッセージパネルに表示されます。

11 RTSM データ収集スケジュールを変更するには、[頻度のスケジュール] 列で、[時間] ボックスに 1 ~ 24 時間の収集時間を指定します。デフォルトの同期時間は 24 時間です。

12 [保存] をクリックして変更を保存します。[正常に保存しました] メッセージが [情報] メッセージパネルに表示されます。

RTSM サービス定義ソースの設定に関する詳細は、『HP Service Health Reporter 管理者オンラインヘルプ』のトピック「[エンタープライズトポロジの管理](#)」を参照してください。

タスク 4: エンタープライズアプリケーションデータソースの設定

HP SH Reporter にトポロジー情報を提供するための RTSM トポロジーソースの設定が完了したら、インストールしたさまざまなコンテンツパックのデータを提供するためのデータソースの設定に進むことができます。

プロファイルデータベースのデータソース接続の設定

HP Business Service Management のデプロイメントでは、複数のプロファイルデータベースを設定する場合があります。この目的は、すべてのデータを保管するには 1 つのデータベースでは十分ではないためスケーリングすること、あるいは重要なデータをすべて一方のプロファイルデータベースに保管し、重要でないデータをすべてもう一方のプロファイルデータベースに保管して、データを分離することです。環境内にデプロイされているさまざまなプロファイルデータベースに関する情報は、管理データベースに保管されます。

複数のプロファイルデータベース接続を設定するには、[ManagementDB / ProfileDB] ページで管理データベースを設定する必要があります。管理データベースのデータソース接続が設定されると、デプロイされたプロファイルデータベースがすべて HP SH Reporter によって検出され、[ManagementDB / ProfileDB] ページにリスト表示されます。

次の手順を実行します。

- 1 管理コンソールで、[収集設定] [ManagementDB / ProfileDB] をクリックします。
[ManagementDB / ProfileDB] ページが開きます。

- 2 [管理データベース] の下の [新規作成] をクリックします。[接続パラメータ] ダイアログボックスが開きます。

ManagementDB / ProfileDB ?

Management Database

| ホスト名 | ステータス | | 設定 |
|-------------------|-------|----|----|
| | 接続 | 収集 | |
| 管理データベースが見つかりません。 | | | |

接続パラメータ

ホスト名

ポート

データベースインスタンス

データベースタイプ

ユーザー名

パスワード

プロフィールデータベース

| ホスト名 | 収集を有効にする | データベース名 | ステータス | | 接続テスト |
|-----------------------|----------|---------|-------|----|-------|
| | | | 接続 | 収集 | |
| プロフィールデータベースが見つかりません。 | | | | | |

- 3 [接続パラメータ] ダイアログボックスに次の値を入力します。

- | | |
|--------------|---|
| ホスト名 | - 管理データベースサーバーの名前。 |
| ポート | - 管理データベースサーバーに照会するためのポート番号。 |
| データベースインスタンス | - 管理データベースインスタンスのシステム識別子 (SID)。 |
| データベースタイプ | - 管理データベースを作成するために使用されるデータベースエンジンのタイプ。これは、Oracle または MSSQL のいずれかです。 |
- データベースのホスト名、ポート番号、および SID に関する詳細は、データベース管理者にお問い合わせください。

- Windows 認証 - データベースタイプとして **MSSQL** を選択した場合、**MSSQL** に対する Windows 認証を有効化するオプションがあります。つまりユーザーは、データベースをホスティングする **Windows** システムと同じ資格情報を **SQL Server** へのアクセスで使用できます。
- データベース名 - データベースの名前。このフィールドは、データベースタイプとして **MSSQL** を選択した場合のみ表示されます。
- ユーザー名 - 管理データベースユーザーの名前。[Windows 認証] オプションを選択した場合、このフィールドは無効になって空になります。
- パスワード - 管理データベースユーザーのパスワード。[Windows 認証] オプションを選択した場合、このフィールドは無効になって空になります。

4 [OK] をクリックします。



作成できる管理データベースデータソース接続は 1 つのみです。接続が作成された後、デフォルトでは [新規作成] ボタンは無効になります。この設定は 1 回限りの設定なので、正しい値を入力したことを確認してください。

5 [接続テスト] をクリックし、接続をテストします。

6 [保存] をクリックして、このページで行った変更を保存します。[正常に保存しました] メッセージが [情報] メッセージペインに表示されます。

新たに作成した管理データベース接続を保存した後、**HP SH Reporter** では、プロファイルデータベース情報が管理データベースのデータソースから取り出され、ページの [プロファイルデータベース] セクションの下に既存のすべてのプロファイルデータベースのデータソースがリストされます。

プロファイルデータベースのデータソースに対するデータ収集はデフォルトで有効になっています。さらに、収集の頻度は 1 時間ごとにスケジュールされています。

プロファイルデータベースデータソース接続の設定に関する詳細は、『**HP Service Health Reporter 管理者オンラインヘルプ**』のトピック「[ManagementDB / ProfileDB データ収集の管理](#)」を参照してください。

HP Performance Agent のデータソース接続の設定

RTSM デプロイメントシナリオでは、HP Performance Agent の新規データソース接続を作成する必要はありません。デフォルトでは、トポロジー情報の収集時に、HP Performance Agent がインストールされているすべてのノードが自動的に検出されるからです。そのような HP Performance Agent データソースまたはノードは、管理コンソールの [PA データソース] ページに一覧表示されます。

HP Performance Agent データソースのリストを表示するには、次の手順を実行します。

- 1 管理コンソールで、[収集設定] → [PA データソース] をクリックします。[PA データソース] ページが開きます。

PAデータソース

| ビュー名 | ホスト | 収集 | | | 有効無効 |
|---------------------------------------|-----|----|----|-----|------|
| | | パス | 失敗 | 未収集 | |
| All | 23 | 0 | 0 | 23 | 23/0 |
| SM_SIS (Core_BSM) | 11 | 0 | 0 | 11 | 11/0 |
| J2EE_Deployment (Appserver_WebSphere) | 1 | 0 | 0 | 1 | 1/0 |
| SM_SIS (System_Management_SIS) | 11 | 0 | 0 | 11 | 11/0 |
| J2EE_Deployment (Appserver_Weblogic) | 1 | 0 | 0 | 1 | 1/0 |

| PAデータソース [ビュー名 : All] | | | | | |
|--|----------------------|-------------------------------------|----------------|-------------------------------------|---------------------|
| フィルタの選択 | | | | | |
| ホスト名 <input type="text"/> <input type="button" value="検索"/> <input type="button" value="クリア"/> | | | | | |
| | ホスト名 | 収集を有効にする | ポーリング頻度のスケジュール | ステータス | |
| | | | | 接続 | 収集 |
| <input type="checkbox"/> | bsmr-vm22.ind.hp.com | <input checked="" type="checkbox"/> | 1 時 | <input checked="" type="checkbox"/> | 2011/10/31 18:40:09 |

- 2 HP Performance Agent データソースの詳細を表示するには、[PA データソースのサマリー] テーブル内のビュー名または番号をクリックします。[PA データソースの詳細] テーブルが開きます。
- 3 1つ以上のホストのデータ収集スケジュールを変更するには、[ポーリング頻度のスケジュール] 列の [時間] ボックスに 1 ~ 24 時間のポーリング時間を指定します。
- 4 [保存] をクリックして変更を保存します。[正常に保存しました] メッセージが [情報] メッセージパネルに表示されます。

HP Performance Agent データソース接続の設定に関する詳細は、『HP Service Health Reporter 管理者オンラインヘルプ』のトピック「PA データソースのデータ収集の管理」を参照してください。

HPOM データベース接続の設定

HPOM コンテンツパックをインストールした場合、以下の手順を実行します。

- 1 管理コンソールで、[収集設定] → [**Operations Manager**] をクリックします。
[**Operations Manager**] ページが開きます。
- 2 [**新規作成**] をクリックし、新規データソース接続を作成します。[接続パラメータ] ダイアログボックスが開きます。

Operations Manager ?

| Operations Manager | | | | | | |
|--------------------------|----------------------|-------------------------------------|-----------|-------------------------------------|---|--------------------|
| | ホスト名 | 収集を有効にする | 頻度のスケジュール | ステータス | | 設定 |
| | | | | 接続 | 収集 | |
| <input type="checkbox"/> | Sapspl3.ind.hp.com | <input checked="" type="checkbox"/> | 1 時 | <input checked="" type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> 2011/10/31 18:40:09 | 設定 |
| <input type="checkbox"/> | scdi5-vm1.ind.hp.com | <input checked="" type="checkbox"/> | 1 時 | <input checked="" type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> 2011/10/31 18:40:15 | 設定 |

- 3 [接続パラメータ] ダイアログボックスで、次の値を入力します。



認証にデータベースの方法を使用して **HPOM** データベースサーバーに接続している場合は、**openview** データベースの **SELECT** 権限と **CONNECT** 権限を持つユーザーの詳細をここで指定する必要があります。

- ホスト名 - **HPOM** データベースサーバーの **IP** アドレスまたは **FQDN**。
- ポート - **HPOM** データベースサーバーに照会するためのポート番号。
SQL Server がデータベースタイプの場合のデフォルトポートは **1433**、**Oracle** がデータベースタイプの場合には **1521** です。
ポート番号のチェックの詳細は、**90** ページ、「**HPOM** サーバーのポート番号のチェック」を参照してください。
- データベースインスタンス - **HPOM** データベースインスタンスのシステム識別子 (**SID**)。デフォルトのデータベースインスタンスは **OVOPS** です。

- データベースタイプ - HPOMデータベースを作成するために使用されるデータベースエンジンのタイプ。これは、Oracle または MSSQL のいずれかです。名前は openview です。
- Windows 認証 - データベースタイプとして MSSQL を選択した場合、MSSQLに対するWindows認証を有効化するオプションがあります。つまりユーザーは、データベースをホスティングする Windows システムと同じ資格情報を SQL Server へのアクセスで使用できます。
- データベース名 - データベースの名前。このフィールドは、データベースタイプとして MSSQL を選択した場合のみ表示されます。
- ユーザー名 - HPOM データベースユーザーの名前。[Windows 認証] オプションを選択した場合、このフィールドは無効になって空になります。
- パスワード - HPOM データベースユーザーのパスワード。[Windows 認証] オプションを選択した場合、このフィールドは無効になって空になります。

4 [OK] をクリックします。

5 [接続テスト] をクリックし、接続をテストします。

6 [保存] をクリックして変更を保存します。[正常に保存しました] メッセージが [情報] メッセージパネルに表示されます。

手順 3 ~ 6 を実行すれば、追加の HPOM データソースを設定できます。特定のデータソース接続を変更するには、[設定] をクリックします。

7 1つ以上のホストの HPOM データ収集スケジュールを変更するには、[頻度のスケジュール] 列で、[時間] ボックスに1~24時間の収集時間を指定します。

8 [保存] をクリックして変更を保存します。[正常に保存しました] メッセージが [情報] メッセージパネルに表示されます。

HPOM データソース接続の設定に関する詳細は、『HP Service Health Reporter 管理者オンラインヘルプ』のトピック「[HPOM データ収集の管理](#)」を参照してください。

HP OMi データベース接続の設定

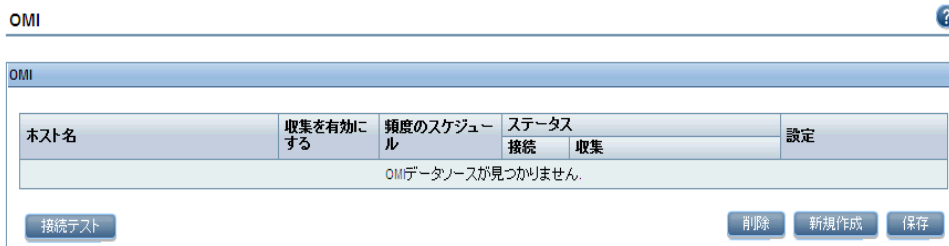
HP OMi コンテンツパックをインストールする場合、データ収集用の HP OMi データベース接続を設定する必要があります。

新規の HP OMi データソース接続を作成する場合は、その前に、管理データベース用のデータソース接続が [管理 DB/プロファイル DB] ページに存在することを確認してください。このデータ接続は、管理データベースに保管される HP OMi 用の KPI メタデータを取り出すのに必要です。

環境内に 1 つ以上の OMi セットアップがある場合は、トポロジーソースとして設定された HP Business Service Management RTSM に属する OMi データソースを設定する必要があります。

HP OMi データソース接続を設定するには、次の手順を実行します。

- 1 管理コンソールで、[収集設定] → [OMi] をクリックします。[OMi] ページが開きます。
- 2 [新規作成] をクリックし、新規 HP OMi データソース接続を作成します。[接続パラメータ] ダイアログボックスが開きます。



- 3 [接続パラメータ] ダイアログボックスで、次の値を指定または入力します。

- | | |
|------------------|--|
| ホスト名 | - HP OMi データベースサーバーのアドレス (IP または FQDN)。 |
| ポート | - HP OMi データベースサーバーに照会するためのポート番号。 |
| データベース インスタンス | - HP OMi データベースインスタンスのシステム識別子 (SID)。 データベースのホスト名、ポート番号、および SID に関する詳細は、HP OMi データベース管理者にお問い合わせください。 |
| データベース タイプ | - HP OMi データベースを作成するために使用されるデータベースエンジンのタイプ。これは、Oracle または MSSQL のいずれかです。 |

- Windows 認証 - データベースタイプとして **MSSQL** を選択した場合、**MSSQL**に対するWindows認証を有効化するオプションがあります。つまりユーザーは、データベースをホスティングする **Windows** システムと同じ資格情報を **SQL Server** へのアクセスで使用できます。
- データベース名 - データベースの名前。このフィールドは、データベースタイプとして **MSSQL** を選択した場合のみ表示されます。
- ユーザー名 - **HP OMi** データベースユーザーの名前。[Windows 認証] オプションを選択した場合、このフィールドは無効になって空になります。
- パスワード - **HP OMi** データベースユーザーのパスワード。[Windows 認証] オプションを選択した場合、このフィールドは無効になって空になります。

4 [OK] をクリックします。



作成できる **HP OMi** データソース接続は 1 つのみです。接続が作成された後、デフォルトでは [新規作成] ボタンは無効になります。正しい値を入力したことを確認してください。

5 [接続テスト] をクリックし、接続をテストします。

6 [保存] をクリックして変更を保存します。[正常に保存しました] メッセージが [情報] メッセージパネルに表示されます。

7 1 つ以上のホストの **HP OMi** データ収集スケジュールを変更するには、[頻度のスケジュール] 列で、[時間] ボックスに 1～24 時間の収集時間を指定します。

8 [保存] をクリックして変更を保存します。[正常に保存しました] メッセージが [情報] メッセージパネルに表示されます。

新たに作成したすべてのデータソース接続に対するデータ収集は、デフォルトでは有効になります。**HP OMi** データソース接続の設定に関する詳細は、『**HP Service Health Reporter** 管理者オンラインヘルプ』のトピック「**HP OMi データ収集の管理**」を参照してください。



RTSM デプロイメントシナリオで、コンテンツパックのインストールが完了し、データ収集のために **HP SH Reporter** を設定し終わったら、データ保管テーブル内のデータを表示できるまでに少なくとも 3 時間待機する必要があります。

HP SH Reporter は、設定済みのさまざまなデータソースからの履歴データの収集を開始し、必要なレポートを作成します。レポートの表示方法の詳細は、『HP Service Health Reporter ユーザーオンラインヘルプ』を参照してください。

サービス状況 CI に対する KPI データ収集の有効化

KPI は、CI のパフォーマンスと可用性の詳細インジケータです。ビジネスサービス、ビジネスアプリケーション、ビジネスプロセス、およびホストなどの特定の論理サービス状況 CI に属する KPI データは、デフォルトではプロファイルデータベースにログ記録されます。HP SH Reporter はそのデータをレポート用にデータベースから収集します。

ただし、その他の CI タイプの KPI データは、プロファイルデータベースに自動的にログ記録されません。そのような CI タイプの KPI データをログ記録するには、HP Business Service Management において CI を設定する必要があります。詳細は、『HP Business Service Management - Using Service Health』ガイド (英語版) の 363 ページの「[Persistent Data and Historical Data](#)」セクションを参照してください。このガイドは、以下の製品向け URL 「Application Performance Management (BAC)」 (英語版) に用意されています。

<http://support.openview.hp.com/selfsolve/manuals>

Application Performance Managementデプロイメントシナリオの場合の HP SH Reporter の設定

Application Performance Management 環境では、RTSM が HP SH Reporter のトポロジー情報源になります。インストールされているコンテンツパックに応じて、以下のデータコレクターを HP SH Reporter で設定する必要があります。

- 環境内のさまざまなタイプの CI に関するトポロジー情報およびデータを RTSM データベースから収集する RTSM コレクター。収集されるデータは、各コンテンツパックと共に提供される RTSM ビューによって定義されます。
- プロファイルデータベースおよび管理データベースの履歴合成トランザクションモニタリングデータおよびリアルユーザーモニタリングデータを収集するデータベースコレクター。システム関連データは、SiteScope サーバー上で稼働する CODA エージェントから収集されます。

このデプロイメントシナリオでの HP SH Reporter の設定のための作業は、若干の変更点がありますが、Service and Operations Bridge のデプロイメントシナリオの作業に似通っています。HP Performance Agent、HPOM、および HP OMi データソース接続を管理コンソールで設定する必要はありません。

次のタスクを実行します。

- 1 トポロジービューをデプロイします。この作業で実行する手順の詳細は、94 ページ、「[タスク 1: トポロジービューのデプロイメント](#)」を参照してください。
- 2 HP SH Reporter と統合するために SiteScope を設定します。この作業で実行する手順の詳細は、101 ページ、「[タスク 2: HP SH Reporter との統合のための SiteScope の設定](#)」を参照してください。
- 3 管理下環境のトポロジー情報を提供するために、RTSM サービス定義ソースを設定します。この作業で実行する手順の詳細は、103 ページ、「[タスク 3: RTSM サービス定義ソースの設定](#)」を参照してください。

- 4 RUMデータとBPMデータを提供するために、複数のプロファイルデータベース接続を設定します。この作業で実行する手順の詳細は、105 ページ、「[プロファイルデータベースのデータソース接続の設定](#)」を参照してください。



RTSM デプロイメントシナリオで、コンテンツパックのインストールが完了し、データ収集のために **HP SH Reporter** を設定し終わったら、データ保管テーブル内のデータを表示できるまでに少なくとも 3 時間待機する必要があります。

HP SH Reporter は、設定済みのさまざまなデータソースからの履歴データの収集を開始し、必要なレポートを作成します。レポートの表示方法の詳細は、『[HP Service Health Reporter ユーザーオンラインヘルプ](#)』を参照してください。

ファイアウォール環境内またはプロキシ経由の HP Performance Agent のデータ収集の設定

ネットワークのファイアウォールが存在する場合、そのファイアウォールを通して **HP SH Reporter** と通信するように、**HP Performance Agent** を設定する必要があります。また、プロキシサーバーを介する **HP Performance Agent** データ収集を設定することもできます。

ファイアウォール環境内またはプロキシサーバー経由での **HP SH Reporter** と **HP Performance Agent** 管理対象ノードの間の通信を設定する手順の詳細は、『[Operations Manager Firewall Concepts and Configuration Guide](#)』（英語版）を参照してください。このガイドは、以下の URL に用意されています。

<http://support.openview.hp.com/selfsolve/manuals>

セキュアモードでのデータ収集のための HP Performance Agent の設定

HP Performance Agent は、クライアントおよびサーバーアプリケーション間のデータアクセスに対して、**HTTP 1.1** ベースの通信インタフェースをサポートします。ただし、セキュア (**HTTPS**) モードでの **HP Performance Agent** 管理対象ノードからのデータ収集を設定することもできます。

HTTPS 通信の場合、エージェントは CODA 8.xx をサポートする必要があります。サポートされていない場合は、HTTP または DCE 方式が使用されます。HTTPS 通信は証明書をベースとするので、HP SH Reporter システムおよび管理対象ノード上に証明書がインストールされていなければなりません。HP SH Reporter システムは証明書クライアントとして稼働し、証明書サーバー（認証局）は HP 管理サーバーから提供されます。HTTPS 通信を確立するには、クライアント証明書を交換する必要があります。



HP Performance Agent システム上で、[coda] ネームスペースにおいて SSL_SECURITY オプションを [ALL] または [REMOTE] に設定すると、HTTP 通信は失敗します。HTTPS のみがサポートされます。

証明書をインストールする手順の詳細は、『HP Operations Manager for Windows Certificate Management in Environments with Multiple HP Software Products』ホワイトペーパー（英語版）を参照してください。その他の詳細は、『HP Operations Manager for Unix HTTPS Agent Concepts and Configuration Guide』（英語版）を参照してください。これらの資料は、以下の URL に用意されています。

<http://support.openview.hp.com/selfsolve/manuals>

HP OpenView Ctrl Service および HP SH Reporter Collection Service の開始

HTTPS 通信の設定が完了したら、以下の手順を実行します。

- 1 HP SH Reporter システム上で、[スタート] → [ファイル名を指定して実行] をクリックします。[ファイル名を指定して実行] ダイアログボックスが開きます。
- 2 [名前] フィールドに **services.msc** と入力し、[Enter] キーを押します。[サービス] ウィンドウが開きます。
- 3 右側のペインで、[HP OpenView Ctrl Service] を右クリックしてから [開始] をクリックします。
- 4 [HP SH Reporter Collection Service] を右クリックしてから [再起動] をクリックします。
- 5 [サービス] ウィンドウを閉じます。

レポートドリル機能設定の設定

HP SH Reporter には、作成後のレポートを表示するための SAP BusinessObjects InfoView ポータルが備えられています。SAP BusinessObjects InfoView には、日単位、月単位、および年単位レベルで情報を表示するのに使用できるドリル機

能が備えられています。ただし、レポート内をドリルアップまたはドリルダウンしても、指定したレベル関連のデータがレポート内のセクションに表示されないことがあります。レポートのブロックが、レポート内の [ドリル] オプション間で同期を喪失します。レポートに必ず正しいデータが表示されるようにするには、SAP BusinessObjects InfoView の [設定] 設定を設定しなおすことにより、同期を再確立する必要があります。

ドリル機能設定を設定するには、次の手順を実行します。

- 1 [スタート] → [プログラム] → [HP ソフトウェア] → [SH Reporter] → [管理] をクリックします。HP SH Reporter 管理コンソールが開きます。
- 2 管理コンソールで、[管理] → [SAP BOBJ] をクリックします。[SAP BOBJ] ページが開きます。
- 3 [InfoView を起動] をクリックして [SAP BusinessObjects InfoView] を開きます。[BusinessObjects InfoView のログイン] ページが開きます。
- 4 SAP BusinessObject InfoView のユーザー名とパスワードを [ユーザー名] および [パスワード] フィールドにそれぞれ入力します。
- 5 [ログオン] をクリックします。SAP BOBJ InfoView ポータルが開きます。
- 6 [カスタマイズ] の下の [基本設定] をクリックします。[基本設定] ページが開きます。
- 7 [Web Intelligence] をクリックします。
- 8 [ドリルオプション] の下の [レポートのブロックのドリルを同期化] オプションを選択します。
- 9 [OK] をクリックします。
- 10 Web ブラウザーを閉じます。

HP SH Reporter 管理者アカウントのパスワードの作成

デフォルトの管理者ユーザー名のパスワードを作成する場合は、次の手順を実行します。

- 1 [スタート] → [プログラム] → [HP ソフトウェア] → [SH Reporter] → [管理] をクリックします。HP SH Reporter 管理コンソールが開きます。
- 2 管理コンソールにログインします。
- 3 管理コンソールで、[管理] → [SAP BOBJ] をクリックします。[SAP BOBJ] ページが開きます。

- 4 [SAP BOBJ] ページから SAP BOBJ 中央管理コンソールにアクセスします。
- 5 中央管理コンソールのログイン画面で、[**ユーザー名**] フィールドに、「**Administrator**」と入力します。
- 6 [**ログオン**] をクリックします。[**CMC ホーム**] 画面が開きます。
- 7 [**ユーザーとグループ**] をクリックします。[**ユーザーとグループ**] 画面が開きます。
- 8 右側のペインで、[**Administrators**] をダブルクリックします。
- 9 [**Administrator**] を右クリックし、[**プロパティ**] をクリックします。[**プロパティ: Administrator**] ダイアログボックスが開きます。
- 10 [**Enterprise パスワード設定**] の下にある [**パスワード**] フィールドに新しいパスワードを入力します。
- 11 [**確認**] フィールドに、確認のためにパスワードを再入力します。必要な場合は、この画面で管理者ユーザー名を変更し、他の必要な詳細を指定することができます。
- 12 [**保存して閉じる**] をクリックして変更を受け入れます。
- 13 [**ログアウト**] をクリックして、中央管理コンソールを終了します。

Web サービスのログイン画面のプライバシー情報の表示

使用しているシステムのプライバシーポリシー情報を表示して管理コンソール Web サービスにアクセスする場合、Privacy.html ファイルを編集することにより、ログイン画面を手動でカスタマイズできます。ログイン画面をカスタマイズするには、次の手順を実行します。

- 1 HP SH Reporter システムで、
%PMDB_HOME%\adminServer\webapps\BSMRApp を検索します。
- 2 Privacy.html ファイルを任意のテキストエディターで開きます。
- 3 ファイルに書かれている指示に従って、内容を編集します。このファイルでは、以下を行うことができます。
 - ログイン画面のヘッダーメッセージを指定する。

- ログイン画面に表示する会社ロゴのイメージを指定する。ロゴイメージは %PMDB_HOME%\adminServer\images フォルダに置かれていなければなりません。
 - プライバシーメッセージを指定する。
- 4 ファイルを保存します。ログイン画面に、会社固有のプライバシー情報が表示されます。

7 インストールの検証

HP SH Reporter ソフトウェアおよびコンテンツパックをインストールし、さまざまなデータソースからデータを収集するように HP SH Reporter を構成した後、製品が正しく稼働することを検証できます。

この章は、インストールの正常完了を検証するために実行できる特定の検証タスクを取り上げています。HP SH Reporter をインストールして構成した後、少なくとも 3 時間待ってから、次の検証タスクを実行します。

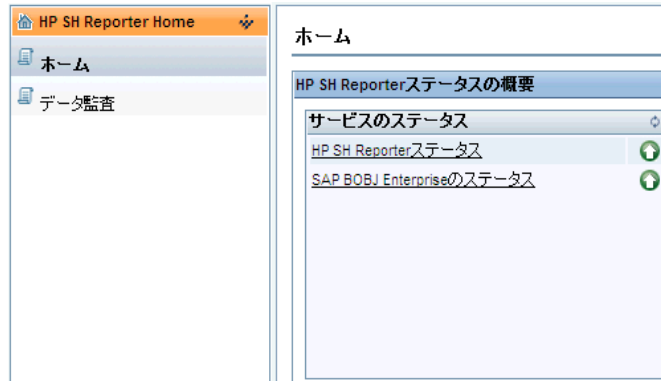
HP SH Reporter サービスのチェック

SAP BOBJ および Sybase IQ サービスも含め、HP SH Reporter サービスが稼働するかどうかをチェックする必要があります。

管理コンソールでサービスをチェックするには、次の手順を実行します。

- 1 [スタート] → [プログラム] → [HP ソフトウェア] → [SH Reporter] → [管理] をクリックします。HP SH Reporter 管理コンソールが開きます。
- 2 ログイン画面にユーザーの資格情報を入力し、[ログイン] をクリックします。HP SH Reporter ホームページが開きます。
- 3 ホームページの [サービスのステータス] セクションで、HP SH Reporter サービスと SAP BOBJ サービスのステータスを確認します。

①アイコンは、サービスが稼働中であることを示します。



- 4 [HP SH Reporter ステータス] ハイパーリンクをクリックし、個々のサービスとそれぞれのステータスを表示します。[サービス] ページが開きます。

サービス: HP SH Reporterステータス

| サービス名 | 説明 | ステータス | 起動/停止 |
|---|---|-------|-------|
| HP SH Reporter Collection Service | PMDB Collection Framework Service | 🟢 | 停止 |
| HP SH Reporter IM Service | HP Service Health Reporter Internal Monitoring Framework | 🟢 | 停止 |
| HP SH Reporter Message Broker | Responsible for handling JMS messages. | 🟢 | 停止 |
| HP SH Reporter DB Logger Service | Does IM logging by using Message Broker Service | 🟢 | 停止 |
| TrendTimer | HP SH Reporter Timer Service to schedule data store jobs. | 🟢 | 停止 |
| MySQL | MySQL Database Running | 🟢 | 停止 |

- 5 [サービス] リストで、[SAP BOBJ Enterprise のステータス] を選択し、SAP BOBJ サービスのリストを表示します。

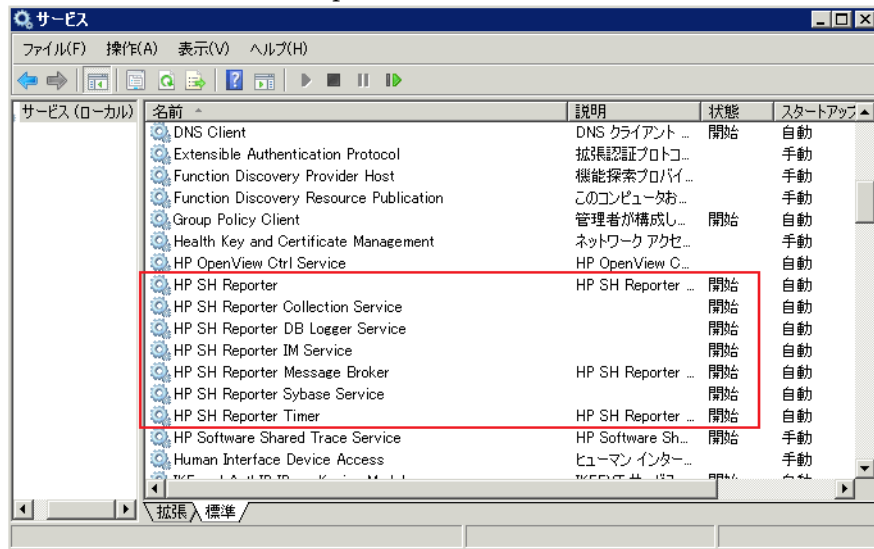
サービス: SAP BOBJ Enterpriseのステータス

| サービス名 | 説明 | ステータス |
|---------------------|-----------------------------------|-------|
| SAP BOBJ Tomcatサービス | Tomcatアプリケーションサーバー | 🟢 |
| SAP BOBJ CMS | BusinessObjects Enterpriseサーバーの管理 | 🟢 |

または、次の手順を実行して、[サービス] ウィンドウでサービスをチェックすることもできます。

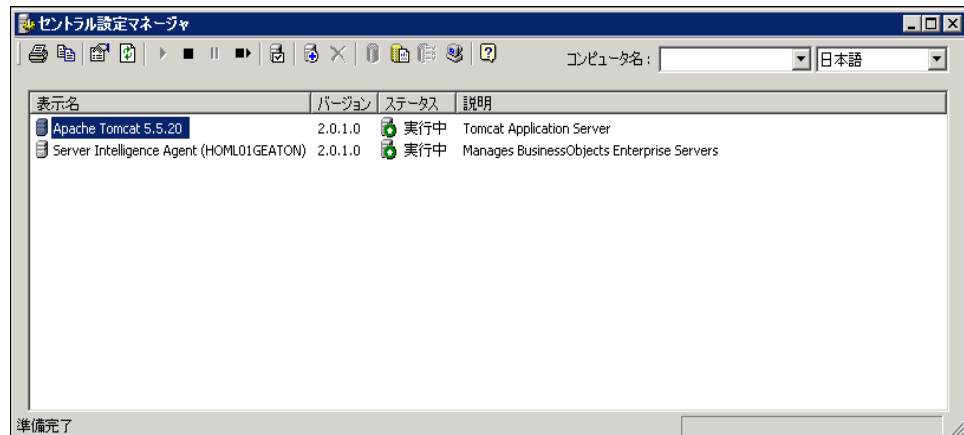
- 1 [スタート] → [ファイル名を指定して実行] をクリックします。[ファイル名を指定して実行] ダイアログボックスが開きます。


- 2 `services.msc` を [名前] フィールドに入力してから、[ENTER] キーを押します。[サービス] ウィンドウが開きます。
- 3 右のペインに、HP SH Reporter サービスのステータスが示されます。

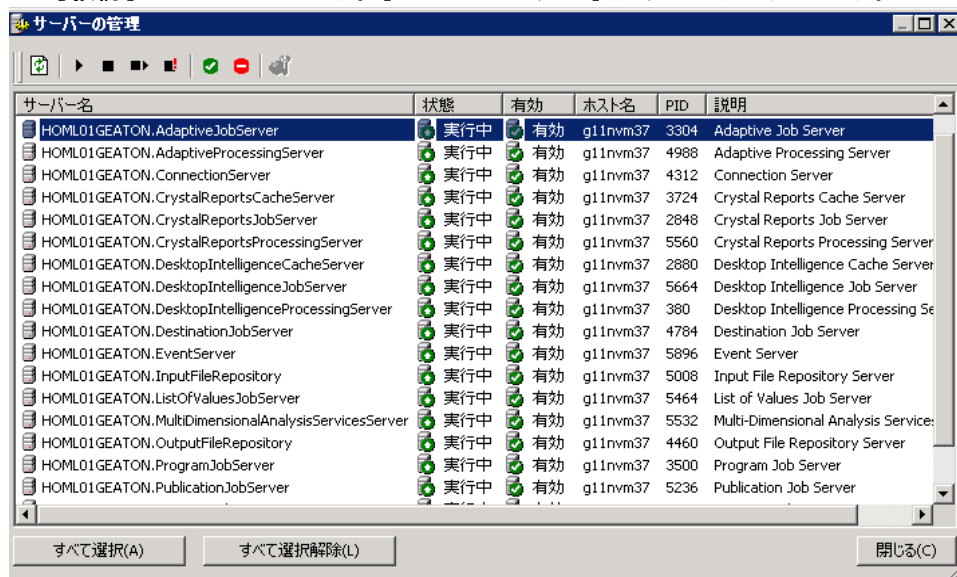


SAP BOBJ セントラル設定マネージャを使用して、SAP BOBJ サービスのステータスをチェックできます。次の手順を実行します。

- 1 [スタート] → [プログラム] → [BusinessObjects XI 3.1] → [BusinessObjects Enterprise] → [セントラル設定マネージャ] をクリックします。[セントラル設定マネージャ] ウィンドウが開きます。



- 2  ボタンをクリックします。[ログオン] ダイアログボックスが開きます。
- 3 [接続] をクリックします。[サーバーの管理] ウィンドウが開きます。



- 4 一覧表示された SAP BOBJ サービスのステータスを確認します。すべてのサービスが有効になっていて実行中でなければなりません。

HP SH Reporter データベースのチェック

HP SH Reporter サービスをチェックし終わったら、インストール後の設定フェーズで作成したパフォーマンス管理データベース (PMDb) が存在しているかどうかチェックすることができます。次の 4 つの方法で、このタスクを実行できます。

ログファイルのチェック

データベースがエラーなしで作成されたことを確認するには、`%PMDb_HOME%\log` フォルダに置かれている `postinstallconfig.log` ファイルをチェックします。

管理コンソールのチェック

管理コンソールで、データベースのステータスをチェックできます。次の手順を実行します。

- 1 [スタート] → [プログラム] → [HP ソフトウェア] → [SH Reporter] → [管理] をクリックします。HP SH Reporter 管理コンソールが開きます。
- 2 ログイン画面にユーザーの資格情報を入力し、[ログイン] をクリックします。HP SH Reporter ホームページが開きます。
- 3 ホームページの [データベースのステータス] セクションで、PMDB データベースのステータスを確認します。



| データベースのステータス | |
|--------------|---|
| ステータス |  |
| データベースタイプ | sybase |
| ホスト名 | |
| サーバー名 | |
| ポート | 21424 |
| ユーザー名 | pmdb_admin |
| サイズ | 0 MB |

- 4 左のペインで [内部監視] → [データベースの監視] をクリックし、データベースのその他の情報を表示します。[データベースの監視] ページが開きます。


このページで、データベースの接続ステータス、可用性、および領域使用量などの詳細情報を確認できます。

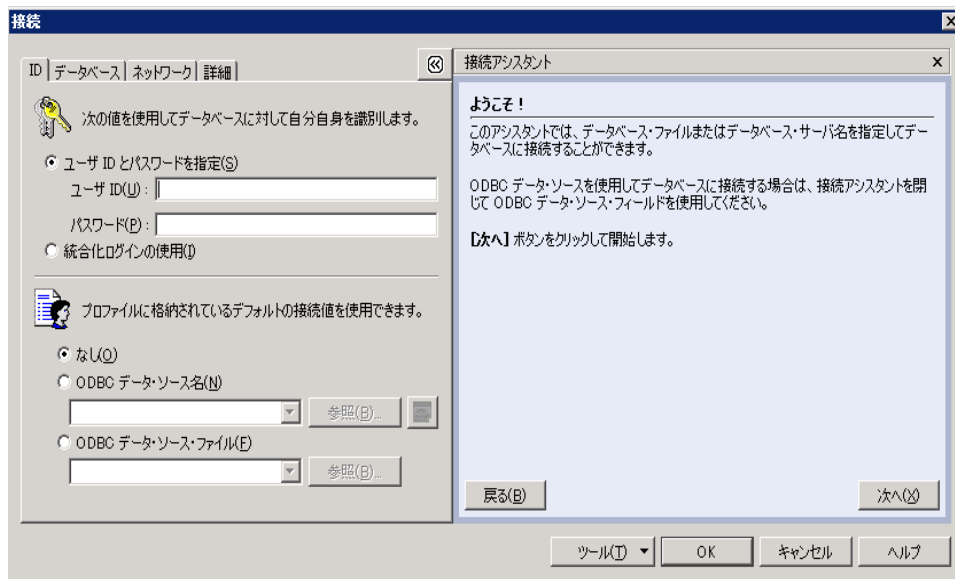


Sybase Central を使用したデータベースのチェック

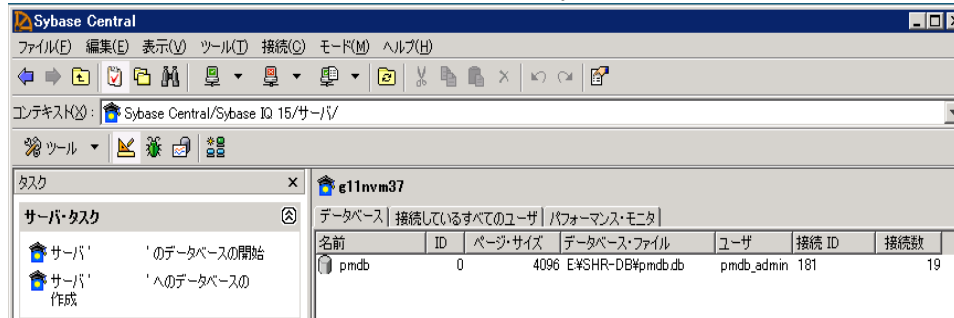
また、Sybase Central を使用して PMDB データベースをチェックすることもできます。次の手順を実行します。

- 1 [スタート] → [プログラム] → [Sybase] → [Sybase IQ 15.2] → [Sybase Central Java Edition] をクリックします。[Sybase Central] ウィンドウが開きます。

- メインツールバーで、 ボタンをクリックします。[接続] ダイアログボックスが開きます。



- [ID] タブで、[ユーザ ID とパスワードを指定] を選択してから、[ユーザ ID] および [パスワード] ボックスに PMDB データベース資格情報を入力します。
- [データベース] タブで、[サーバ名] リストからデータベースサーバーを選択します。
- [ツール] をクリックしてから、ポップアップメニューで [接続テスト] をクリックし、データベースサーバーへの接続をチェックします。
- [接続テスト] メッセージボックスで、[OK] をクリックします。
- [OK] をクリックして、[接続] ダイアログボックスを閉じます。
- PMDB データベースが存在する場合は、Sybase Central に表示されます。



MySQL を使用したデータベースのチェック

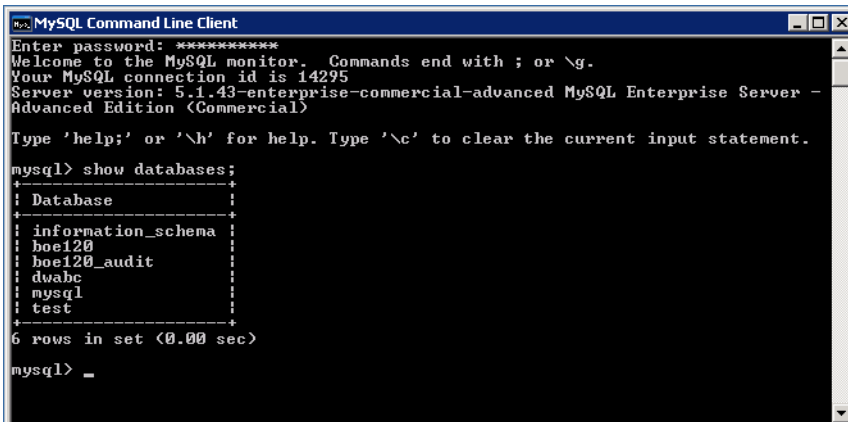
MySQL でコマンドを実行して、存在するすべてのデータベースを一覧表示できます。この方法を使用して、すべてのデータ処理関連情報を保管している dwabc データベースをチェックできます。

次の手順を実行します。

- 1 [**スタート**] → [**プログラム**] → [**MySQL**] → [**MySQL Server 5.1**] → [**MySQL Command Line Client**] をクリックします。[**MySQL Command Line Client**] ウィンドウが開きます。
- 2 プロンプトで、PMDB データベースのユーザー名を入力してから [**ENTER**] キーを押します。
- 3 プロンプトで、以下のコマンドを入力し、[**ENTER**] キーを押します。すべてのデータベースが表示されます。

show databases;

HP SH Reporter 製品に関連したすべての既存データベースが一覧表示されます。dwabc データベースが表示されていることを確認します。



```
MySQL Command Line Client
Enter password: *****
Welcome to the MySQL monitor.  Commands end with ; or \g.
Your MySQL connection id is 14295
Server version: 5.1.43-enterprise-commercial-advanced MySQL Enterprise Server -
Advanced Edition (Commercial)

Type 'help;' or '\h' for help. Type '\c' to clear the current input statement.


mysql> show databases;
+-----+
| Database |
+-----+
| information_schema |
| boe120      |
| boe120_audit |
| dwabc      |
| mysql      |
| test       |
+-----+
6 rows in set (0.00 sec)

mysql> _
```

トポロジー収集のステータスのチェック

HP SH Reporter のインストールが正常に完了したことを検証し終わったら、トポロジーデータを収集するように HP SH Reporter が正しく設定されているかどうかを検証します。デフォルトでは、トポロジーデータの収集は 1 日 1 回実行されるようにスケジュールされます。管理コンソールを使って、トポロジー収集が行われたかどうかをチェックできます。

トポロジー収集のステータスをチェックするには、次の手順を実行します。

- 1 [**スタート**] → [**プログラム**] → [**HP ソフトウェア**] → [**SH Reporter**] → [**管理**] をクリックします。HP SH Reporter 管理コンソールが開きます。
- 2 ログイン画面にユーザーの資格情報を入力し、[**ログイン**] をクリックします。HP SH Reporter ホームページが開きます。
- 3 左のペインで、[**トポロジーソース**] → [**サービス定義**] をクリックします。[サービス定義] ページが開きます。
- 4 表の [**収集**] 列に  アイコンが表示されていることを確認します。このアイコンは、トポロジーデータの収集が正常に完了したことを示します。

CSV ビューファイルのチェック

トポロジー収集が実行された後、トポロジーデータの特定のビューファイルが HP SH Reporter で作成されます。それらの CSV ファイルは、`%PMDB_HOME%\reconcil_registry\cmdbRegistry` フォルダに保存されます。トポロジー収集が実行されたことを検証するには、CSV ファイルのフォルダをチェックします。reconcil_registry フォルダには、次のようなフォルダが入っています。

- cachedRegistry
- cmdbRegistry
- registryDump

インストールされたコンテンツパックのチェック

管理コンソールを使用して、必要なすべてのコンテンツパックがインストールされたかどうかを検証できます。コンテンツパックの一覧を表示するには、次の手順を実行します。

- 1 [**スタート**] → [**プログラム**] → [**HP ソフトウェア**] → [**SH Reporter**] → [**管理**] をクリックします。HP SH Reporter 管理コンソールが開きます。
- 2 ログイン画面にユーザーの資格情報を入力し、[**ログイン**] をクリックします。HP SH Reporter ホームページが開きます。

- 3 左のペインで、[内部監視] → [SH Reporter のコンテンツ] をクリックします。
[SH Reporter のコンテンツ] ページが開きます。

| SH Reporterのコンテンツ | | | |
|---------------------------|---------------------|----------|--------------------|
| コンテンツパック名 | インストール日 | バージョン | |
| Core | 2011/10/09 13:53:26 | 9.10.000 | 詳細 |
| CMDBCore | 2011/10/09 14:01:09 | 9.10.000 | 詳細 |
| System_Management | 2011/10/09 14:01:46 | 9.10.000 | 詳細 |
| Active_Directory | 2011/10/09 14:13:33 | 9.10.000 | 詳細 |
| OM | 2011/10/09 14:26:33 | 9.10.000 | 詳細 |
| System_Management_PA | 2011/10/09 14:30:40 | 9.10.000 | 詳細 |
| Virtual_Env_Management_PA | 2011/10/09 14:37:14 | 9.10.000 | 詳細 |
| Application_Server | 2011/10/09 14:41:09 | 9.10.000 | 詳細 |
| Appserver_Weblogic | 2011/10/09 14:42:03 | 9.10.000 | 詳細 |
| Appserver_WebSphere | 2011/10/09 14:53:21 | 9.10.000 | 詳細 |

◀ ◁ 1 2 ▷ ▶ ▶▶

このページには、すべてのインストール済みのコンテンツパックが、インストール日付とともに表示されます。

コンテンツパックのストリームステータスのチェック

HP SH Reporter によって実行されているデータ処理タスクがエラーなしに正しく稼働しているかどうかを検証できます。管理コンソールのワークフローストリームのステータスをチェックすることにより、収集されたデータに対してデータ集約が実行されていて、レポートのためにデータベースに読み込まれているかどうかを検証できます。インストールされているコンテンツパックの場合、すべてのワークフローストリームは、待機状態ではなく、実行中であるかまたは正常に完了済みである必要があります。ストリームの詳細を表示するには、次の手順を実行します。

- 1 [スタート] → [プログラム] → [HP ソフトウェア] → [SH Reporter] → [管理] をクリックします。HP SH Reporter 管理コンソールが開きます。
- 2 ログイン画面にユーザーの資格情報を入力し、[ログイン] をクリックします。HP SH Reporter ホームページが開きます。

- 3 左のペインで、[内部監視] → [データ処理] をクリックします。[データ処理] ページが開きます。

データ処理

| アクティブなストリームの詳細 | | | | | |
|-----------------------|--------|----------------|----|-----|----|
| | | ストリームの履歴概要 | | | |
| | | ストリームの詳細履歴 | | | |
| コンテンツパック名 | ストリーム数 | ストリームのステータスの詳細 | | | |
| | | OK | 警告 | エラー | 総計 |
| System_Management | 6 | 6 | 0 | 0 | 6 |
| Appserver_Weblogic | 9 | 0 | 9 | 0 | 9 |
| Core | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| System_Management_SiS | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| Core_RSM | 2 | 0 | 2 | 0 | 2 |

| コンテンツパックのストリームの詳細: System_Management | | | |
|--------------------------------------|--------------------|------------|---------------------|
| ストリーム名 | ステップのステータス (完了/合計) | ステップのステータス | 開始時刻 |
| System_Management@Fact... | 3/3 | 成功 | 2011/11/01 12:30:16 |
| System_Management@Fact... | 5/6 | 成功 | 2011/11/01 12:30:16 |
| System_Management@Fact... | 3/3 | 成功 | 2011/11/01 12:30:17 |
| System_Management@Fact... | 3/3 | 成功 | 2011/11/01 12:30:17 |
| System_Management@Fact... | 3/3 | 成功 | 2011/11/01 12:30:14 |
| System_Management@Fact... | 3/4 | 成功 | 2011/11/01 12:30:16 |

このページで、各コンテンツパックの実行中のワークフローストリームの数と、それらのストリームのステータスをチェックできます。

Stage フォルダー内の CSV ファイルのチェック

それ以外に、%PMDB_HOME%\stage\failed_to_load フォルダをチェックすることにより、データが PMDB データベースに読み込まれていることを検証することもできます。ステージテーブルへのデータの読み込みが正常に完了していたら、failed_to_load フォルダには CSV ファイルは作成されません。

データは、ステージテーブルに読み込まれた後、データベースに移動されます。それを検証するには、%PMDB_HOME%\stage\collection\failed_to_load フォルダをチェックします。データが正常にデータベースに保管された場合、failed_to_stage フォルダおよび failed_to_load フォルダにいくつもの CSV ファイルも作成されません。

正常に完了したワークフローストリームの CSV ファイルは、archive フォルダに移動されます。

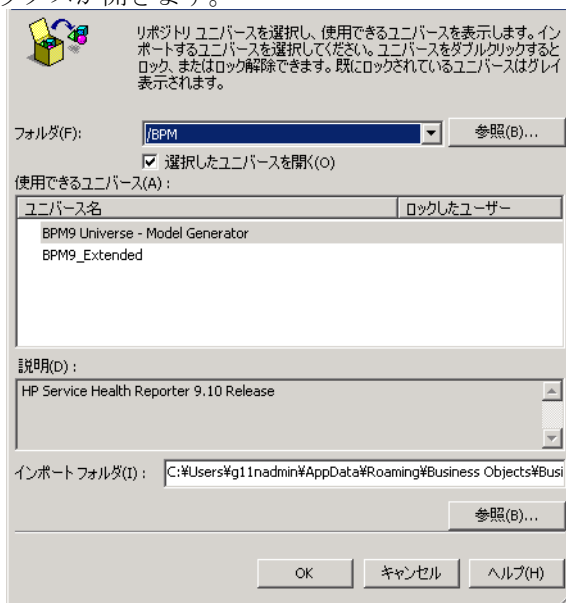
%PMDB_HOME%\log フォルダに置かれている trend.log ファイルをチェックして、ストリームの集約の詳細を知ることができます。loader.log ファイルをチェックして、データ読み込みに関する詳細を知ることができます。

SAP BusinessObjects ユニバースのチェック

SAP BusinessObjects ユニバースとは、ビジネスユーザーが使用するビジネス用語に対してデータベース内のソースデータ構造をマップするオブジェクトとクラスを格納するファイルのことです。このユニバースは、Web インテリジェンスレポートの作成の際に SAP BusinessObjects Enterprise で使用されます。各コンテンツパックごとにSAP BusinessObjectsユニバースが存在するかどうかを検証できます。

ユニバースをチェックするには、次の手順を実行します。

- 1 [**スタート**] → [**プログラム**] → [**BusinessObjects XI 3.1**] → [**BusinessObjects Enterprise**] → [**Designer**] をクリックします。
- 2 [**User Identification**] ダイアログボックスで、[**OK**] をクリックします。Universe Designer が開きます。
- 3 [**ファイル**] メニューで [**インポート**] をクリックし、コンテンツパックユニバースを **Universe Designer** にインポートします。[**ユニバースのインポート**] ダイアログボックスが開きます。



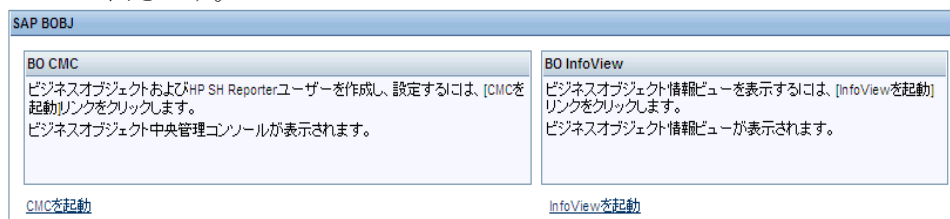
- 4 [**フォルダ**] リストでコンテンツパックのフォルダーを選択します。そのコンテンツパックに対して使用できるユニバースが、[**使用できるユニバース**] セクションに一覧表示されます。
- 5 表示するユニバースを選択し、[**OK**] をクリックします。
- 6 [**ユニバースのインポート**] メッセージボックスで、[**OK**] をクリックします。

選択したユニバースが **Designer** に表示されます。

SAP BusinessObjects InfoView のレポートフォルダーのチェック

次の手順を実行します。

- 1 [**スタート**] → [**プログラム**] → [**HP ソフトウェア**] → [**SH Reporter**] → [**管理**] をクリックします。HP SH Reporter 管理コンソールが開きます。
- 2 ログイン画面にユーザーの資格情報を入力し、[**ログイン**] をクリックします。HP SH Reporter ホームページが開きます。
- 3 左のペインで、[**管理**] → [**SAP BOBJ**] をクリックします。[**SAP BOBJ**] ページが開きます。



- 4 右側のペインで、[**InfoView を起動**] をクリックします。SAP BOBJ InfoView のログイン画面が開きます。
- 5 ユーザー資格情報を入力し、[**ログオン**] をクリックします。[**SAP BOBJ InfoView**] が開きます。

- 6 [ドキュメント一覧]をクリックします。[ドキュメント一覧]ページが開きます。



- 7 左のペインのレポートフォルダーを展開し、右のペインにレポートが表示されているかどうかをチェックします。

これらのタスクを実行した後、管理コンソールと SAP BOBJ InfoView のレポートに関連情報が表示されていることを確認できたら、HP SH Reporter は環境内に正しくインストールされて設定されたということです。

8 HP SH Reporter のアンインストール

HP SH Reporter では、アプリケーション全体ではなく、個々のコンテンツパックを削除できます。また、HP Software Installer を使用して、HP SH Reporter アプリケーションを削除することもできます。そのプロセスにより、コンテンツパックを含め、インストール済みのすべてのコンポーネントが削除されます。

コンテンツパックのアンインストール

コンテンツパックのアンインストールは、HP SH Reporter Windows サービスの停止、コンテンツパックのアンインストール、その後のHP SH Reporter Windows サービスの再起動で構成されます。

HP SH Reporter が稼働中にアンインストールを行う場合、HP SH Reporter データプロセスが実行中でないことを確認してから、またはすべてのアクティブなデータプロセスが完了するまで待機してから、コンテンツパックをアンインストールしてください。これらのアクティブなデータプロセスによって、コンテンツパックのアンインストールが失敗する可能性があります。データプロセスを監視する手順については、69 ページ、「[HP SH Reporter データ処理ストリームの停止](#)」を参照してください。

コンテンツパックを削除するには、次の手順を実行します。

- 1 次のように、HP SH Reporter Windows サービスを停止します。
 - a 管理者としてホストシステムにログオンします。
 - b [スタート] → [プログラム] → [管理ツール] → [サービス] をクリックします。[サービス] ウィンドウが表示されます。
 - c 右のペインで、以下のサービスを右クリックし、[停止] を選択してサービスを停止します。
 - HP SH Reporter Timer
 - HP SH Reporter Collection Service
 - d [サービス] ウィンドウを閉じます。

- 2 次のように、パッケージマネージャを使用してコンテンツパックを削除します。
 - a [**スタート**] → [**プログラム**] → [**HP ソフトウェア**] → [**SH Reporter**] → [**パッケージマネージャ**] をクリックします。コンテンツパックのインストールウィザードが開きます。
 - b [コンテンツパックのインストールおよびアンインストールへようこそ] ページ上の [**次へ**] をクリックし、先に進みます。[コンテンツパックのインストールおよびアンインストール] ページが開きます。
 - c [**アンインストール**] を選択し、[**次へ**] をクリックして先に進みます。[コンテンツパックの選択] ページが開きます。
 - d 削除するコンテンツパックを選択し、[**次へ**] をクリックして先に進みます。[選択のサマリー] ページが開きます。
 - e 行ったコンテンツパックの選択のサマリーを見直します。
 - 選択した内容のいずれかを修正するには、[**戻る**] をクリックします。
 - インストールプロセスを続行するには、[**インストール**] を選択します。[アンインストールの進行状況] ページが開きます。アンインストールが完了した後、コンテンツパックのインストールの詳細がインストールウィザードに要約されます。[**Uninstallation Complete**] ウィンドウが開きます。
 - f 詳細を見直してから [**完了**] をクリックし、コンテンツパックのアンインストールを完了します。
- 3 次のように、HP SH Reporter Windows サービスを再起動します。
 - a [**スタート**] → [**ファイル名を指定して実行**] をクリックします。[ファイル名を指定して実行] ダイアログボックスが開きます。
 - b **services.msc** を [**名前**] フィールドに入力してから、[**ENTER**] キーを押します。[サービス] ウィンドウが開きます。
 - c 右のペインで、以下のサービスを右クリックしてから [**開始**] をクリックします。
 - HP SH Reporter Timer
 - HP SH Reporter Collection Service
 - d [サービス] ウィンドウを閉じます。コンテンツパックのアンインストールは正常に完了しました。

HP SH Reporter のアンインストール

すべてのコンテンツパックとともに HP SH Reporter アプリケーション全体を削除するには、アプリケーションを直接アンインストールします。

次の手順を実行します。

- 1 次のように、HP SH Reporter Windows サービスを停止します。
 - a 管理者としてホストシステムにログオンします。
 - b [スタート]→[ファイル名を指定して実行]をクリックします。[ファイル名を指定して実行]ダイアログボックスが開きます。
 - c **services.msc** を [名前] フィールドに入力してから、[ENTER] キーを押します。[サービス]ウィンドウが開きます。
 - d 以下のサービスを右クリックし、[停止]を選択してサービスを停止します。
 - HP SH Reporter Message Broker
 - HP SH Reporter
 - HP SH Reporter IM Service
 - HP SH Reporter DB Logger Service
 - HP SH Reporter Collection Service
 - HP SH Reporter Timer
 - HP SH Reporter Sybase Service
 - Sybase IQ Agent 15.2
 - e [サービス]ウィンドウを閉じます。

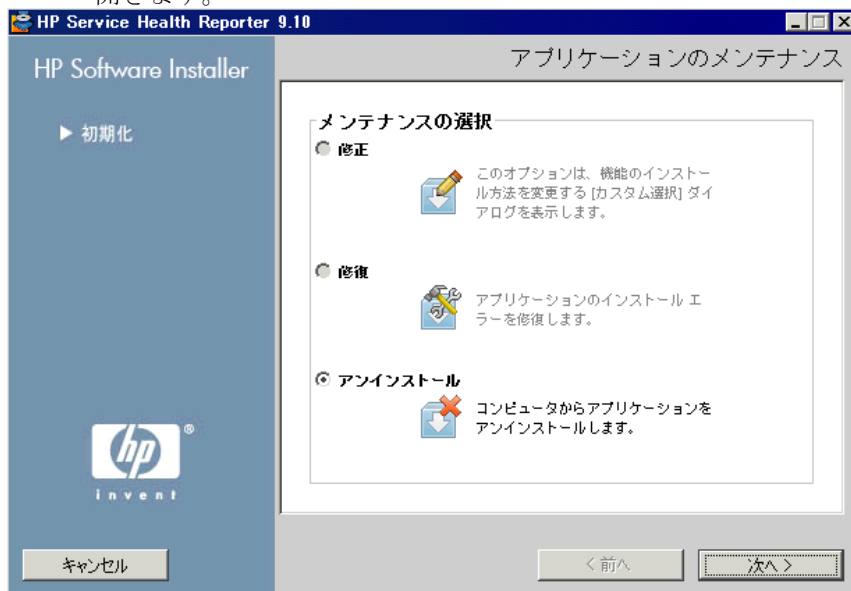


リモートシステムに Sybase IQ をインストールしていた場合、そのリモートシステムで Sybase IQ Agent 15.2 サービスを停止する必要があります。

- 2 次のように、HP SH Reporter を削除します。
 - a [スタート]→[プログラム]→[HP ソフトウェア]→[SH Reporter]→[アンインストール]をクリックします。HP Software Installer が開きます。

HP Software Installer は、ウイルス対策ソフトウェアなどの、アンインストールプロセスを妨げる可能性のあるアプリケーションまたはサービスをシステム内でチェックします。HP Software Installer が支障の存在を検出すると、警告またはエラーが生成され、[アプリケーションの要件チェックの警告]ウィンドウが開きます。

- b [**続行**] をクリックします。[アプリケーションのメンテナンス] ページが開きます。



- c [**メンテナンスの選択**] の下で、[**アンインストール**] が選択済みになっていることを確認してから、[**次へ**] をクリックします。[**プレアンインストールの概要**] ページが開きます。

▶ HP SH Reporter は、HP Software Installer に表示される [**修正**] または [**修復**] オプションをサポートしません。これらのオプションはデフォルトでは無効になっています。

- d [**アンインストール**] をクリックします。[**アンインストール**] ページが開きます。
- e アンインストールが完了した後、[**削除**] ダイアログボックスが表示されます。
- f [**はい**] をクリックして、HP SH Reporter ディレクトリを削除します。[**アンインストールの完了**] ページが開きます。
- g [**完了**] をクリックしてアンインストールを完了します。
- h [**システムの再起動**] メッセージボックスで [**はい**] をクリックし、システムを再起動します。
- i HP SH Reporter ディレクトリを参照し、HP-SHR フォルダと Program File (x86)¥Business Objects フォルダが削除済みかどうかをチェックします。フォルダが存在する場合、手動で削除します。

HP SH Reporter をシステムから正常にアンインストールしました。

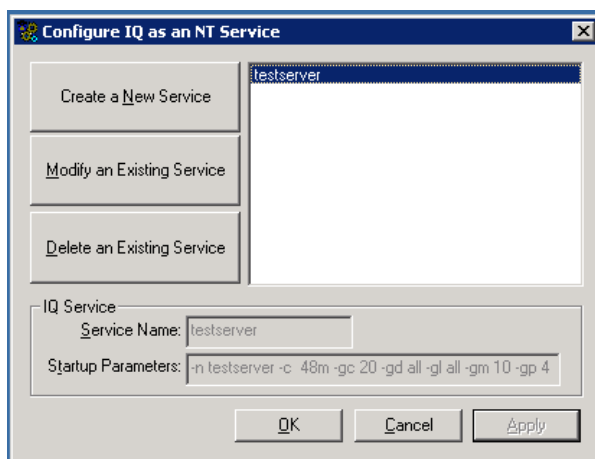
リモート Sybase IQ のアンインストール

リモートシステム上に Sybase IQ サーバーをインストールしていた場合は、次の手順を実行します。



リモート Sybase IQ のアンインストール手順を実行する前に、まず HP SH Reporter をホストマシンから削除する必要があります。それにより、Sybase IQ をアンインストールし終わったら、リモートデータベーススキーマは必ず削除されています。

- 1 リモート Sybase IQ マシンにログオンします。
- 2 [スタート] → [プログラム] → [管理ツール] → [サービス] をクリックします。[サービス] ウィンドウが開きます。
- 3 [Sybase IQ Agent 15.2] を右クリックしてから、[停止] をクリックします。
- 4 作成した Sybase IQ サービスを右クリックしてから、[停止] をクリックします。
- 5 [スタート] → [プログラム] → [Sybase] → [Sybase 15.2] → [Sybase IQ サービスマネージャ] をクリックします。[Configure IQ as an NT Service] ウィンドウが開きます。

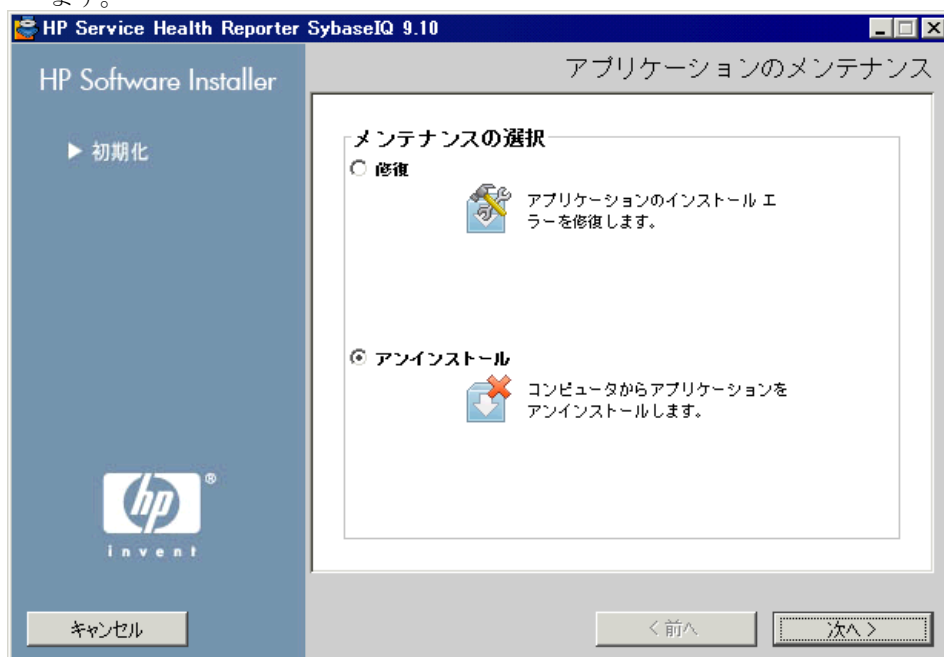


- 6 右のペインで、削除するサービスを選択します。
- 7 [Delete an Existing Service] をクリックします。
- 8 [OK] をクリックします。
- 9 [スタート] → [設定] → [コントロールパネル] をクリックします。
- 10 [コントロールパネル] ウィンドウの [プログラムの追加と削除] をクリックします。

- 11 [プログラムの追加と削除] ダイアログボックスで、[HP Service Health Reporter SybaseIQ] をクリックしてから、[変更 / 削除] をクリックします。HP Software Installer が開きます。

HP Software Installer は、ウイルス対策ソフトウェアなどの、アンインストールプロセスを妨げる可能性のあるアプリケーションまたはサービスをシステム内でチェックします。HP Software Installer が支障の存在を検出すると、警告またはエラーが生成され、[アプリケーションの要件チェックの警告] ウィンドウが開きます。

- 12 [続行] をクリックします。[アプリケーションのメンテナンス] ページが開きます。



- 13 [メンテナンスの選択] の下で、[アンインストール] が選択済みになっていることを確認してから、[次へ] をクリックします。[プレアンインストールの概要] ページが開きます。
- 14 [アンインストール] をクリックします。[アンインストール] ページが開きます。アンインストールが完了した後、[削除] ダイアログボックスが表示されます。
- 15 [はい] をクリックして、HP SH Reporter ディレクトリを削除します。[アンインストールの完了] ページが開きます。
- 16 [完了] をクリックしてアンインストールを完了します。

17 Sybase IQ ディレクトリを参照し、HP-SHR フォルダが削除されたかどうかを確認します。フォルダが存在する場合、手動で削除します。

18 [システムの再起動]メッセージボックスで[はい]をクリックし、システムを再起動します。


Sybase IQ サーバーをリモートシステムから正常にアンインストールしました。

HP SH Reporter の手動アンインストール

停電やハードウェアの故障などの不測の事態が原因で HP SH Reporter のインストールが失敗した場合、次の手順を実行し、既存の HP SH Reporter インストールシステムを手動でクリーンアップしてから新規のインストールに進むことができます。

タスク 1: すべての HP SH Reporter サービスの停止

- 1 管理者としてホストシステムにログオンします。
- 2 [スタート]→[ファイル名を指定して実行]をクリックします。[ファイル名を指定して実行]ダイアログボックスが開きます。
- 3 **services.msc** を [名前] フィールドに入力してから、[ENTER] キーを押します。[サービス]ウィンドウが開きます。
- 4 以下のサービスを右クリックし、[停止]を選択してサービスを停止します。
 - HP SH Reporter Message Broker
 - HP SH Reporter
 - HP SH Reporter IM Service
 - HP SH Reporter DB Logger Service
 - HP SH Reporter Collection Service
 - HP SH Reporter Timer
 - HP SH Reporter Sybase Service
 - Sybase IQ Agent 15.2

 リモートシステムに Sybase IQ をインストールしていた場合、そのリモートシステムで Sybase IQ Agent 15.2 サービスを停止する必要があります。
- 5 [サービス]ウィンドウを閉じます。

タスク 2: SAP BOBJ および MySQL の削除

- 1 Windows デスクトップで、[**スタート**] → [**設定**] → [**コントロール パネル**] をクリックします。
- 2 [**コントロール パネル**] ウィンドウの [**プログラムの追加と削除**] をクリックします。
- 3 [**プログラムの追加と削除**] ダイアログボックスで、[**SAP BusinessObjects Enterprise XI 3.1 SP3**] をクリックしてから、[**変更 / 削除**] をクリックし、SAP BOBJ Enterprise をアンインストールします。
- 4 アンインストールウィザードの指示に従って、アンインストールを完了します。
- 5 [**プログラムの追加と削除**] ダイアログボックスで、[**SAP BusinessObjects Enterprise XI 3.1 FP 3.5**] をクリックしてから、[**変更 / 削除**] をクリックし、SAP BOBJ Enterprise をアンインストールします。
- 6 アンインストールウィザードの指示に従って、アンインストールを完了します。
- 7 SAP BOBJ Enterprise を正常にアンインストールし終わったら、[**プログラムの追加と削除**] ダイアログボックスで、[**MySQL Server 5.1**] をクリックしてから、[**変更 / 削除**] をクリックします。
- 8 アンインストールウィザードの指示に従って、アンインストールを完了します。

タスク 3: Sybase IQ の削除

- 1 Windows デスクトップで、[**スタート**] → [**設定**] → [**コントロール パネル**] をクリックします。
- 2 [**コントロール パネル**] ウィンドウの [**プログラムの追加と削除**] をクリックします。
- 3 [**プログラムの追加と削除**] ウィンドウで [**Sybase IQ 15.2 (64-bit)**] をクリックしてから、[**変更/削除**] をクリックし、Sybase IQアプリケーションを削除します。
- 4 InstallShield ウィザードメッセージボックスで [**OK**] をクリックします。
- 5 次に表示された InstallShield ウィザードメッセージボックスで [**OK**] をクリックします。
- 6 [**開く**] ダイアログボックスで、%PMDB_HOME%\.\Sybase\jvmIQ\bin フォルダを参照し、java.exe を選択してから、[**開く**] をクリックします。
- 7 Sybase IQ アンインストールウィザードで、[ようこそ] ページの [**次へ**] をクリックします。
- 8 削除しようとしている機能が選択済みであることを確認してから、[**次へ**] をクリックします。
- 9 [**次へ**] をクリックしてから [**アンインストール**] をクリックします。

- 10 [Remove Existing File] メッセージボックスで、[すべてはい] をクリックします。
- 11 [Restore Environment Variable] メッセージボックスで、[すべてはい] をクリックします。
- 12 [終了] をクリックしてアンインストールプロセスを完了します。
- 13 [Yes, restart my computer] オプションを選択してから、[終了] をクリックし、システムを再起動します。

タスク 4: Windows レジストリエントリの削除

このタスクは、他の HP 製品がシステムにインストールされていない場合のみ実行します。

- 1 Windows デスクトップで、[スタート] → [ファイル名を指定して実行] をクリックします。
- 2 [ファイル名を指定して実行] ダイアログボックスに **regedit** と入力し、[ENTER] キーを押します。[レジストリエディター] ウィンドウが開きます。
- 3 [HKEY_LOCAL_MACHINE] を展開し、[Software] を展開してから、[Hewlett-Packard] を展開します。
- 4 [BSM] を展開し、[HP OpenView] を展開します。これらのフォルダーの下に一覧表示されている各コンポーネントは手動で削除する必要があります。
- 5 フォルダーをクリックし、パッケージ名と製品コードを書き留めます。

タスク 5: HP SH Reporter コンポーネントの削除

- 1 コンポーネントをアンインストールするには、Windows デスクトップで、[スタート] → [ファイル名を指定して実行] をクリックします。
- 2 [ファイル名を指定して実行] ダイアログボックスに **cmd** と入力し、[ENTER] キーを押します。[コマンドプロンプト] ウィンドウが開きます。
- 3 [コマンドプロンプト] に以下のコマンドを入力し、コンポーネントをアンインストールします。

msiexec /x <製品コード値>

ここでの <製品コード値> は、個々のコンポーネント別に [レジストリエディター] ウィンドウの右ペインに一覧表示されている値です。たとえば、HPPmdbMsgBus コンポーネントをアンインストールするには、次のように入力します。

msiexec /x {F44672D8-C8A9-45F6-A215-C9CF138E6ED1}

BSM および HP OpenView の下一覧表示されているすべてのコンポーネントに対して、この手順を実行します。

タスク 6: 個々の環境変数の削除

- 1 [コントロールパネル] ウィンドウで、[**システム**] をダブルクリックします。
[システムのプロパティ] ダイアログボックスが開きます。
- 2 [**詳細設定**] タブをクリックしてから、[**環境変数**] ボタンをクリックします。
[環境変数] ダイアログボックスが開きます。
- 3 以下の変数を削除します。
 - IQDIR15
 - IQLOGDIR15
 - IQPORT
 - OvInstallDir
 - PMDB_HOME
 - SYBASE
 - SYBASE_JRE6_64
 - SYBROOT
- 4 HP SH Reporter に関連しているものをすべて削除することによって、**PATH** 環境変数を編集します。

タスク 7: HP SH Reporter フォルダの削除

- 1 HP SH Reporter インストールディレクトリに移動します。
- 2 すべてのフォルダを削除します。

タスク 8: システムの再起動

9 HP SH Reporter インストールのトラブルシューティング

インストールのログファイル

HP SH Reporter またはコンテンツパックのインストール中に問題が生じた場合、インストールの失敗を知らせるエラーメッセージが **HP Software Installer** で生成されます。ただし、そのエラーメッセージに、問題の解決に役立つ必要な情報がすべて示されるとは限りません。別の方法として、トラブルシューティングツールの1つとして、インストールログファイルを使用することもできます。

HP SH Reporter ログファイル

HP SH Reporter のインストールログファイルは、以下の場所に置かれています。

```
%temp%\¥..¥HPOvInstaller¥HP-SHR_9.10¥
```

このログファイルには、タイムスタンプが付加されています。

以下に例を示します。

- HP-SHR_9.10_2010.02.12_17_26_HPOvInstallerLog.html
- HP-SHR_9.10_2010.02.12_17_26_HPOvInstallerLog.txt

コンテンツパック別のログファイルを表示するには、%PMDB_HOME%\log¥ フォルダーに移動し、packagemanager.log ファイルを開きます。

SAP BusinessObjects Enterprise のログファイル

SAP BusinessObjects のインストールログファイルには、以下の場所からアクセスできます。

- <SAP BOBJ Install Directory>¥BusinessObjects Enterprise 12.0¥Logging¥BOEInstall_0.log

- <SAP BOBJ Install Directory>\BusinessObjects Enterprise 12.0\Logging\BOE_FP_3_5_Install_0.log

Sybase IQ のログファイル

Sybase IQ インストールディレクトリ内のエラーログファイルを表示して、インストールの失敗の原因を突き止めます。**Sybase IQ** は、システムのブート時と **Sybase** エラーの発生時にその都度このファイルにメッセージを書き込みます。このエラーログファイルは、以下の場所に置かれています。

```
%USERPROFILE%\IQ15Console.log
```

Sybase IQ をリモートでインストールした場合、このログファイルは以下の場所に置かれています。

```
%temp%\..\HPOvInstaller\HP-SHR-SybaseIQ_9.10\
```

このログファイルには、タイムスタンプが付加されています。

以下に例を示します。

- HP-SHR-SybaseIQ_9.10_2010.09.16_08_45_HPOvInstallerLog.html
- HP-SHR-SybaseIQ_9.10_2010.09.16_08_45_HPOvInstallerLog.txt

問題の原因を識別し終わったら、**Sybase IQ** の資料を参照して訂正します。最新のヘルプドキュメントは、**www.sap.com** を参照してください。

MySQL のログファイル

MySQL のインストールログファイルには、以下の場所からアクセスできます。

```
%temp%\mysql-install.log
```

インストール後の設定ログファイル

以下のログファイルは、インストール後の設定フェーズ中に実行された操作の詳細を示します。

インストール後のログファイル

```
%PMDB_HOME%\log\postinstallconfig.log
```

このログファイルには、以下が書き込まれています。

- Sybase IQ 上でのデータベーススキーマの作成に関する詳細。
- MySQL 上での HP SH Reporter 管理データベーススキーマの作成に関する詳細。

HP SH Reporter サービスのログファイル

これは、HP SH Reporter サービスのコンソールログです。

- BSMRCollectionService.log ログファイル (HP SH Reporter Collection Service 用)。
- BSMRDBLoggerService.log ログファイル (HP SH Reporter DB Logger Service 用)。
- BSMRIMService.log ログファイル (HP SH Reporter IM Service 用)。
- Trend.log ログファイル (HP SH Reporter Timer サービス用)。


HP SH Reporter ログファイル

```
%PMDB_HOME%\log\BSMRApp.log
```

これは、HP SH Reporter コンポーネントによって生成されたすべてのエラーメッセージおよび致命的メッセージを格納する統合ログファイルです。

インストール問題のトラブルシューティング

問題 : Sybase IQ データベースのクラッシュに関する問題

HP SH Reporter に搭載されている Sybase IQ は、場合によっては製品の実行時にクラッシュすることがあります。このクラッシュが発生した場合、管理コンソールの [ホーム] ページでは、該当データベースのステータスに  アイコンが表示されます。さらに、クラッシュ後は、HP SH Reporter Sybase Service が [サービス] ウィンドウで実行中であっても、Windows タスクマネージャーのプロセス一覧に Sybase IQ プロセス (iqsrv15.exe) は表示されません。

解決方法：このクラッシュシナリオに関する既知の解決方法はありません。ただし、HP SH Reporter には Sybase IQ 再起動スクリプトファイル SHRIQFix.bat が備えられています。これは、Sybase IQ が停止したかどうかをチェックし、クラッシュのたびにデータベースを自動的に再起動します。タスクウィザードを使用して、このファイルの実行を手動でスケジュールする必要があります。このスクリプトファイルは、%PMDB_HOME%\bin フォルダに置かれます。

このスクリプトファイルは、リモートシステムにインストールされた Sybase IQ に対しては効果はありません。その場合、Sybase IQ がクラッシュしたかどうかを検証してから、[サービス] ウィンドウからデータベースを手動で再起動する必要があります。

HP SH Reporter と Sybase IQ がインストールされたシステムで再起動スクリプトファイルスケジュールするには、次の手順を実行します。

- 1 [**スタート**] → [**プログラム**] → [**アクセサリ**] → [**システム ツール**] → [**タスク**] をクリックします。[**タスク**] ウィンドウが開きます。
- 2 [**スケジュールされたタスクの追加**] をダブルクリックします。タスクウィザードが開きます。
- 3 [**次へ**] ボタンをクリックして先に進みます。
- 4 次のページで [**参照**] をクリックします。[**実行するプログラムを選択してください**] ウィンドウが開きます。
- 5 %PMDB_HOME%\bin フォルダに移動し、SHRIQFix.bat を選択してから [**開く**] をクリックします。
- 6 [**次へ**] ボタンをクリックして先に進みます。
- 7 次のページで、タスクの名前をテキストボックスに入力してから、[**このタスクの実行**] の下の [**日単位**] を選択します。[**次へ**] をクリックして先に進みます。
- 8 次のページで、実行するタスクの開始時刻、開始日、および頻度を指定します。[**次へ**] をクリックして先に進みます。
- 9 次のページで、ご自分の Windows ユーザー資格情報を入力してから、[**次へ**] をクリックします。
- 10 次のページで、[[**完了**] をクリックしたときに詳細プロパティを開く] チェックボックスを選択してから、[**完了**] をクリックします。[**詳細プロパティ**] ダイアログボックスが開きます。
- 11 [**スケジュール**] タブをクリックしてから、[**詳細設定**] をクリックします。[**スケジュール オプションの詳細設定**] ダイアログボックスが開きます。
- 12 [**タスクを繰り返し実行**] を選択してから、タスクを実行する時刻を [**間隔**] フィールドに指定します。
- 13 [**OK**] をクリックして、[**スケジュール オプションの詳細設定**] ダイアログボックスを閉じます。
- 14 [**OK**] をクリックして、[**詳細プロパティ**] ダイアログボックスを閉じます。

問題：仮想マシンで環境変数が設定されない

HP SH Reporter を仮想マシンにインストールし、インストール後にそのマシンを再起動しない場合、インストーラーによって設定された環境変数をユーザーは使用できません。

解決方法：HP SH Reporter のインストール後、仮想マシンを再起動します。

問題：あるセッションで設定した環境変数が、他のセッションで表示されない

インストール時に設定した環境変数が、インストール後セッション時には表示されません。それが原因で、インストール後の設定とコンテンツパックのインストールが失敗する可能性があります。

解決方法：この問題が起きるのは、1 つのターミナルサービスクライアントセッション時に HP SH Reporter がインストールされてから、別のターミナルサービスクライアントセッション時にインストール後の設定タスクが試みられた場合のみです。

これを解決するには、次の手順を実行します。

- 1 現在のセッションで、デスクトップの [**マイ コンピューター**] を右クリックしてから、[**プロパティ**] をクリックします。[システムのプロパティ] ダイアログボックスが開きます。
- 2 [**詳細設定**] タブをクリックします。
- 3 [**環境変数**] をクリックします。[環境変数] ダイアログボックスが開きます。
- 4 [**OK**] をクリックします。
- 5 [システムのプロパティ] ダイアログボックスで [**OK**] をクリックします。

問題：データベーススキーマの作成にかなり時間がかかる

インストール後の設定段階で、必要な値を入力した後に管理コンソールの [データベーススキーマの作成] ページの [次へ] ボタンをクリックしても何もアクティビティが起きないで、ユーザーはプロセスの完了を長時間待つ必要があります。

解決方法：Web ブラウザのキャッシュをクリアして、ページを再読み込みし、手順を再度実行します。

問題：コンテンツパックのインストールが失敗する

コンテンツパックのインストールが失敗した場合、インストールの失敗が管理コンソールに表示されます。ただし、失敗したコンテンツパックのデータ処理ストリームが管理コンソール内で更新されることはありません。

解決方法：この問題を解決するには、失敗したコンテンツパックをアンインストールする必要があります。その手順については、135 ページ、「コンテンツパックのアンインストール」を参照してください。

問題：コンテンツパックのアンインストールが失敗する

コンテンツパックを削除しようとしたとき、アンインストールプロセスが失敗し、以下のエラーメッセージが表示されます。

```
SQL Anywhere Error -210:User 'pmdb_admin' has the row in  
'<table_name>' locked
```

この失敗が起きるのは、データベースステージテーブルに対して1つ以上のデータベース接続が共有ロックをかけている場合です。

解決方法：次の手順を実行します。

- 1 管理者としてホストシステムにログオンします。
- 2 [スタート] → [プログラム] → [管理ツール] → [サービス] をクリックします。
[サービス] ウィンドウが表示されます。
- 3 右のペインで、以下のサービスを右クリックし、[停止] をクリックしてサービスを停止します。
 - HP SH Reporter Collection Service
 - HP SH Reporter Timer
- 4 デスクトップの通知バーにある Sybase IQ サーバーアイコンを右クリックしてから、[<ホスト名>のシャットダウン] をクリックします。

Sybase IQ サーバーアイコンが通知バーに表示されていない場合、以下のコマンドをコマンドプロンプトウィンドウに入力し、Sybase IQ をシャットダウンします。

```
dbstop -y -c uid=dba;pwd=sql;eng=<サーバーエンジン名>;  
dbn=utility_db;links=tcPIP{host=<ホスト名>.<ドメイン名>;  
port=21424}
```

ここでの < サーバーエンジン名 > は Sybase サーバーエンジンの名前を示し、< ホスト名 > は HP SH Reporter データベースをホスティングするシステムの名前を示し、< ドメイン名 > はネットワーク構成に従ったドメインの名前です。

- 5 Sybase IQ サービスを再起動するには、[サービス] ウィンドウで [HP SH Reporter Sybase Service] を右クリックしてから、[開始] をクリックします。

▶ Sybase IQ をリモートでインストールしていた場合、リモートシステム上に作成した Sybase Service を開始する必要があります。

次のように、すべてのアクティブなストリームが実行を完了するまで待機します。

- 1 [スタート] → [ファイル名を指定して実行] をクリックします。[ファイル名を指定して実行] ダイアログボックスが開きます。
- 2 cmd を [名前] フィールドに入力してから、[ENTER] キーを押します。[コマンドプロンプト] ウィンドウが開きます。
- 3 以下のコマンドを入力し、ジョブストリームの読み込みを一時停止します。
`abcAdminUtil -pause -type loadBatch`
- 4 次のように、すべての読み込み済みジョブストリームが実行を完了するまで待機します。
- 5 次のコマンドを入力して、ステータスをチェックします。
`abcMonitor -stream ID=ALL, state=active`

テーブルがロックされているかどうかを検証するには、次の手順を実行します。

- 1 [スタート] → [プログラム] → [Sybase] → [Sybase IQ 15.2] → [Interactive SQL Java] をクリックします。Interactive SQL Java コンソールが開きます。
- 2 [接続] ダイアログボックスで、[ID] タブ上の [ユーザ ID とパスワードを指定] を選択します。
- 3 ユーザー名とパスワードを入力し、[OK] をクリックします。
- 4 [SQL 文] の下に `sp_iqlocks` と入力してから、[すべての SQL 文の実行] ボタンをクリックし、コマンドを実行します。

ロックされているテーブルがある場合、すべてのワークフローストリームが完了するまで数分間待ってから、コマンドをもう一度実行します。ロックされているテーブルがない場合、コンテンツパックの削除を先に進めることができます。

問題 : Sybase IQ のアンインストールが失敗する

HP SH Reporter をアンインストールしても、Sybase IQ 15.2 (64 ビット t) ESD 2 が削除されません。

解決方法：次の手順を実行します。

- 1 Windows デスクトップで、[**スタート**] → [**設定**] → [**コントロール パネル**] をクリックします。
- 2 [**コントロール パネル**] ウィンドウの [**プログラムの追加と削除**] をクリックします。
- 3 [**プログラムの追加と削除**] ウィンドウで [**Sybase IQ 15.2 (64-bit)**] をクリックしてから、[**変更 / 削除**] をクリックし、**Sybase IQ** アプリケーションを削除します。
- 4 **InstallShield** ウィザードメッセージボックスで [**OK**] をクリックします。
- 5 次に表示された **InstallShield** ウィザードメッセージボックスで [**OK**] をクリックします。
- 6 [**開く**] ダイアログボックスで、%PMDB_HOME%\%.¥Sybase¥_jvmIQ¥bin フォルダを参照し、**java.exe** を選択してから、[**開く**] をクリックします。
- 7 **Sybase IQ** アンインストールウィザードで、[ようこそ] ページの [**次へ**] をクリックします。
- 8 削除しようとしている機能が選択済みであることを確認してから、[**次へ**] をクリックします。
- 9 [**次へ**] をクリックしてから [**アンインストール**] をクリックします。
- 10 [**Remove Existing File**] メッセージボックスで、[**すべてはい**] をクリックします。
- 11 [**Restore Environment Variable**] メッセージボックスで、[**すべてはい**] をクリックします。
- 12 [**終了**] をクリックしてアンインストールプロセスを完了します。
- 13 [**Yes, restart my computer**] オプションを選択してから、[**終了**] をクリックし、システムを再起動します。

問題：ネイティブ Windows インストーラーのエラーでインストールが失敗する

HP SH Reporter のインストール時に、インストールプロセスが停止し、以下のエラーメッセージが表示されます。

Unable to proceed with installation since the required native installer check failed (必要なネイティブのインストーラーチェックに失敗したため、インストールを先に進めることができません)。

解決方法：この問題が起きるのは、ネイティブの **Windows** インストーラーファイルが損傷しているか欠落している場合や、**Windows** インストーラーサービスが未登録であるかまたは損傷を受けている場合です。この問題を解決するには、**Windows** インストーラーを再登録する必要があります。**Windows** インストーラーをいったん登録解除してから登録し直せば、**Windows** のインストール上の問題の多くが解決します。次の手順を実行します。

- 1 [**スタート**] → [**ファイル名を指定して実行**] をクリックします。[**ファイル名を指定して実行**] ダイアログボックスが開きます。

- 2 [名前] フィールドに **cmd** と入力し、**[ENTER]** キーを押します。[コマンドプロンプト] ウィンドウが開きます。
- 3 コマンドプロンプトに以下のコマンドを入力し、**Windows** インストーラーの登録を解除します。
msiexec /unregister
- 4 以下のコマンドを入力し、**Windows** インストーラーを再登録します。
msiexec /regserver

問題 : SAP BOBJ のエラーでインストールが失敗する

HP Software Installer の実行中に、インストールが失敗し、以下のエラーメッセージが表示されます。

SAP BusinessObjects はシステムにインストールされています。SAP BusinessObjects をアンインストールしてから、HP SH Reporter をインストールしてください。

解決方法 : SAP BOBJ や Sybase IQ などの、HP SH Reporter で使用するコンポーネントがすでにシステムにインストールされている場合、インストーラーは製品に同梱されているコンポーネントのインストールを試みるので、**HP SH Reporter** のインストールは失敗します。

この問題を解決するには、既存のコンポーネントをシステムから削除し、インストーラーをもう一度実行する必要があります。

問題 : リモート Sybase IQ データベースの作成が失敗する

HP Service Health Reporter 構成ウィザードで、**Sybase** データベースファイルをリモートシステム上で作成しようとする時、インストール後処理が失敗し、以下のエラーメッセージが表示されます。

```
<タイムスタンプ>,690 INFO,  
com.hp.bto.bsmr.dao.helper.CreateSybaseIQDatabase.logDBLoginInfo,  
Database Info [username->dba;serverName-><サーバー名>  
_remote;Dbhostname-><ホスト名>;port->21421]  
<time stamp>,018 ERROR,  
com.hp.bto.bsmr.dao.helper.CreateSybaseIQDatabase.executeSQL,  
Could not connect to the database (<タイムスタンプ>,018 ERROR,  
com.hp.bto.bsmr.dao.helper.CreateSybaseIQDatabase.executeSQLは  
データベースに接続できませんでした )
```

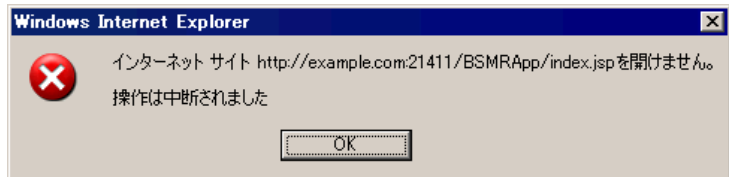
```
<time stamp>0.049 ERROR,  
com.hp.bto.bsmr.dao.helper.CreateSybaseIQDatabase.executeSQL,  
Specified database not found (<タイムスタンプ>,0.049 ERROR,  
com.hp.bto.bsmr.dao.helper.CreateSybaseIQDatabase.executeSQL。指  
定されたデータベースは見つかりませんでした)
```

```
<タイムスタンプ>,081 ERROR,  
com.hp.bto.bsmr.dao.helper.CreateSybaseIQDatabase.executeSQL ,  
SQLCODE=-83, ODBC 3 State="08001"
```

解決方法: このエラーが起きるのは、HP Service Health Reporter 構成ウィザードに指定したデータベースファイルの場所で、ファイルパス内にスペースが入っている場合です。この問題を解決するには、リモートシステムで、指定したデータベースファイル場所がリモートシステム上に存在することを確認します。それ以外に、インストール後ウィザードに指定したパスにスペースが入っていないことを確認します。

問題: 管理コンソールにログオンできない

管理コンソールのログイン画面にユーザー資格情報を入力して [ログイン] ボタンをクリックした後、以下のエラーメッセージが表示されます。



解決方法: この問題を解決するには、次の手順を実行します。

- 1 メッセージボックスの [OK] をクリックします。
- 2 次のように、Web ブラウザキャッシュをクリアします。
 - a Internet Explorer のメニューバーで、[ツール] をクリックしてから、[インターネット オプション] をクリックします。[インターネット オプション] ダイアログボックスが開きます。
 - b [全般] タブが表示されていることを確認します。
 - c [閲覧の履歴] の下で、[削除] をクリックします。[閲覧の履歴の削除] ダイアログボックスが開きます。
 - d [インターネット一時ファイル] セクションの [ファイルの削除] をクリックします。
 - e [閉じる] をクリックしてから [OK] をクリックします。これでキャッシュはクリアされたはずですが。

- 3 [ログイン名]および[パスワード]フィールドにユーザー資格情報を再度入力します。
- 4 [ログイン]をクリックします。管理コンソールが開きます。

問題：ウイルス対策ソフトウェアで MySQL エラーが起きる

一部のウイルス対策ソフトウェアの存在により、MySQL エラーが生じ、以下のメッセージが %OvInstallDir%\¥MySQL¥< ホスト名 >.err ファイルにログ記録されます。

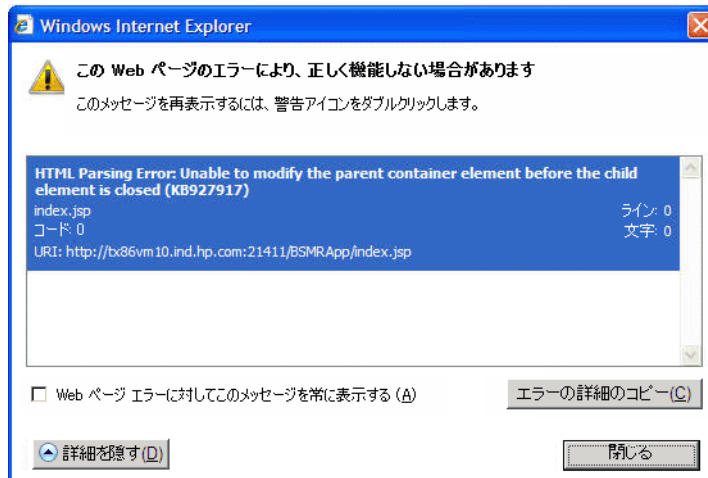
InnoDB: Operating system error number 8 in a file operation (ファイル操作でのオペレーティングシステムエラー番号 8)。

解決方法：オペレーティングシステムエラー番号 8 は、コマンドを処理するのに十分な記憶域がないことを示します。このエラーの詳細は、<http://dev.mysql.com/doc/refman/5.1/en/operating-system-error-codes.html> を参照してください。

この問題を解決するには、**IRPStackSize** のレジストリエントリを変更する必要があります。この問題の原因と解決のための手順の詳細は、<http://support.microsoft.com/kb/177078> の Microsoft KB 記事を参照してください。

問題：管理コンソールの動作が断続的になる

場合によっては管理コンソールが正しく稼働しないことがあります。コンソールを開いた後、次のような Windows エラーメッセージが表示されます。



解決方法：この問題を解決するには、Web ブラウザキャッシュをクリアする必要があります。

A 付録

この付録では、HP SH Reporter に関連する追加の情報を提供します。

コンテンツパックの依存関係

以下の表に、コンテンツパックおよびそれぞれの依存関係（選択したコンテンツパックと共にインストールする必要があるコアファイル）を示します。

| コンテンツパック | 依存関係 |
|---------------------|--|
| Active_Directory | CMDBCore、System_Management |
| Application_Server | Core、 Virtual_Env_Management_PA |
| Appserver_Weblogic | Core、System_Management、OM、 Application_Server |
| Appserver_WebSphere | Core、System_Management、OM、 Application_Server |
| BPM | CMDBCore、System_Management、 Real_User_Monitor |
| CMDBCore | Core |
| Core | 依存関係なし |
| Database_MSSQL | CMDBCore、 Virtual_Env_Management_PA |
| Database_Oracle | CMDBCore、 Virtual_Env_Management_PA |

| コンテンツパック | 依存関係 |
|---|--|
| Exchange_Server | CMDBCore、System_Management |
| OM | CMDBCore |
| OMi | CMDBCore、Core_BSM |
| Core_BSM | Core、CMDBCore |
| Real_User_Monitor | CMDBCore、 Virtual_Env_Management_ESX_SiS _Coda、 Virtual_Env_Management_ESX_PA、 BPM |
| System_Management | CMDBCore |
| System_Management_PA | CMDBCore、System_Management |
| System_Management_SiS | CMDBCore、System_Management |
| System_Management_SiS_Coda | CMDBCore、 System_Management_SiS |
| Virtual_Env_Management_PA | System_Management_PA |
| Virtual_Env_Management_ESX_PA | Virtual_Env_Management_PA |
| Virtual_Env_Management_ESX_SiS _Coda | Virtual_Env_Management_ESX_PA、 System_Management_SiS_Coda |

サポートされる HP 製品

このセクションでは、サポートされる HP 製品の一覧を示します。HP SH Reporter は以下のデプロイメントシナリオでこれらの製品から各コンテンツパックのデータを収集することができます。

Service and Operations Bridge

このデプロイメントシナリオでは、RTSM が、HP SH Reporter のトポロジー情報のソースになります。次の表に、サポートされるコンテンツパック統合の一覧を示します。

| コンテンツパック | 統合される製品 | 詳細 |
|---|---|---|
| System_Management_PA System_Management_SiS_Coda Virtual_Env_Management_ESX_SiS_Coda Virtual_Env_Management_ESX_PA Virtual_Env_Management_PA | HP Performance Agent SiteScope HP Operations Agent Systems Infrastructure Smart Plug-in (SPI) Virtualization Infrastructure SPI | システム管理および仮想化データのデータソース。 Systems Infrastructure SPI および Virtualization Infrastructure SPI は、CI の検出のために必要です。 |
| BPM | ビジネスプロセスモニター | ビジネスプロセスモニターによって監視されるアプリケーションのデータソース。 |
| Real_User_Monitor | Real User Monitor | Real User Monitor によって監視されるアプリケーションのデータソース。 |
| OM | HPOM for Unix HPOM for Linux HPOM for Solaris HPOM for Windows | HPOM からのイベントのデータソース。 |
| OMi | BSM オペレーション管理 (OMi) | OMi からのイベントのデータソース。 |
| Core_BSM | BSM サービス状況 | BSM サービス状況からの主要パフォーマンス指標 (KPI) および状況インジケータ (HI) のデータソース。 |

| コンテンツパック | 統合される製品 | 詳細 |
|---------------------|-----------------------------------|---|
| Exchange_Server | Microsoft Exchange Server SPI | Microsoft Exchange Server からのアプリケーションデータのデータソース。 |
| Database_Oracle | Oracle Database SPI | Oracle データベースからのアプリケーションデータのデータソース。 |
| Database_MSSQL | Microsoft SQL Server Database SPI | Microsoft SQL Server からのアプリケーションデータのデータソース。 |
| Appserver_WebSphere | WebSphere SPI | WebSphere Application Server からのアプリケーションデータのデータソース。 |
| Appserver_Weblogic | WebLogic SPI | WebLogic Application Server からのアプリケーションデータのデータソース。 |
| Active Directory | Microsoft Active Directory SPI | Microsoft Active Directory からのアプリケーションデータのデータソース。 |

Application Performance Management

このデプロイメントシナリオでは、RTSM が、HP SH Reporter のトポロジー情報のソースになります。次の表に、サポートされるコンテンツパック統合の一覧を示します。

| コンテンツパック | 統合される製品 | 詳細 |
|---|---|--|
| System_Management_SiS_Coda Virtual_Env_Management_ESX_SiS_Coda | SiteScope | システム管理および仮想化データのデータソース。 |
| OM | HPOM for Unix HPOM for Linux HPOM for Solaris HPOM for Windows | HPOM からのイベントのデータソース。 |
| BPM | ビジネスプロセスモニター | ビジネスプロセスモニターによって監視されるアプリケーションのデータソース。 |
| Real_User_Monitor | Real User Monitor | Real User Monitor によって監視されるアプリケーションのデータソース。 |
| Core_BSM | BSM サービス状況 | BSM サービス状況からの主要パフォーマンス指標 (KPI) および状況インジケータ (HI) のデータソース。 |

HPOM

HPOM のデプロイメントシナリオでは、HPOM データベースサーバーが、HP SH Reporter のトポロジー情報のソースになります。次に、サポートされるコンテンツパック統合を示します。

| コンテンツパック | 統合される製品 | 詳細 |
|---|--|---|
| System_Management_PA Virtual_Env_Management_E SX_PA | HP Performance Agent HP Operations Agent Systems Infrastructure Smart Plug-in (SPI) Virtualization Infrastructure SPI | システム管理および仮想化データのデータソース。 Systems Infrastructure SPI および Virtualization Infrastructure SPI は、CI の検出のために必要です。 |
| OM | HPOM for Unix HPOM for Linux HPOM for Solaris HPOM for Windows | HPOM からのイベントのデータソース。 |
| Exchange_Server | Microsoft Exchange Server SPI | Microsoft Exchange Server からのアプリケーションデータのデータソース。 |
| Database_Oracle | Oracle Database SPI | Oracle データベースからのアプリケーションデータのデータソース。 |
| Database_MSSQL | Microsoft SQL Server Database SPI | Microsoft SQL Server からのアプリケーションデータのデータソース。 |

| コンテンツパック | 統合される製品 | 詳細 |
|---------------------|--------------------------------|---|
| Appserver_WebSphere | WebSphere SPI | WebSphere Application Server からのアプリケーションデータのデータソース。 |
| Appserver_Weblogic | WebLogic SPI | WebLogic Application Server からのアプリケーションデータのデータソース。 |
| Active Directory | Microsoft Active Directory SPI | Microsoft Active Directory からのアプリケーションデータのデータソース。 |

一覧に記載された製品のサポートされるバージョンについては、『**HP Service Health Reporter Software Support Matrix**』を参照してください。

お客様からのご意見をお待ちしております。

このシステムで電子メールクライアントが設定されている場合は、

[電子メールの送信](#) をクリックしてください。

電子メールクライアントを利用できない場合、Web メールクライアントで以下の事項を新規メッセージにコピーし、そのメッセージを **docfeedback@hp.com** にお送りください。

製品名およびバージョン：HP Service Health Reporter 9.10

ドキュメントのタイトル：インストールおよび設定ガイド

フィードバック：



